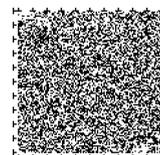


藤沢市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

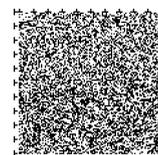
2019年(平成31年)3月

藤 沢 市



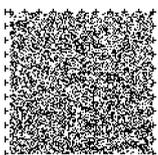
目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査項目	3
4. 調査結果を見る上での注意事項	4
5. 調査結果の概要	5
第2章 調査結果の詳細	15
基本属性	17
（1）性別	17
（2）年齢	17
（3）結婚の有無	17
（4）配偶者・パートナーの就労状況と雇用状態	17
（5）子どもの有無	18
（6）一番下の子どもの年齢区分	18
（7）介護が必要な同居家族の有無	18
（8）同居の家族構成	18
A 男女の平等について	19
（1）男女共同参画（社会）という言葉の認知状況	19
（2）各分野における男女の地位・立場について	20
（3）今後男女があらゆる分野で平等になるためにもっとも重要と思うこと	33
B 家庭生活について	34
（1）「男は仕事、女は家庭」という考え方について	34
（2）「女性が職業をもつこと」についての考え	36
（3）家庭における役割分担についての考え	39
（4）家庭における役割分担の状況	50
C 仕事と家庭の両立について	52
（1）就業状況	52
（2）就業形態	52
（3）雇用形態	53
（4）実労働時間	53
（5）通勤時間（往復）	54
（6）産前産後休暇、育児休業、看護休暇、介護休業の取得の有無と取得希望	55
（7）取得時の勤務先の対応（取得前・取得中・取得後）	62
（8）以前の職業をやめた理由	64

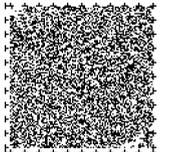


(9) 自らの能力を発揮していきいきと働くために必要だと思うこと	65
(10) 生活や身の回りの環境の5年前との比較	67
(11) 介護休業・介護休暇の制度改正の認知状況	72
(12) 男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由	73
(13) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと	75
D 女性の活躍推進について	77
(1) 女性の活躍を進めたことによる影響	77
(2) 女性の活躍を進めるために必要なこと	79
E 社会参画について	81
(1) ボランティア活動や地域活動への参加状況	81
(2) ボランティア活動や地域活動をしていない理由	83
(3) ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと	85
F 性の多様性について	87
(1) セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知状況	87
(2) 身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験	87
(3) セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか	88
(4) セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策	89
G 男女の人権について	90
(1) メディアにおける性表現・暴力表現についての考え	90
(2) 配偶者・パートナー間での暴力について	95
(3) 「デートDV」という言葉の認知状況	98
(4) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの経験	99
(5) 配偶者・恋人間での暴力に関する経験	101
(6) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント等の被害を受けた際の相談の有無	103
①相談の有無	103
②相談先	104
③相談しなかった理由	105
(7) DV等の相談先として知っているもの	106
(8) 「DV相談窓口案内カード」の認知状況	107
(9) DVを防ぐために重要だと思うこと	109
H 男女共同参画に必要な施策について	111
(1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況	111
(2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと	112
(3) 男女共同参画社会を実現していくためにできること	114

調査票	117
-----	-----



第1章 調査の概要



1. 調査実施の目的

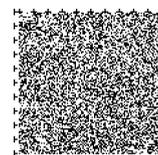
男女共同参画の状況について市民の意識を明らかにし、男女共同参画社会実現に向けて解決すべき問題点を把握し、次期「ふじさわ男女共同参画プラン」の策定や今後の男女共同参画施策のための基礎資料とする。

2. 調査方法と回収状況

調査地域	藤沢市全域
調査対象	藤沢市在住の満18歳以上の男女3,000名
対象者抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収方式
調査期間	2018年（平成30年）11月12日（月）～11月30日（金）
有効回収数	1,149人
有効回収率	38.3%

3. 調査項目

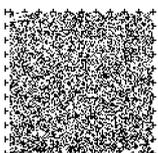
調査項目	
A. 男女の平等について	<ul style="list-style-type: none">・男女共同参画(社会)という言葉の認知状況・各分野における男女の地位・立場の平等感について・今後男女があらゆる分野で平等になるためにもっとも重要と思うこと
B. 家庭生活について	<ul style="list-style-type: none">・「男は仕事、女は家庭」という考え方について・「女性が職業をもつこと」についての考え・家庭における役割分担についての考え・家庭における役割分担の状況
C. 仕事と家庭の両立について	<ul style="list-style-type: none">・就業状況、就業形態、雇用形態、実労働時間、通勤時間（往復）・産前産後休暇、育児休業、看護休暇、介護休業取得の有無と取得希望・取得時の勤務先の対応（取得前・取得中・取得後）・以前の職業をやめた理由・自らの能力を發揮していきいきと働くために必要だと思うこと・生活や身の回りの環境の5年前との比較・介護休業・介護休暇の制度改正の認知状況・男女ともに育児休業・介護休業取得が進まない理由・ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと
D. 女性の活躍推進について	<ul style="list-style-type: none">・女性の活躍を進めたことによる影響・女性の活躍を進めるために必要なこと
E. 社会参画について	<ul style="list-style-type: none">・地域活動への参加状況、参加をしていない理由・ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと
F. 性の多様性について	<ul style="list-style-type: none">・セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)という言葉の認知状況・身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験・セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか・セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策
G. 男女の人権について	<ul style="list-style-type: none">・メディアにおける性表現・暴力表現についての考え・配偶者・パートナー間での暴力について・「デートDV」という言葉の認知状況・セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの経験・配偶者・恋人間での暴力に関する経験



調査項目	
G. 男女の人権について	<ul style="list-style-type: none"> ・セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント等の被害を受けた際の相談の有無 ・DV等の相談先として知っているもの ・「DV相談窓口案内カード」の認知状況 ・DVを防ぐために重要だと思うこと
H. 男女共同参画に必要な施策について	<ul style="list-style-type: none"> ・「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況 ・男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと ・男女共同参画社会を実現していくためにできること
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ・性別、年齢、結婚の有無、配偶者・パートナーの就労状況と雇用状態、子どもの有無、同居の家族の状況・構成等

4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「N」は、各設問に対する回答者数である。
- ・本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「%」（回答率）をあらわしている。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・今回の調査では、これまでに設けていた年齢上限（満69歳まで）を撤廃した。これは藤沢市において高齢者（65歳以上）の割合が増加傾向であり、市民の意識を広く把握するために必要と判断したためである。
- ・今回の調査では、性別に関する問いの回答に、「その他」を設けた。これは、男性・女性では答えられない方のために設けたものである。
- ・性別の選択肢「その他」の回答数が「2」であったため、報告書中の性別に係るグラフ集計においては、全体数には計上されているが「その他」としての掲載は、「基本属性（1）性別」の箇所以外では行っていない。これは回答の傾向をみるにあたり、十分な母数に達しなかったためである。
- ・掲載している国（内閣府）の調査結果は、内閣府が平成28年度に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」及び平成29年度に実施した「男女間における暴力に関する調査」である。
- ・経年比較は藤沢市が平成25年11月に実施した調査結果による。



5. 調査結果の概要

A 男女の平等について

(1) 男女共同参画（社会）という言葉の認知状況

男女共同参画（社会）という言葉を知っている人は全体では63.2%となっており、前回調査（64.2%）とほぼ同程度である。

性別では、「知っている」は男性（66.5%）が女性（61.3%）をやや上回っている。

(2) 各分野における男女の地位・立場について

各分野における男女の地位・立場の平等感を全体で見ると、「平等になっている」は『学校教育』が6割強となっており、これに『地域生活』が4割強、『法律や制度』が約3割で続いている。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかという、男性のほうが優遇されている」と思う人は、『社会通念・慣習・しきたり』で8割強、『社会全体』、『職場』で7割強となっている。

性別で見ると「平等になっている」は、どの分野でも男性が女性を上回り、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計は、どの分野でも女性が男性を上回っている。

(3) 今後男女があらゆる分野で平等になるためにもっとも重要と思うこと

今後男女があらゆる分野でより平等になるためにもっとも重要と思うことは、全体では、「男女を取巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が男女ともに4割弱ともっとも高く、その他の項目はいずれも1割前後となっている。

B 家庭生活について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

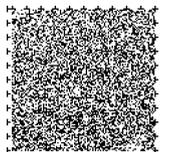
「男は仕事、女は家庭」という考え方については、全体では「反対」「どちらかといえば反対」と考える人が6割強を占め、「賛成」「どちらかといえば賛成」と考える人が4割弱であるのと比較すると、反対と考える人が20ポイント以上多くなっている。

女性は「反対」「どちらかといえば反対」（65.2%）が「賛成」「どちらかといえば賛成」（33.7%）を31.5ポイント上回っているが、男性ではこの差は13.3ポイントと女性より小さくなっている。

(2) 「女性が職業をもつこと」についての考え

「女性が職業をもつこと」については、「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなると再びもつ方がよい」という再就職型を考える人が男女ともに5割を超え、もっとも多くなっている。次いで「ずっと職業をもつ方がよい」という就労継続型を考える人は、男女ともに3割程度となっている。

一方、「結婚するまで職業をもち、後はもたない方がよい」「子どもができるまで職業をもち、後は子育てに専念するためにもたない方がよい」と考える人はわずかとなっている。



(3) 家庭における役割分担についての考え

家庭における役割分担では、「夫妻で協力」は『子育て・子どものしつけ』、『学校行事への参加』、『家庭の重大問題の決定』で7割前後にのぼる。また、『自治会・町内会等への参加』、『掃除・洗濯』、『介護・看護』、『食事の片付け』でも5～6割が「夫妻で協力」と答え、全般的に「夫妻で協力」しあって家庭生活を営むことが望ましいという意識がうかがえる。そうした中で、『食事の支度』は「主に妻」、『生活費を得る』は「主に夫」がそれぞれ4割弱と偏りがみられる。

(4) 家庭における役割分担の状況

家庭の役割にたずさわっている割合は、性別平均時間でみるとどの役割でも女性が男性を上回っており、家庭の役割分担は女性に偏っていると考えられる。

C 仕事と家庭の両立について

(1) 就業状況

現在「職業をもっている」人は男性が6割強、女性は5割となっており、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」人は男性が3割強、女性が4割台後半となっている。

(2) 就業形態

就業形態は、「正社員・正職員」は男性が5割強、女性が3割強となっている。一方で「パートタイマー」は女性が3割台後半、男性がわずか5.4%となっており、男女の就業形態には大きな違いがみられる。

(3) 雇用形態

雇用形態は、「正規雇用」は男性が6割台後半となっているのに対し、女性は3割台半ばである。一方で、「非正規雇用」は女性が5割強、男性が1割台後半となっている。また、「管理職・会社役員」は男性が1割を超えているのに対し、女性はわずか2.1%であり、男女の雇用形態にも違いがみられる。

(4) 実労働時間

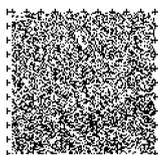
実労働時間は、「7時間以上～9時間未満」が4割強、「9時間以上」が2割強となっている。

「7時間以上～9時間未満」が男女共に4割強でもっとも多く、男性では「9時間以上」が3割台後半、女性では「5時間以上7時間未満」と「3時間以上5時間未満」が2割前後で続いている。

(5) 通勤時間（往復）

通勤時間（往復）は、全体では「30分未満」と「30分～1時間未満」がともに2割強で、1時間未満の人が5割弱となっているが、1時間以上の人も同程度の割合となっており、平均では68分となっている。

性別では、男性（79分）が女性（58分）より21分長くなっている。



(6) 産前産後休暇、育児休業、看護休暇、介護休業の取得の有無と取得希望

産前産後休暇、育児休業、看護、介護にかかわる休暇・休業の取得経験（「取得したことがある」）は、『妊娠中及び産前産後の休暇』（女性のみ）を「取得したことがある」人が2割強と最も高く、『配偶者出産休暇』（男性のみ）が1割弱、以下『育児休業』、『病児のための看護休暇』、『介護休暇・介護休業』が低い割合で続いている。

こうした休暇・休業の取得意向（「取得したい」）は、『介護休暇・介護休業』が3割台後半と最も高く、以下『病児のための看護休暇』と『妊娠中及び産前産後の休暇』が3割前後、『育児休業』と『配偶者出産休暇』が2割台で続いている。なお、いずれの休暇・休業についても、職場に「制度がない」との回答が1割強を占めている。

(7) 取得時の勤務先の対応

①取得前

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業を取得前の勤務先の状況は、「休暇・休業取得に協力的だった」と回答した人が男女ともに9割前後にのぼり、「協力的でなかった」は1割に満たない。

②取得中

出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得中の状況は、「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」と回答した男性は2割台半ば、女性は4割台半ばとなっている。一方、「勤務先から働きかけはなかった」と回答した男性は5割強、女性は4割強となっている。

③取得後

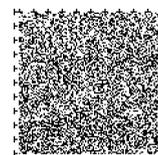
出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得後の状況は、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」が男性は9割、女性は7割弱となっている。一方、「何らかの不利益を被った」という回答をした女性は2割弱となっており、男性（3.3%）に比べ高くなっている。

(8) 以前の職業をやめた理由

以前の職業をやめた理由としては、男性では「定年退職したから」が8割と特に高い。これに対し、女性は、「結婚したから」が3割強と最も高く、「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」、「健康や体力の面で不安があったから」、「家事・子育て・介護に専念したかった」と続いている。

(9) 自らの能力を発揮していきいきと働くために必要だと思うこと

自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」と思う人が5割を超えて多く、「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」、「パートでも社員でも同一価値労働は、同一賃金にする」が4割弱で続いている。



(10) 生活や身の回りの環境の5年前との比較

①就労による経済的自立が可能な社会

『就労による経済的自立が可能な社会』では、「良くなったと思う」と「どちらかといえば良くなったと思う」の合計である「良くなった(計)」と、「悪くなったと思う」と「どちらかといえば悪くなったと思う」の合計である「悪くなった(計)」が2割弱で拮抗し、「変わらないと思う」が4割台後半となっている。

②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会

『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』では、「良くなった(計)」が2割強で、「悪くなった(計)」(1割台半ば)よりやや高く、「変わらないと思う」が約5割となっている。

③多様な働き方・生き方が選択できる社会

『多様な働き方・生き方が選択できる社会』では、「良くなった(計)」が2割台半ばで、「悪くなった(計)」(1割強)よりやや高く、「変わらないと思う」が約5割となっている。

(11) 介護休業・介護休暇の制度改正の認知状況

介護休業・介護休暇の制度改正については、「知っていた」人が1割、「知らなかった」人が8割台半ばとなっている。

(12) 男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由

男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由としては、「職場で不利益を受けるから」が男女ともに5割前後ともっとも高く、これに「経済的な保障がないから」(4割強)、「家族(特に女性)が面倒をみるべきだ」という社会通念があるから」(3割強)が続いている。

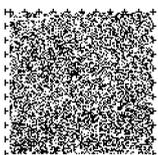
(13) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと

ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」が4割強、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」が4割弱と高くなっており、これらに「仕事優先の考え方を見直す」が3割台半ばで続いている。

D 女性の活躍推進について

(1) 女性の活躍を進めたことによる影響

政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか、という点については、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が男女ともに約6割でもっとも高く、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が5割強、以下「女性の声が反映されやすくなる」、「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」が続く。



(2) 女性の活躍を進めるために必要なこと

女性の活躍を進めるために必要なことは、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」、「保育・介護など公的サービスが充実すること」、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が5割前後で上位となっており、どれも女性が男性より高くなっている。

E 社会参画について

(1) ボランティア活動や地域活動への参加状況

この1～2年の間のボランティア活動や地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」が3割台半ばでもっとも高くなっている。一方、「どれにも参加したことがない」人は男性で4割強、女性で3割台半ばとなっている。

(2) ボランティア活動や地域活動をしていない理由

ボランティア活動や地域活動のどれにも参加していない理由は、「仕事をしている」人が4割台半ばでもっとも高く、以下、「どんな活動があるか情報が無い」、「関心がない」などが2割台で続いており、これらの項目は男性が女性より高くなっている。

(3) ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと

さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が4割強でもっとも高く、以下、「一緒に参加できる仲間をつくる」、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」、「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」、「ボランティア休暇等を気軽に取得できるような職場等の環境」が2割台後半となっている。

F 性の多様性について

(1) セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知状況

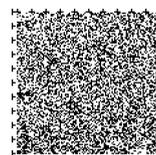
セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っている人は8割強となっている。年代別でみると、20代から60代では9割程度高いが、70代以上では6割台半ばにとどまっている。

(2) 身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験

身体・心の性、性的指向については、「自分が悩んだことがある」人が1.6%、「知人や家族が悩んでいたことがある」人が7.7%となっている。年代別でみると、20代・30代で「自分が悩んだことがある」と「知人や家族が悩んでいたことがある」が高くなっている。

(3) セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか

セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）の人にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思う人は「思う」が3割強、「どちらかといえば思う」（4割強）と合わせると、全体の4分の3以上を占めている。



(4) セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策としては、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が6割強と特に高く、これに「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が3割弱で続いている。

G 男女の人権について

(1) メディアにおける性表現・暴力表現についての考え

メディアにおける性表現・暴力表現については、「非常にそう思う」と「やや思う」の合計である「そう思う(計)」は『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』、『社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている』、『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』、『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』のすべてが6割以上と高い割合になっており、全般的に否定的な様子がうかがえる。

(2) 配偶者・パートナー間での暴力について

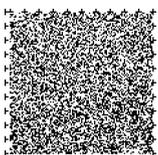
配偶者・パートナー間で暴力だと思われることについては、「暴力にあたる」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」の合計が、すべての項目で7割以上にのぼっている。

「暴力にあたる」は『命の危険を感じるほどの暴力』、『医師の治療が必要となるほどの暴力』で9割を超え、以下、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』、『いやがっているのに性的な行為を強要する』、『大切にしているものをわざと壊す・捨てる』、『医師の治療は必要ない暴力』が7～8割となっている。

いずれのケース・場面も「暴力にあたる」と考える女性の割合が男性を上回っている。

(3) 「デートDV」という言葉の認知状況

「デートDV(交際相手からの暴力)」という言葉については、「言葉も、その内容も知っている」と回答した人が3割台後半、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が2割台半ば、「言葉があることを知らなかった」が3割となっている。



(4) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの経験

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験については、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』、『その他』以外の項目で「自分のまわりにはないと思う」が過半数を超えて多くなっている。「受けたことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が1割台半ばでもっとも多く、以下、『宴会でお酌やデュエットを強要する』、『仕事中に異性の身体を触る』、『挨拶をしても自分だけ無視される』、『容姿について繰り返し言う』が1割前後となっている。「したことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が6.9%で、「聞きしたことがある」も『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が3割台後半、「相談を受けたことがある」は、『仕事に関係のない食事にたびたび誘う』が3.6%で、それぞれもっとも多くなっている。

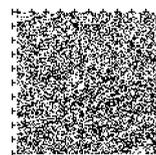
(5) 配偶者・恋人間での暴力に関する経験

配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験については、『その他』を除く項目で「自分のまわりにはないと思う」が6割以上と多くなっている。「振るわれたことがある」は、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』が1割でもっとも多く、以下、『何を言っても無視する』(9.7%)、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』(7.5%)の順となっている。「振るったことがある」は、『何を言っても無視する』が7.1%でもっとも多い。「聞きしたことがある」は、『交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する』が1割台半ばでもっとも多く、以下、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』、『何を言っても無視する』、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』が1割台で続いている。

(6) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント等の被害を受けた際の相談の有無

①相談の有無

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験がある人のうち、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人は女性が2割台半ばで男性(1割強)より多く、「相談したかったが、しなかった」人は男女ともに1割弱、「相談しようとは思わなかった」人は男性が3割台後半で女性(3割強)より多くなっている。



②相談先

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験があり、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人の相談先は、「友人・知人・同僚」が6割台半ばでもっとも多く、これに「家族」が4割台半ばで続いている。

③相談しなかった理由

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの被害経験があっても、「相談しなかった」人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女ともに5割でもっとも多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が3割台半ば、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が2割台半ばと続いている。

男性は「自分にも悪いところがあると思った」が3割と多くなっている。

(7) DV等の相談先として知っているもの

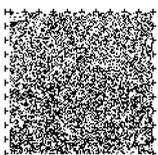
DV等の相談先として知っている窓口については、藤沢市の「福祉事務所」が2割弱でもっとも高く、これに神奈川県「女性のための相談窓口」、神奈川県警の「警察総合相談室」が1割台で続いている。

(8) 「DV相談窓口案内カード」の認知状況

「DV相談窓口案内カード」については、「もらったことがある」(2.1%)、「見たことがある」(15.7%)、「聞いたことがある」(3.7%)の合計は21.5%となっている。「知らない」と答えた人が男性8割強、女性7割となっており、認知度を高める工夫が必要である。

(9) DVを防ぐために重要だと思うこと

DVを防ぐために重要だと思うことは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が4割台半ばでもっとも高く、これに「あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」、「家庭内でも男女は平等であることを推進する」が3割台で続いている。



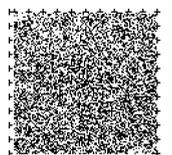
H 男女共同参画に必要な施策について

(1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況

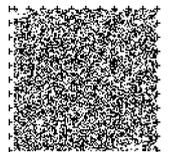
「男女が共に生きる情報紙、かがやけ地球」については「知らない」人が男女ともに約9割、「知っているが、読んだことはない」が5.2%、「読んだことがある」が男性1.7%、女性3.4%と非常に低くなっている。

(2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」が5割前後と高く、続いて「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」が4割弱となっている。



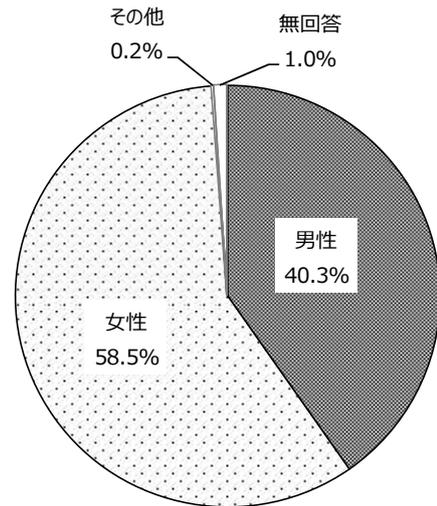
第2章 調査結果の詳細



基本属性

(1) 性別

	基数	構成比
全体	1,149	100.0%
男性	463	40.3
女性	672	58.5
その他	2	0.2
無回答	12	1.0



(参考) 藤沢市の人口 (平成30年10月1日現在)

	人数	構成比
全体	431,286	100.0%
男性	213,192	49.4
女性	218,094	50.6

(2) 年齢

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
18～19歳	12	1.0	6	1.3	6	0.9
20～24歳	30	2.6	9	1.9	21	3.1
25～29歳	49	4.3	19	4.1	29	4.3
30～34歳	64	5.6	21	4.5	42	6.3
35～39歳	75	6.5	27	5.8	48	7.1
40～44歳	85	7.4	28	6.0	57	8.5
45～49歳	102	8.9	45	9.7	57	8.5
50～54歳	103	9.0	35	7.6	68	10.1
55～59歳	95	8.3	43	9.3	52	7.7
60～64歳	95	8.3	40	8.6	55	8.2
65～69歳	121	10.5	48	10.4	73	10.9
70～74歳	122	10.6	54	11.7	66	9.8
75～79歳	90	7.8	35	7.6	53	7.9
80歳以上	96	8.4	52	11.2	43	6.4

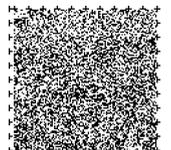
(3) 結婚の有無

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
既婚 (事実婚を含む)	842	73.3	348	75.2	491	73.1
未婚	163	14.2	75	16.2	85	12.6
離婚または死別	133	11.6	37	8.0	94	14.0

(4) 配偶者・パートナーの就労状況と雇用状態

就労状況

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	842	100.0%	348	100.0%	491	100.0%
働いている	493	58.6	155	44.5	338	68.8
働いていない	324	38.5	186	53.4	135	27.5



雇用状態

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	493	100.0%	155	100.0%	338	100.0%
正規雇用	302	61.3	50	32.3	252	74.6
非正規雇用	125	25.4	89	57.4	36	10.7
自営業	64	13.0	15	9.7	49	14.5

(5) 子どもの有無

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
同居している子どもがいる	547	47.6	199	43.0	344	51.2
子どもはいるが同居していない	291	25.3	135	29.2	154	22.9
子どもはいない	265	23.1	109	23.5	153	22.8

(6) 一番下の子どもの年齢区分

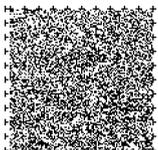
	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	547	100.0%	199	100.0%	344	100.0%
就学前	111	20.3	37	18.6	74	21.5
小学生	71	13.0	22	11.1	49	14.2
中学生	34	6.2	12	6.0	22	6.4
中学卒業以上で未成年	57	10.4	27	13.6	30	8.7
成人	268	49.0	99	49.7	165	48.0

(7) 介護が必要な同居家族の有無

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
介護が必要な家族と同居している	93	8.1	42	9.1	50	7.4
介護が必要な家族がいるが同居していない	115	10.0	51	11.0	63	9.4
いない	862	75.0	337	72.8	518	77.1

(8) 同居の家族構成

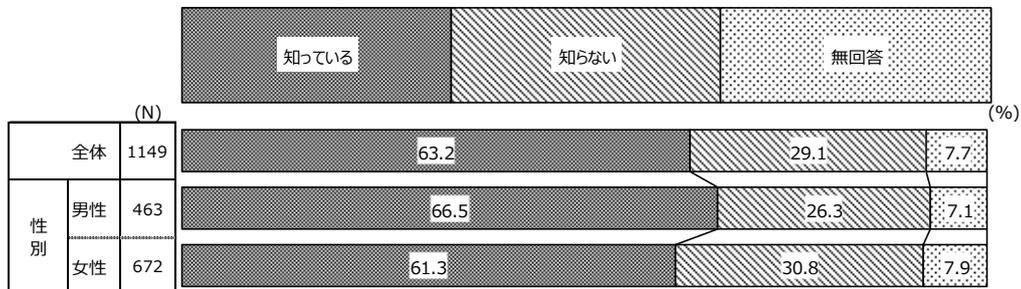
	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
ひとり暮らし	125	10.9	61	13.2	62	9.2
配偶者・パートナーのみ（事実婚含む）	323	28.1	146	31.5	176	26.2
親と子ども（核家族世帯）	493	42.9	165	35.6	324	48.2
親と子どもと配偶者・パートナー（二世帯世帯）	77	6.7	33	7.1	44	6.5
親、子ども、配偶者・パートナーと孫（三世帯世帯）	46	4.0	23	5.0	22	3.3
その他	45	3.9	22	4.8	22	3.3



A 男女の平等について

(1) 男女共同参画（社会）という言葉の認知状況

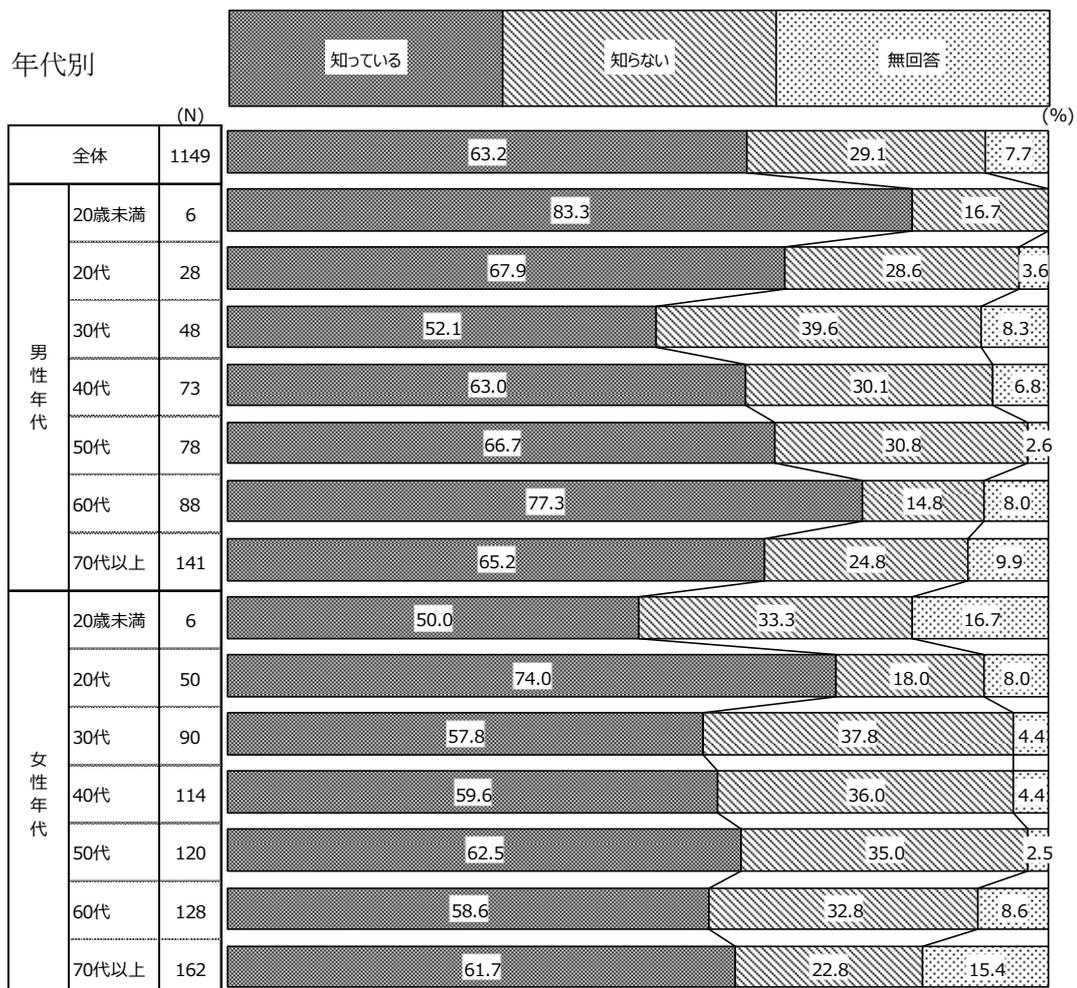
Q1 あなたは、男女共同参画（社会）という言葉を知っていますか。（〇は1つ）



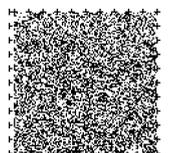
男女共同参画（社会）という言葉について、全体では「知っている」63.2%、「知らない」29.1%で、「知っている」が34.1ポイント高くなっている。

性別では、「知っている」は男性66.5%で、女性（61.3%）をやや上回っている。

■性別・年代別

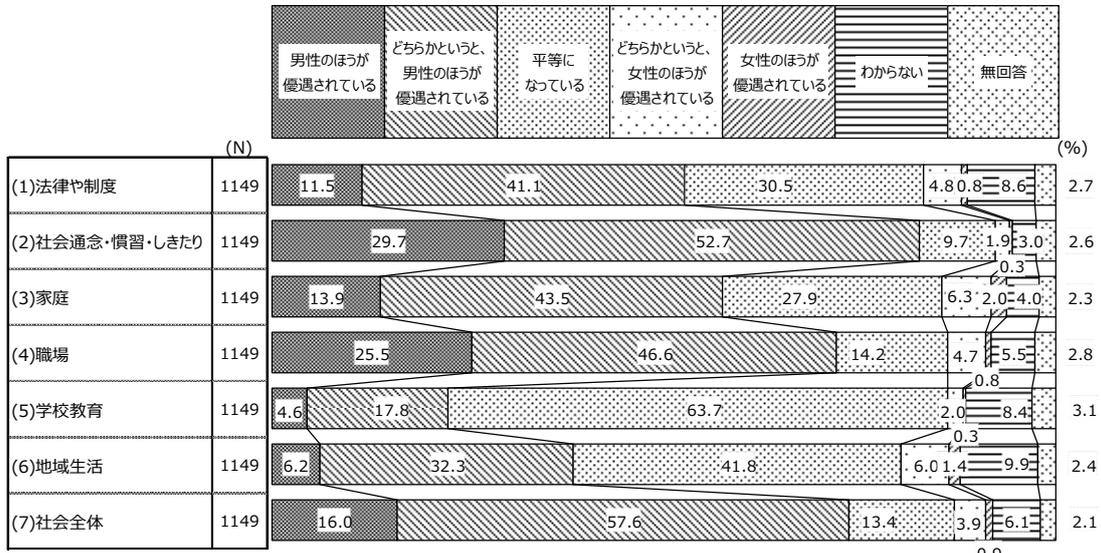


性別・年代別でみると、「知っている」は男性60代と女性20代で77.3%、74.0%と特に高くなっている。



(2) 各分野における男女の地位・立場について

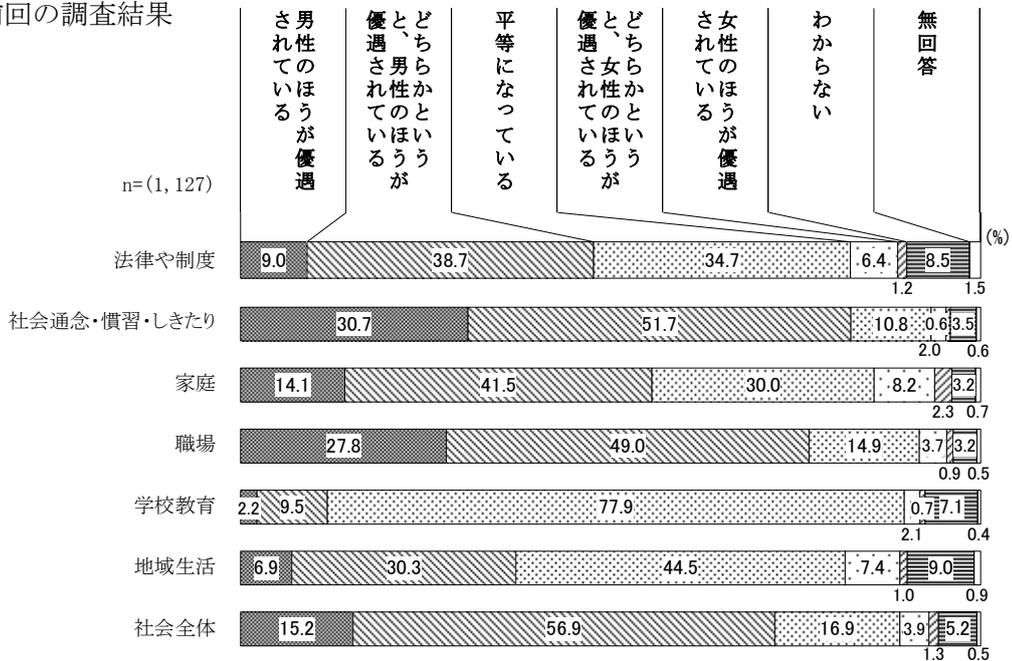
Q2 あなたは、次の各分野において、男女の地位や立場はどのようになっていると思いますか。((1) ~ (7) の各項目につき〇は1つ)



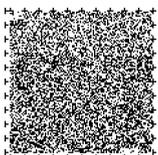
各分野における男女の地位の平等感を全体で見ると、「平等になっている」は『学校教育』が63.7%でもっとも高く、これに『地域生活』(41.8%)、『法律や制度』(30.5%)、『家庭』(27.9%)が続く。

「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計では、『社会通念・慣習・しきたり』で82.4%、『社会全体』で73.6%、『職場』で72.1%と高くなっている。

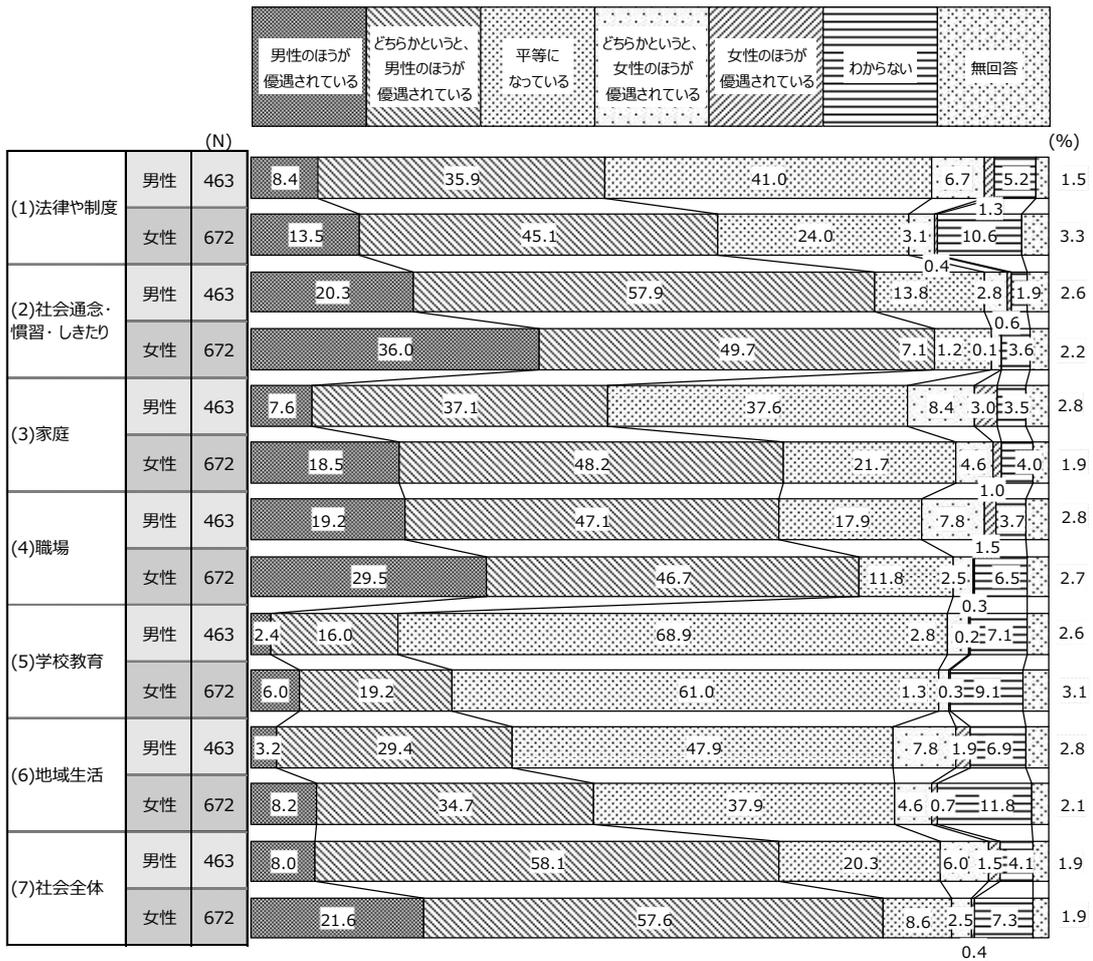
【参考】前回の調査結果



前回調査と比較すると、いずれの項目も「平等になっている」が減少しており、特に『学校教育』については14.2ポイント減少している。

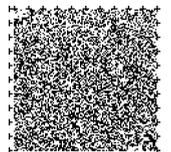


■性別



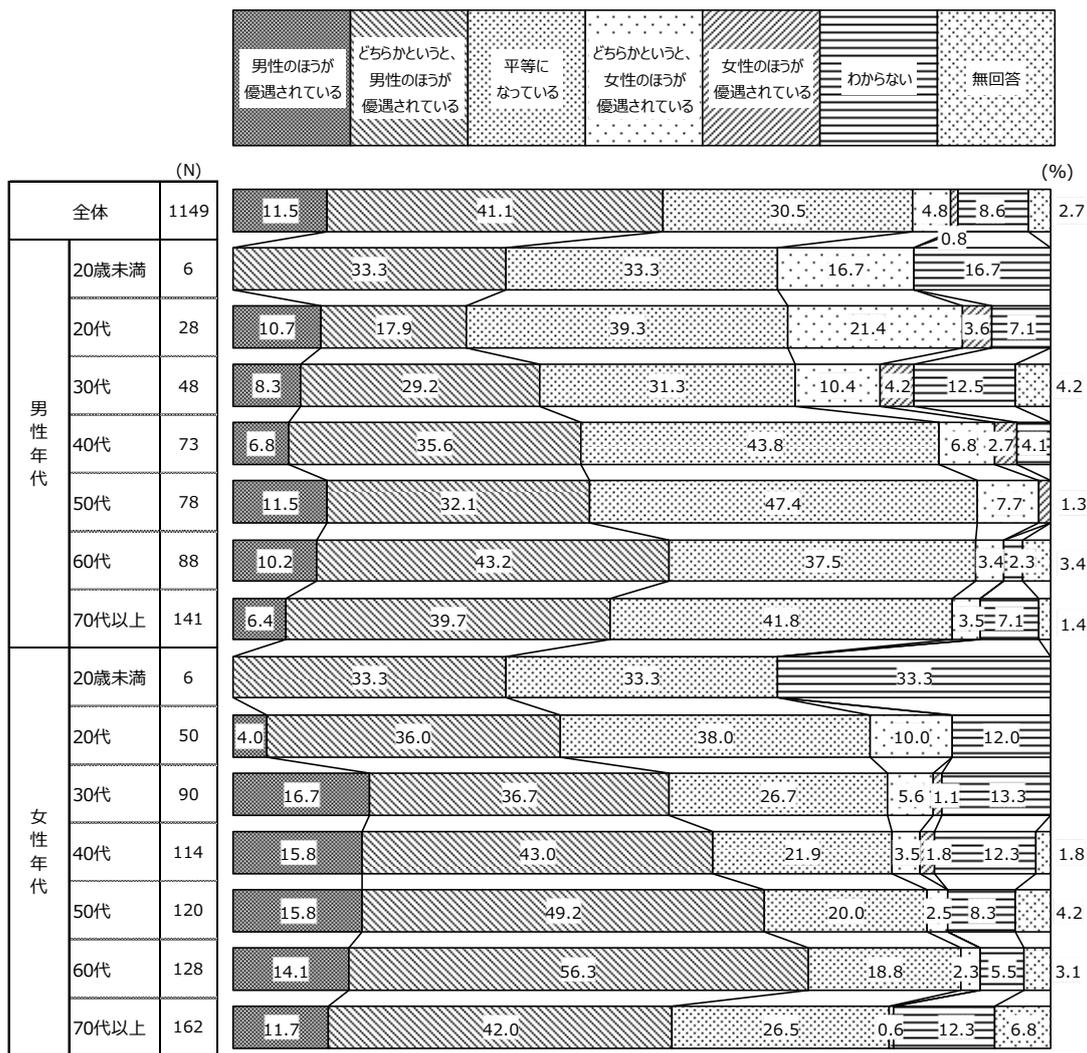
性別で「平等になっている」の割合をみると、どの分野でも男性が女性を上回っており、その差は『法律や制度』で17.0ポイント、『家庭』で15.9ポイントと大きい。

「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計である、「男性優遇（計）」は、どの分野でも女性が男性を上回っており、その差は『家庭』で22.0ポイント、『法律や制度』で14.3ポイントと大きい。

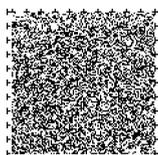


■性別・年代別

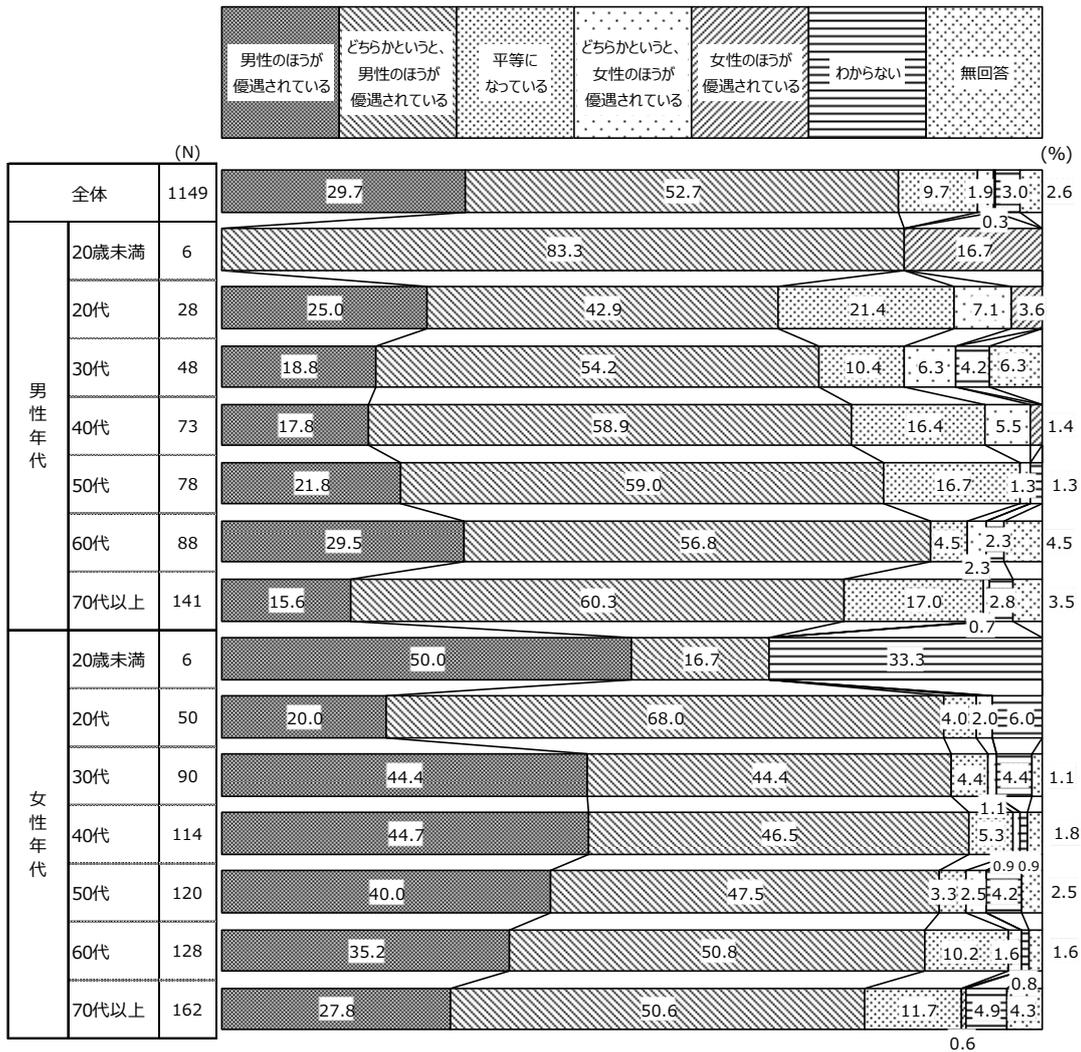
A(2)-(1)法律や制度



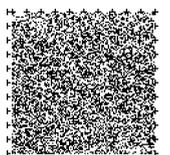
『法律や制度』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」は、男女とも概ね高年層ほど高く、特に女性50代・60代で65.0%、70.4%と高くなっている。「平等になっている」は男性40代・50代で43.8%、47.4%と高くなっている。



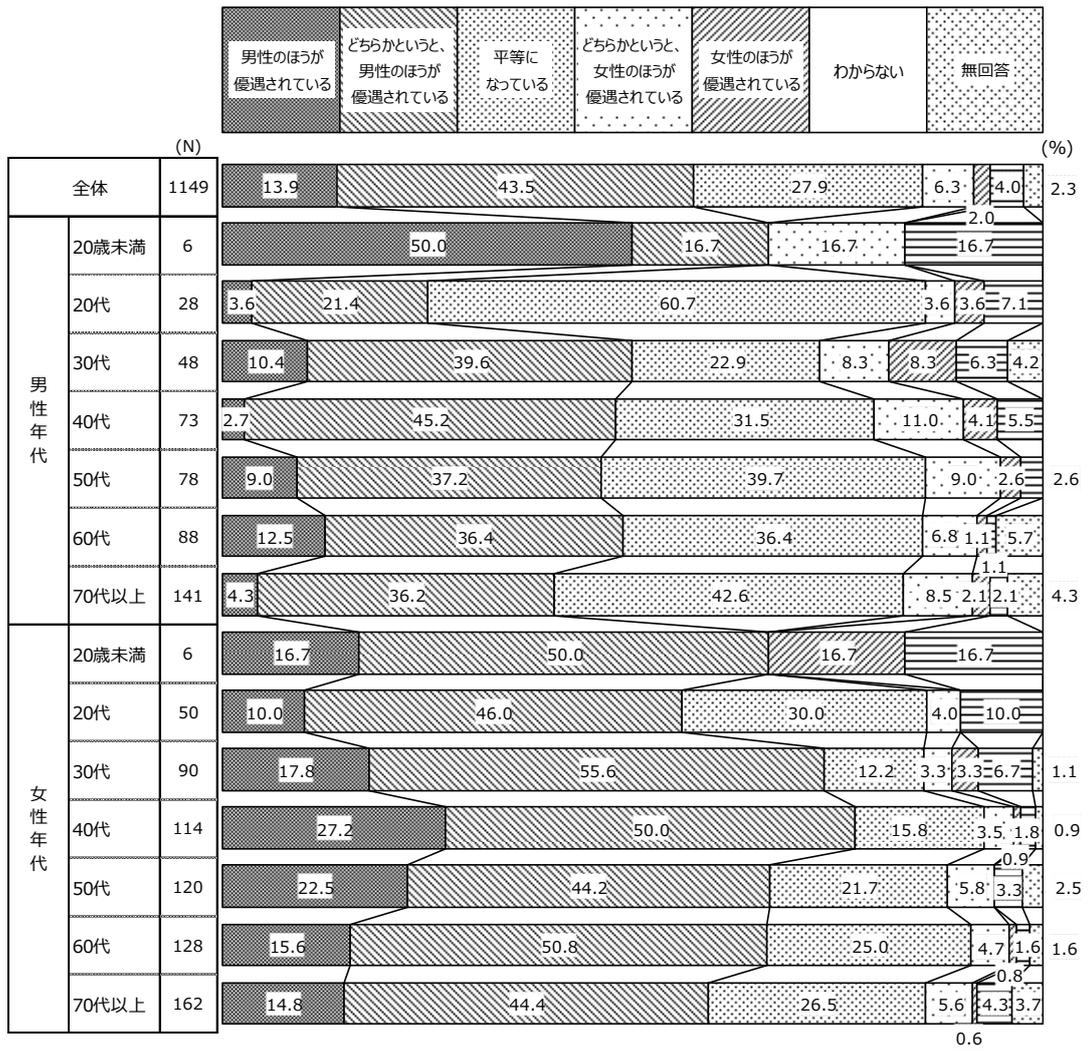
A (2)-(2) 社会通念・慣習・しきたり



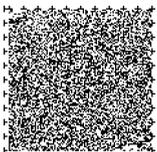
『社会通念・慣習・しきたり』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」は、性別を問わず全ての年代で高く、男性では50代・60代で8割を超えているのに比べ、女性は20代から60代までが8割を超え、特に40代は91.2%と特に高くなっている。



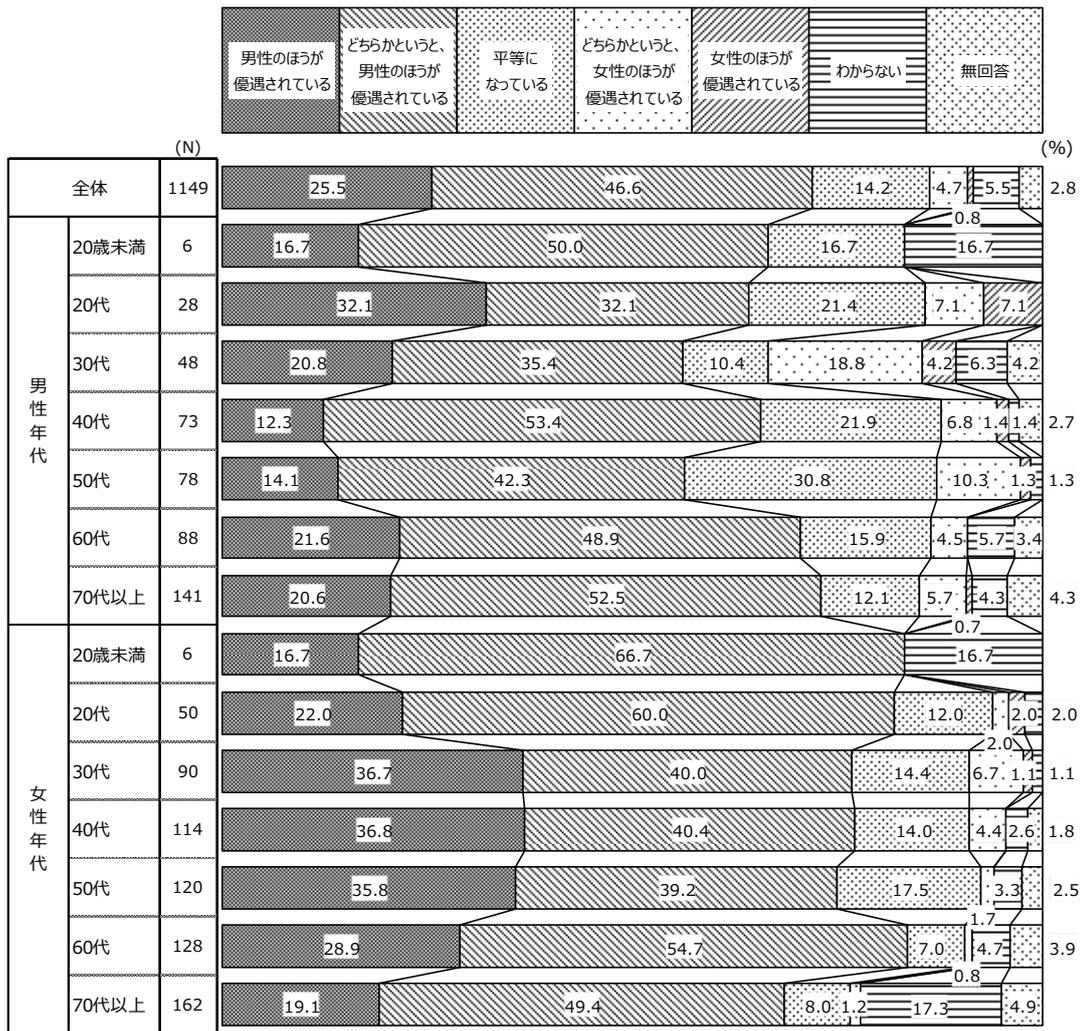
A (2)-(3) 家庭



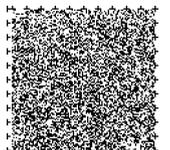
『家庭』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」が女性30代・40代で73.4%、77.2%と高くなっている。これに対し、男性20代・70代以上は「平等になっている」が60.7%、42.6%と高くなっている。



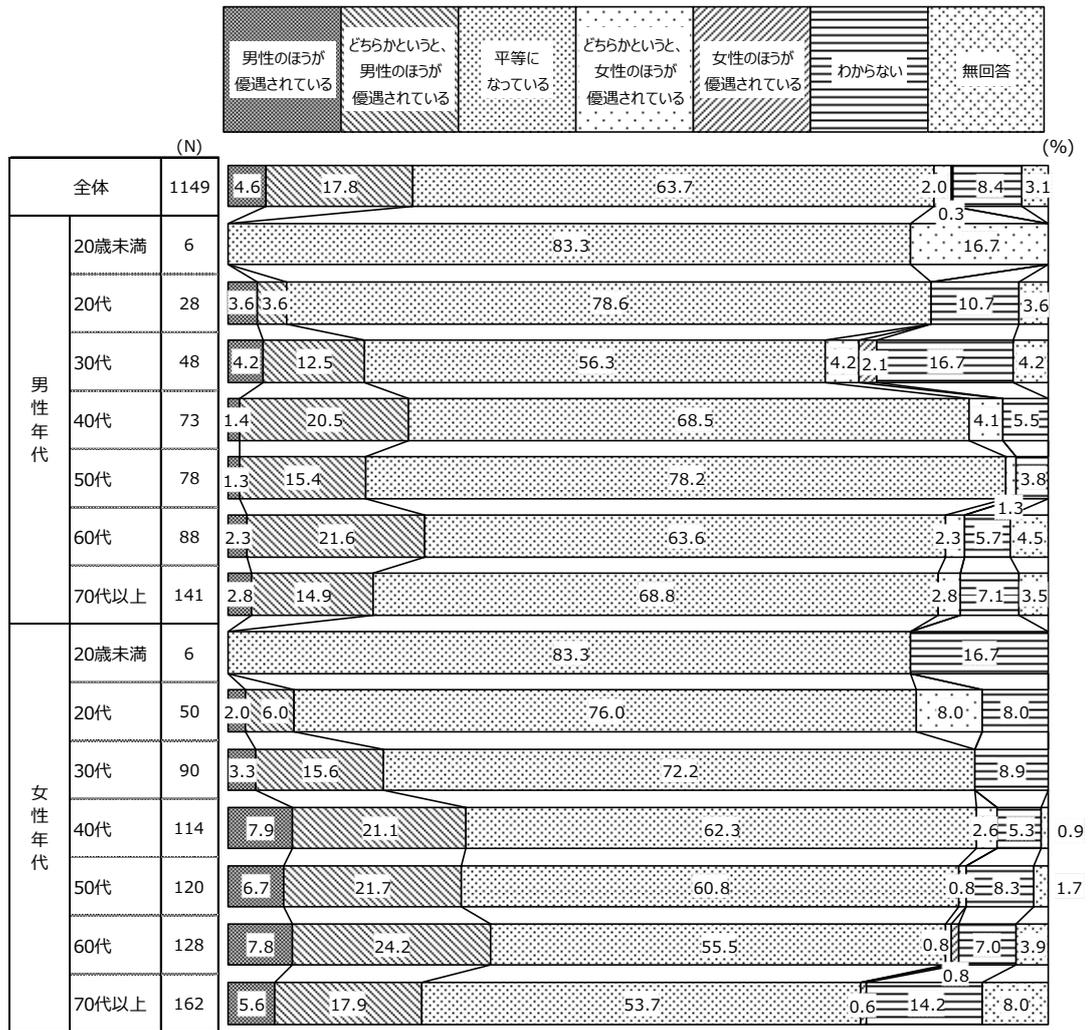
A (2)-(4) 職場



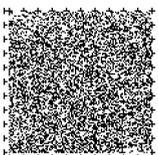
『職場』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」は、性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、特に女性20代・60代で82.0%、83.6%にのぼる。これに対し、「平等になっている」は男性50代で30.8%と高くなっている。



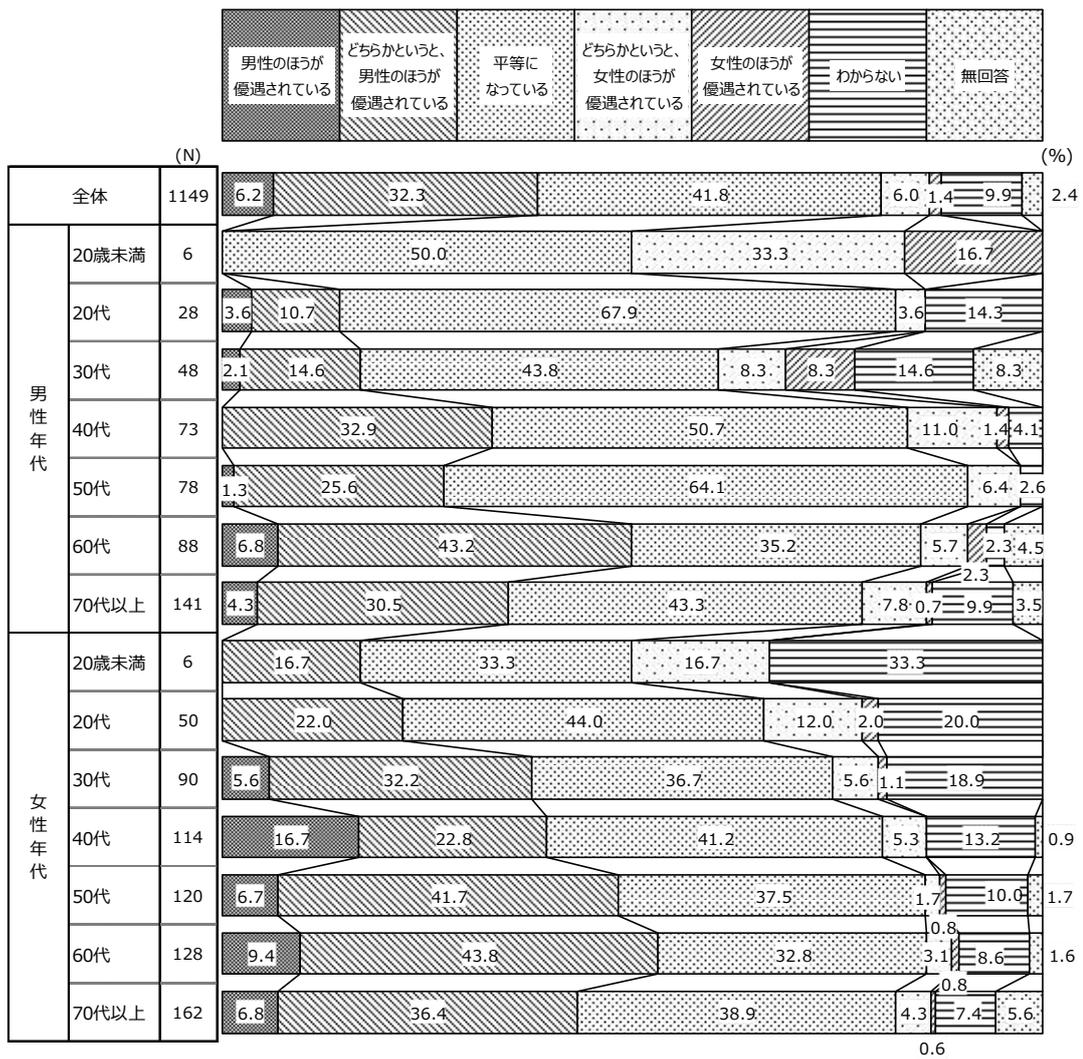
A (2)-(5) 学校教育



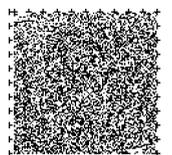
『学校教育』を性別・年代別で見ると、「平等になっている」は性別を問わず全ての年代で5割以上と高い割合となっており、特に男性20代・50代では78.6%、78.2%を占めている。



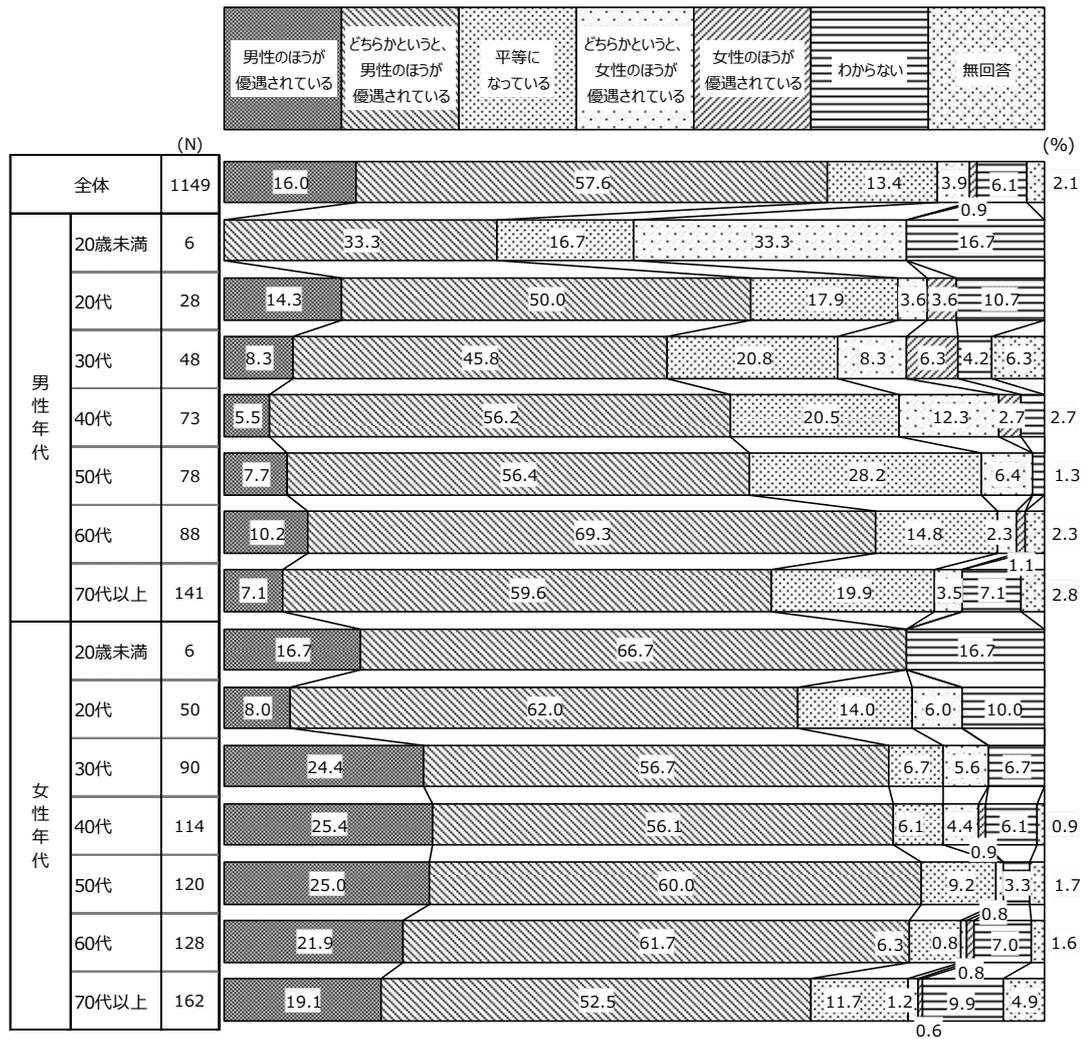
A (2)-(6) 地域生活



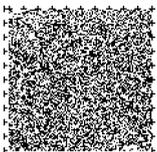
『地域生活』を性別・年代別で見ると、「平等になっている」は男性20代・50代で67.9%、64.1%と高くなっている。これに対し、「男性優遇（計）」は、男性60代、女性50代・60代で48.4～53.2%と高くなっている。



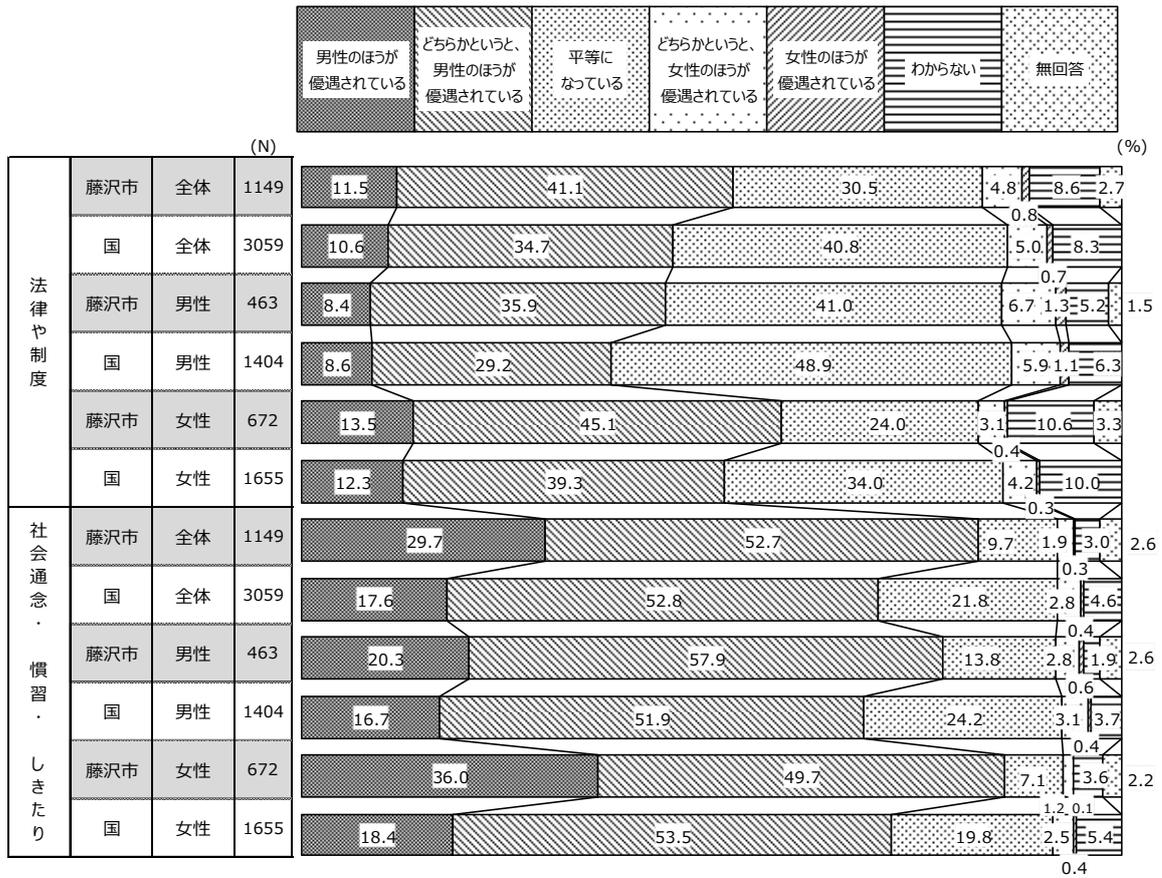
A (2)-(7) 社会全体



『社会全体』を性別・年代別でみると、「男性優遇（計）」は、性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、男性は60代で79.5%、女性は30代～60代で81.1～85.0%に達している。



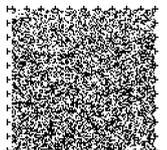
●国との比較(2)-(1), (2)



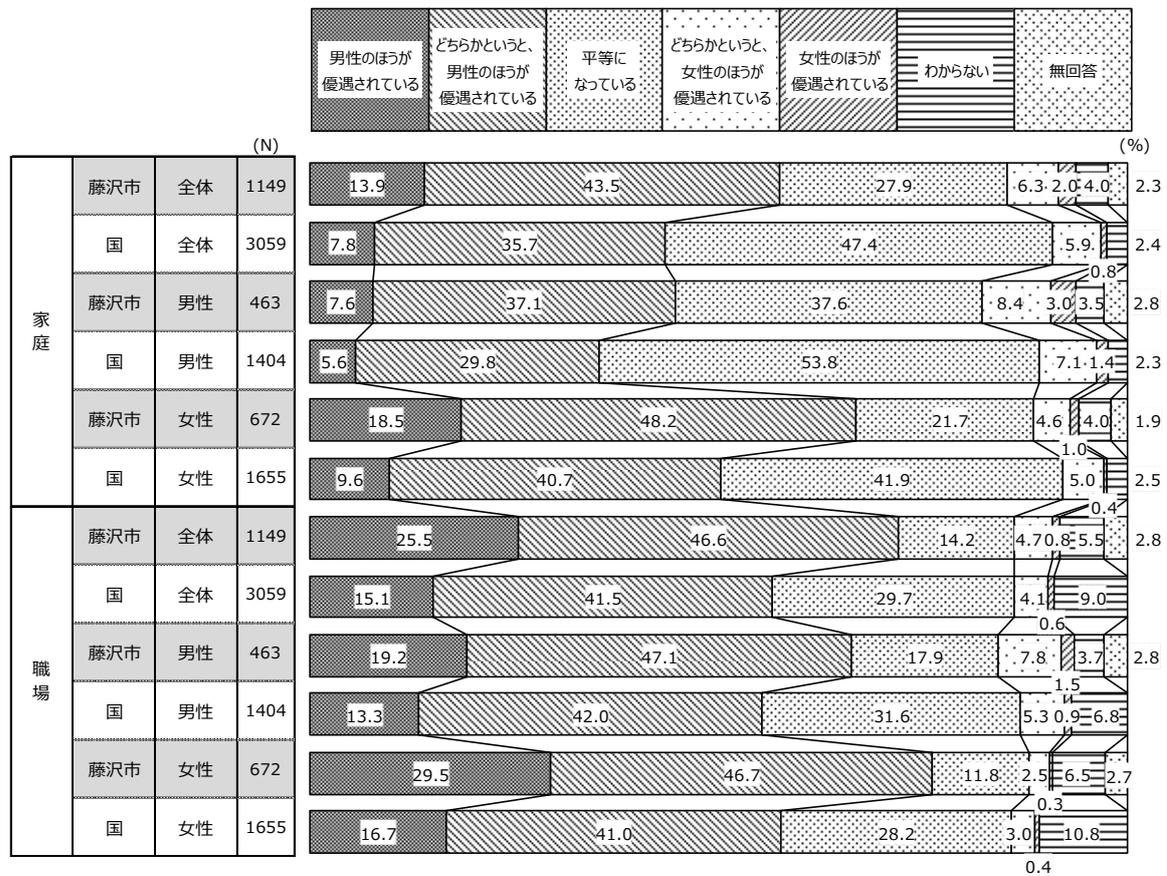
『法律や制度』を国の調査と比較すると、「男性優遇（計）」は、藤沢市52.6%、国の調査45.3%で藤沢市が7.3ポイント上回り、「平等になっている」は藤沢市30.5%、国の調査40.8%で、藤沢市が10.3ポイント下回っている。

性別でも同様の傾向があり、「平等になっている」の割合は男性・女性とも藤沢市が国の調査を7.9ポイント、10.0ポイント下回っている。

『社会通念・慣習・しきたり』は、「男性優遇（計）」が藤沢市82.4%、国の調査70.4%で、藤沢市が12.0ポイント上回っている。性別でも男性は9.6ポイント、女性は13.8ポイント国の調査を上回っている。



●国との比較(2)-(3), (4)

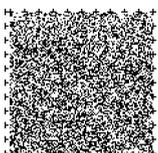


『家庭』についての「平等になっている」は藤沢市27.9%、国の調査47.4%で、藤沢市が19.5ポイント下回っている。国の調査では「平等になっている」、「男性優遇（計）」が拮抗しているのに対し、藤沢市では「男性優遇（計）」が上回る結果となっている。

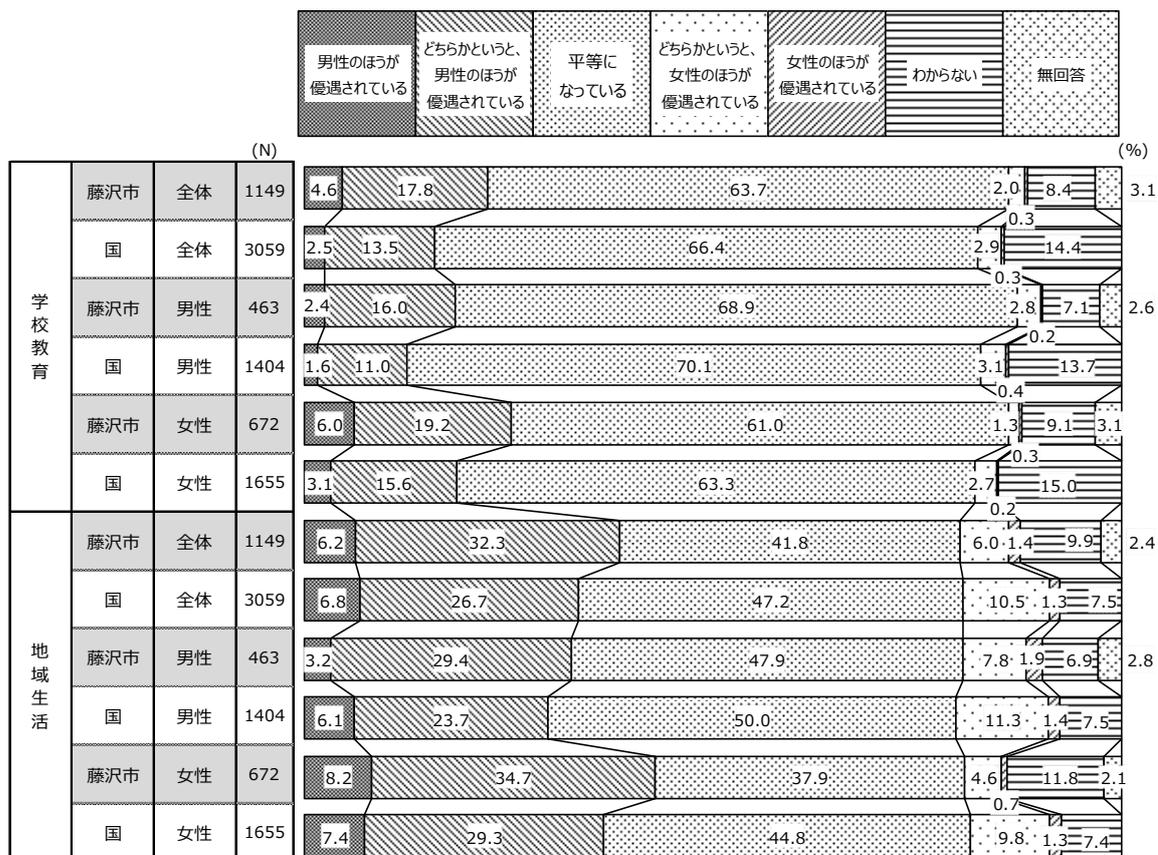
性別でも「平等になっている」は男性で16.2ポイント、女性で20.2ポイント藤沢市が国の調査を下回っている。

『職場』についての「男性優遇（計）」は、藤沢市72.1%、国の調査56.6%で、藤沢市の方が15.5ポイント高い。

性別でも「男性優遇（計）」は、男性で11.0ポイント、女性で18.5ポイント国の調査より高くなっている。



●国との比較(2)-(5), (6)

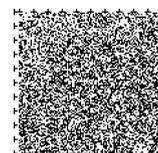


『学校教育』についての「平等になっている」は藤沢市63.7%、国の調査66.4%で、藤沢市が2.7ポイント下回っている。

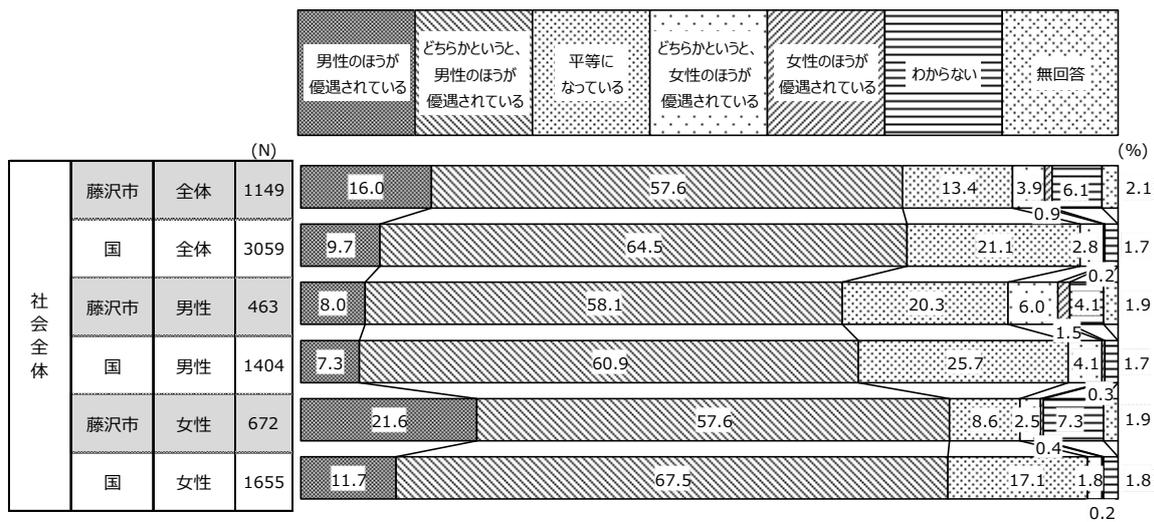
性別でも「平等になっている」が男性で1.2ポイント、女性で2.3ポイント国の調査を下回っている。

『地域生活』についての「男性優遇（計）」は、藤沢市38.5%、国の調査33.5%で、藤沢市の方が5.0ポイント高い。

性別でも男性で2.8ポイント、女性で6.2ポイント国の調査より高くなっている。

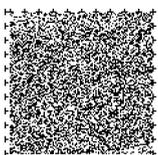


●国との比較(2)-(7)



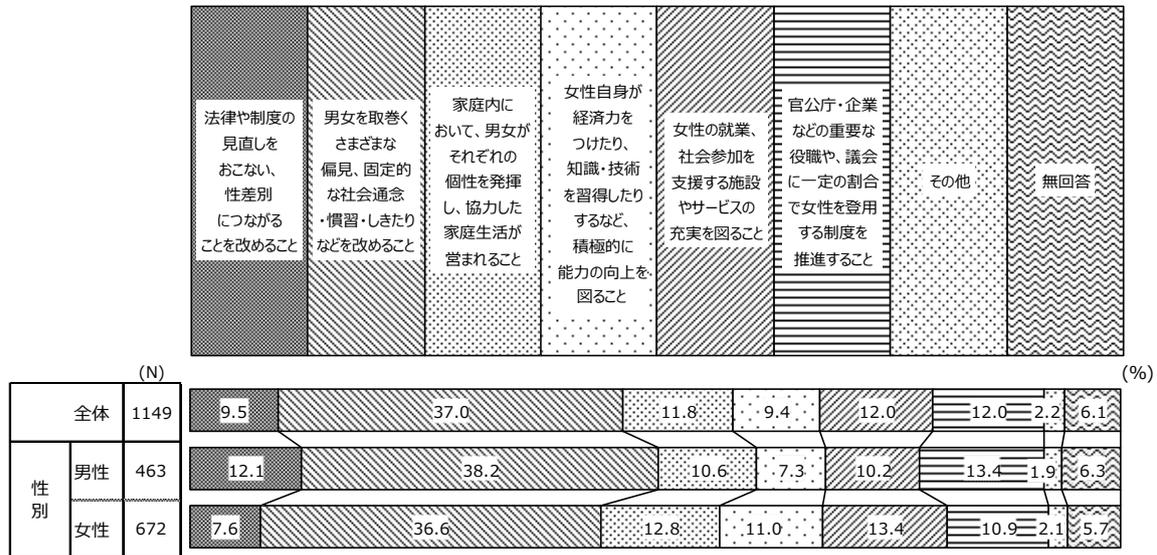
『社会全体』についての「男性優遇（計）」は、藤沢市73.6%、国の調査74.2%で同程度なのに対し、「平等になっている」は藤沢市が7.7ポイント下回っている。

性別でも「平等になっている」が男性で5.4ポイント、女性で8.5ポイント国の調査を下回っている。



(3) 今後男女があらゆる分野で平等になるためにもっとも重要と思うこと

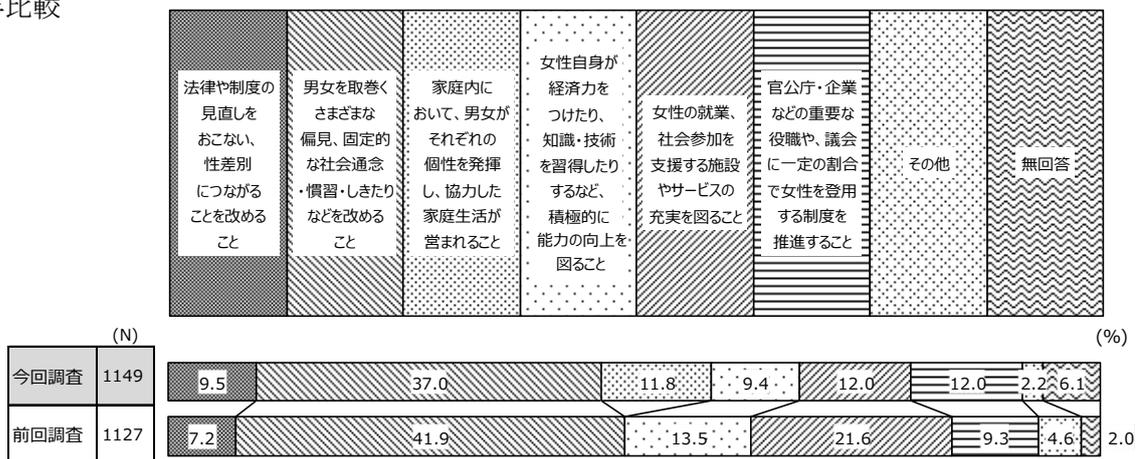
Q3 あなたが、今後男女があらゆる分野でより平等になるために、もっとも重要と思うことは何でしょうか。(〇は1つ)



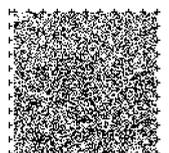
今後男女があらゆる分野でより平等になるためにもっとも重要と思うことは、全体では、「男女を取巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が37.0%と特に高く、その他の項目はいずれも1割前後となっている。

性別でみると、男女とも「男女を取巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」がもっとも高く、男性38.2%、女性36.6%となっている。

◎経年比較



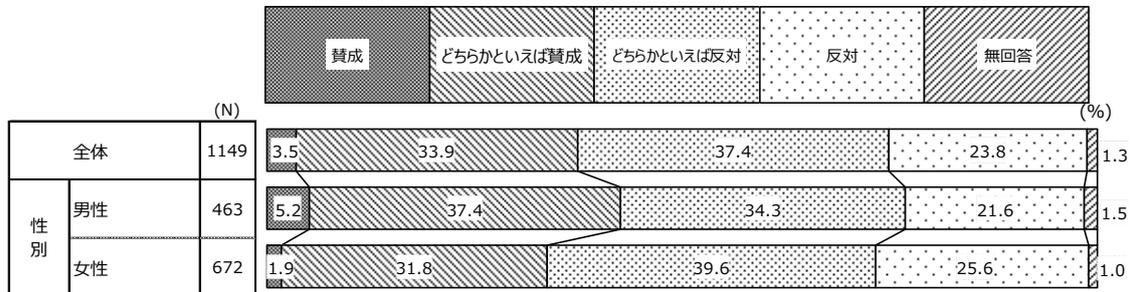
前回調査と比較すると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が9.6ポイント低下している。一方で、新規項目である「家庭内において、男女がそれぞれの個性を發揮し、協力した家庭生活が営まれること」が11.8%となっている。



B 家庭生活について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

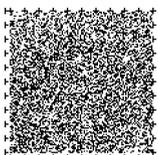
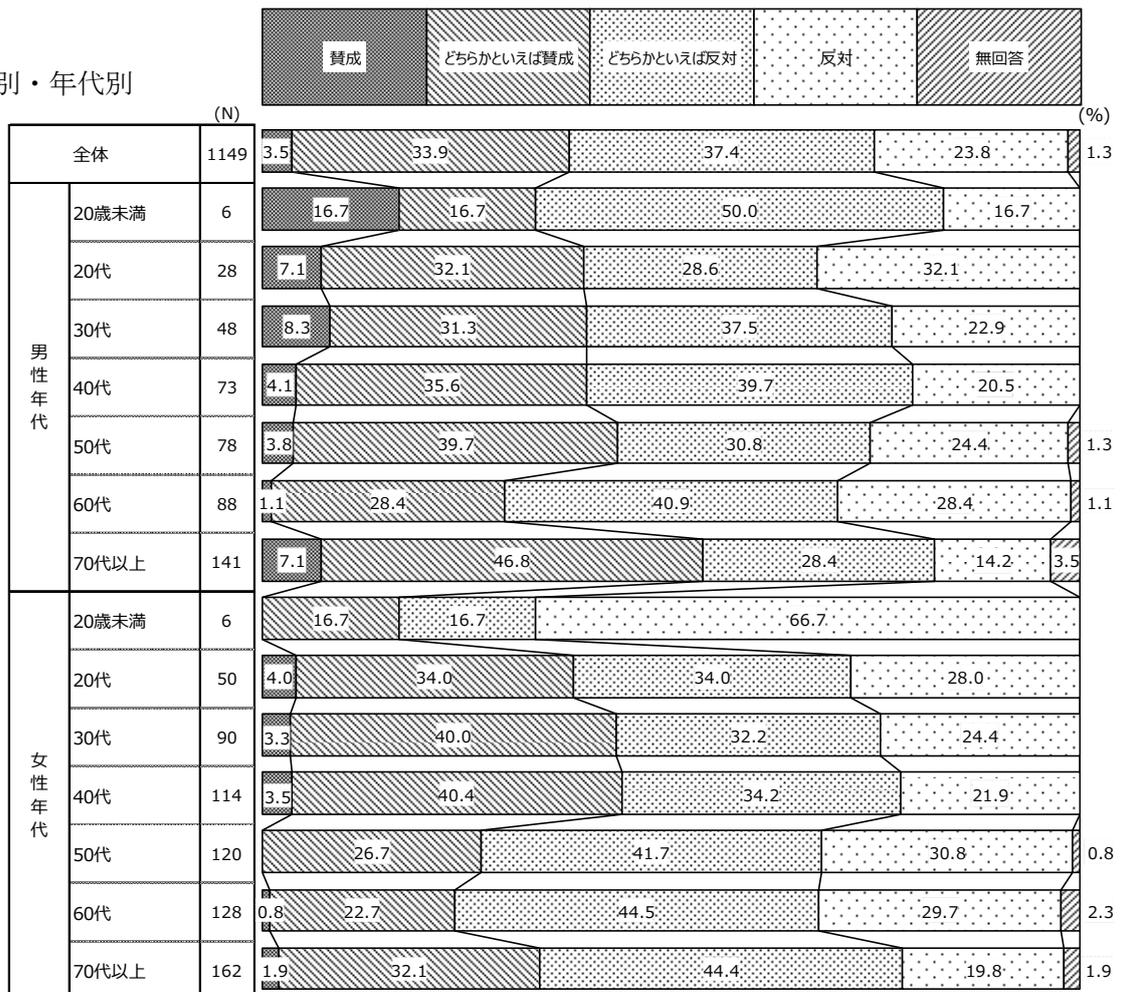
Q4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてあなたはどのようにお考えになりますか。
(○は1つ)



「男は仕事、女は家庭」という考え方については、全体では「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が61.2%で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計（37.4%）を23.8ポイント上回っている。

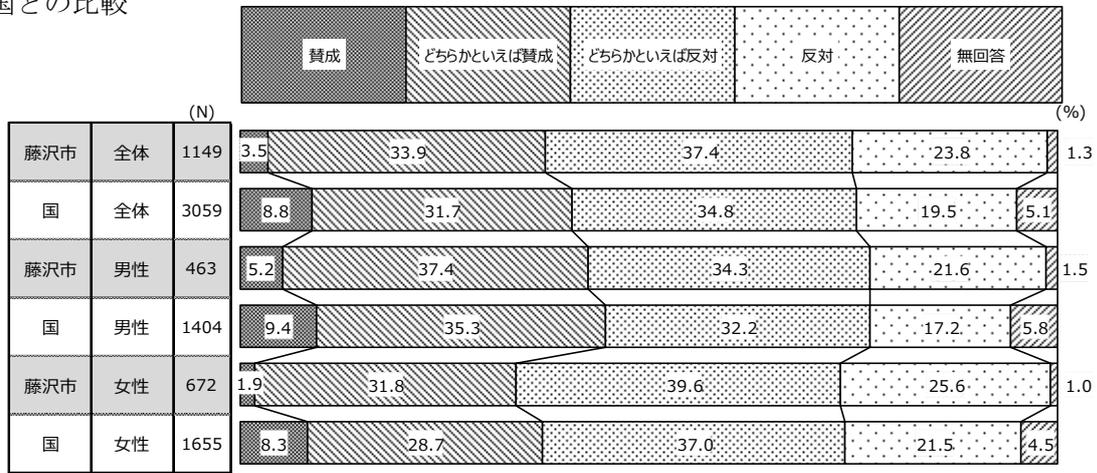
性別でみると、女性は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が65.2%と男性より9.3ポイント高く、男性は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が42.6%と女性より8.9ポイント高くなっている。

■性別・年代別



性別・年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、男性70歳以上で53.9%と特に高い。一方、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計は、男性60代、女性50代・60代で69.3～74.2%と高くなっている。

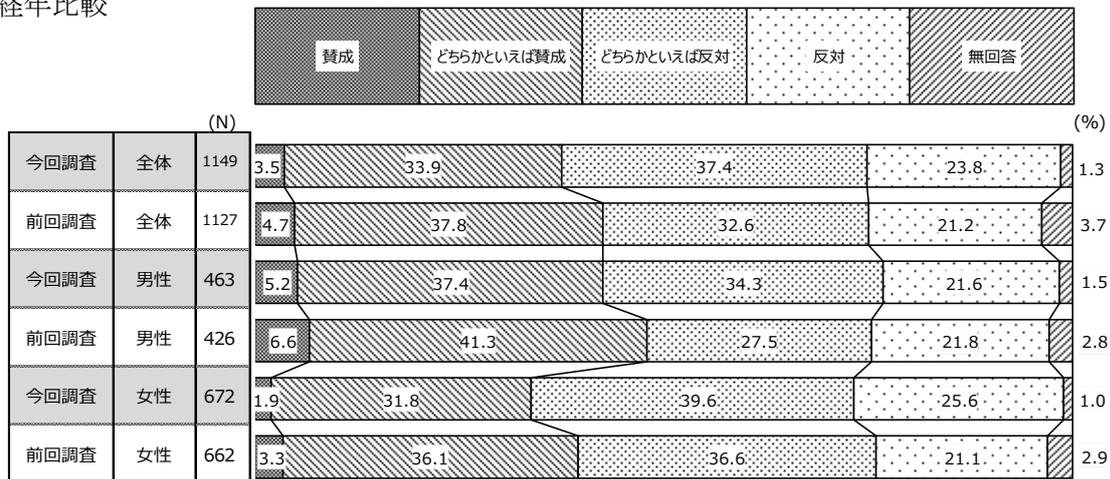
●国との比較



「男は仕事、女は家庭」という考え方について国の調査と比較すると、藤沢市に比べて全体、性別ともに「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が高く、「反対」「どちらかと言えば反対」の割合は藤沢市の方が高くなっている。「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は全体で藤沢市が3.1ポイント低く、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計は6.9ポイント高い。

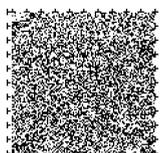
性別でみると藤沢市では、「反対」または「どちらかと言えば反対」である女性が6.7ポイント、男性が6.5ポイント国の調査に比べて高くなっている。

◎経年比較



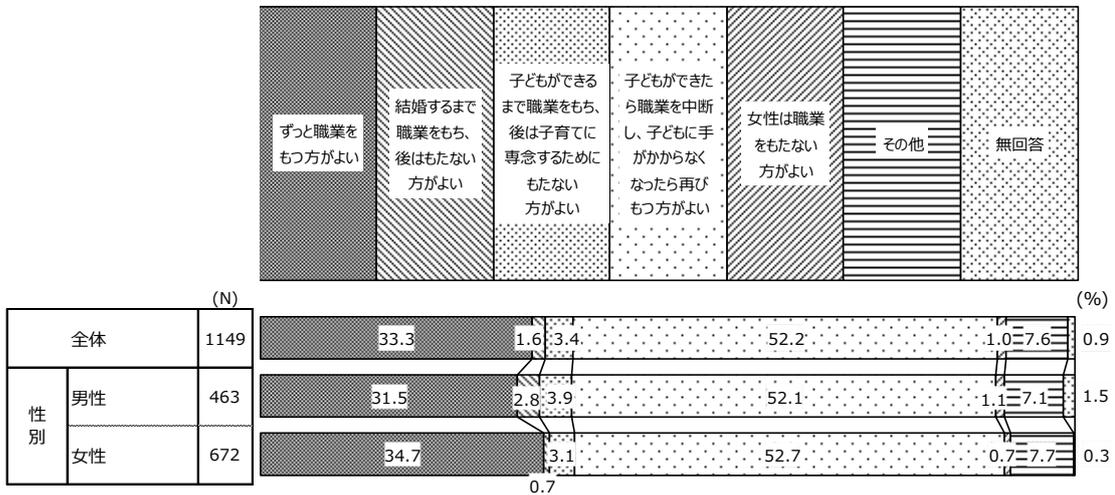
前回調査と比較すると、全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が5.1ポイント減少し、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計が7.4ポイント増加している。

性別でみると、「反対」「どちらかと言えば反対」である男性が6.6ポイント、女性が7.5ポイント増加している。



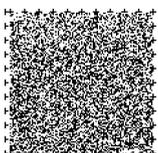
(2) 「女性が職業をもつこと」についての考え

Q5 「女性が職業をもつこと」について、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。
(〇は1つ)

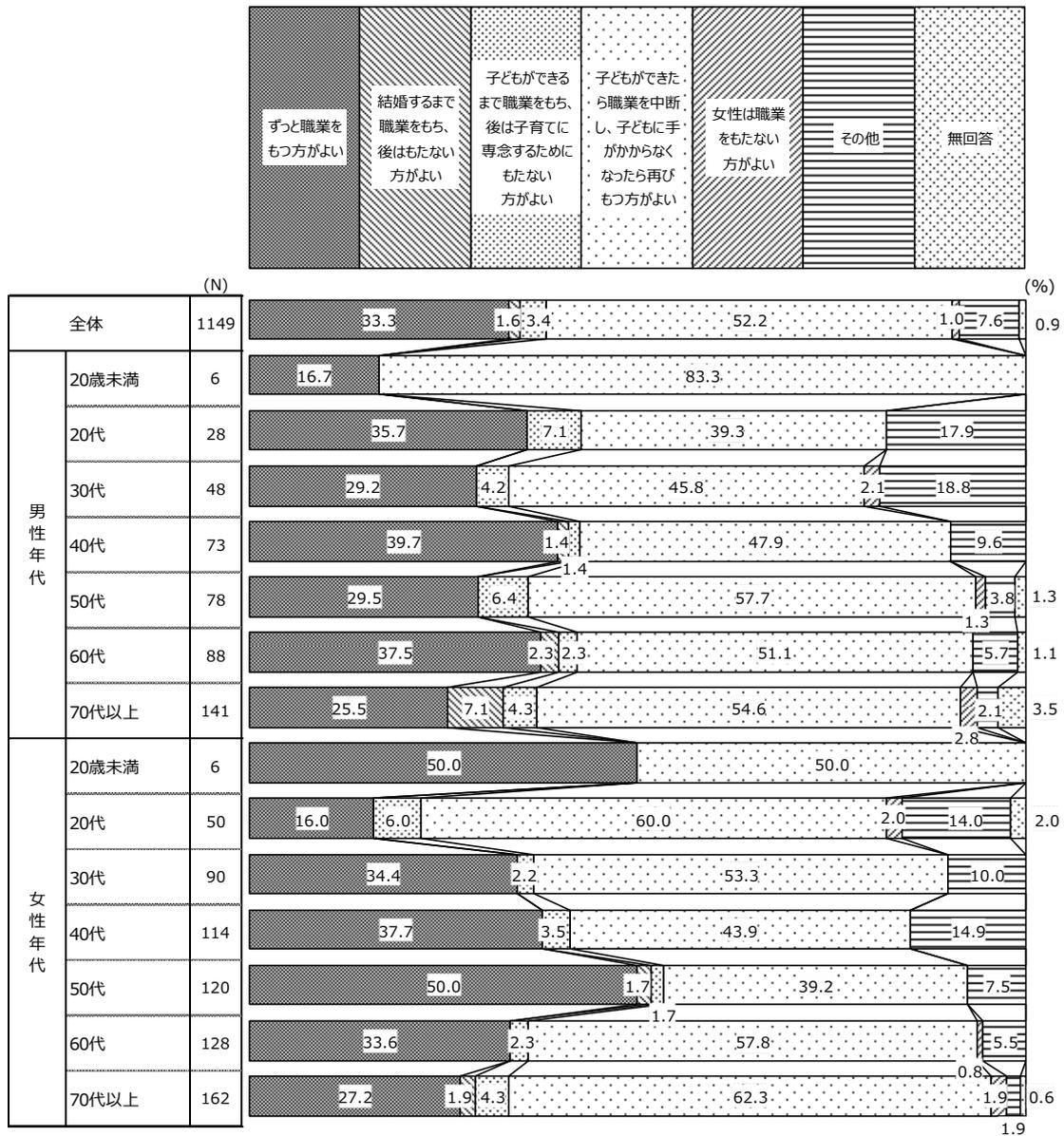


女性が職業をもつことについては、全体では「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がからなくなったら再びもつ方がよい」が52.2%でもっとも高く、「ずっと職業をもつ方がよい」が33.3%で続き、これらを合わせた85.5%が“女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよい”と考えていることになる。

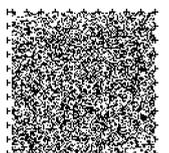
性別でみても同様に、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がからなくなったら再びもつ方がよい」が男性52.1%、女性52.7%、「ずっと職業をもつ方がよい」は男性31.5%、女性34.7%となっている。



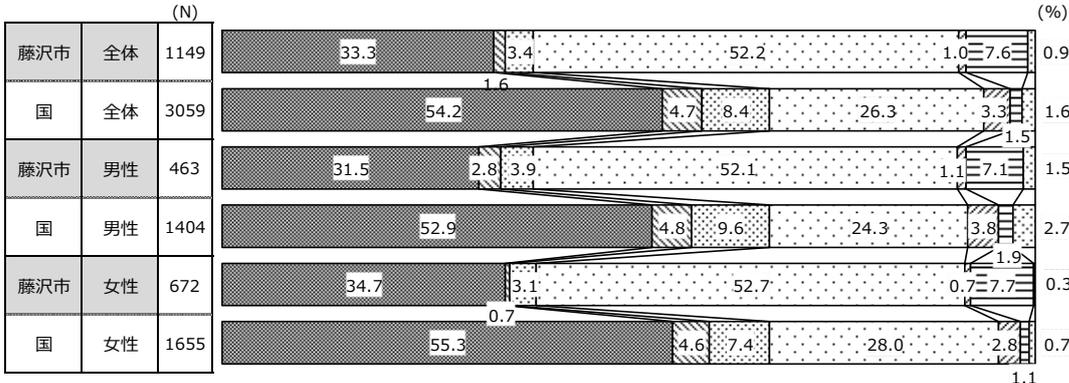
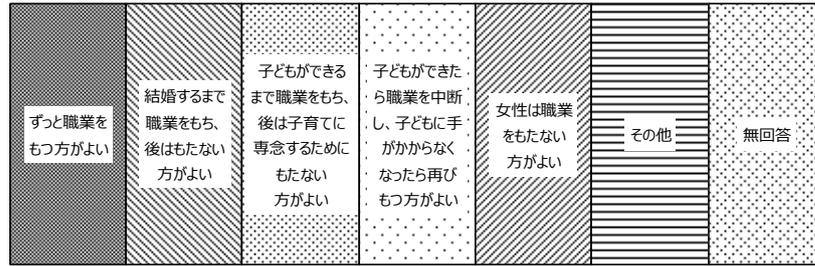
■性別・年代別



性別・年代別では、男性50代、女性20代・60代・70代以上で「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がからなくなったら再びもつ方がよい」が6割前後と高く、女性50代で「ずっと職業をもつ方がよい」が5割と高くなっている。

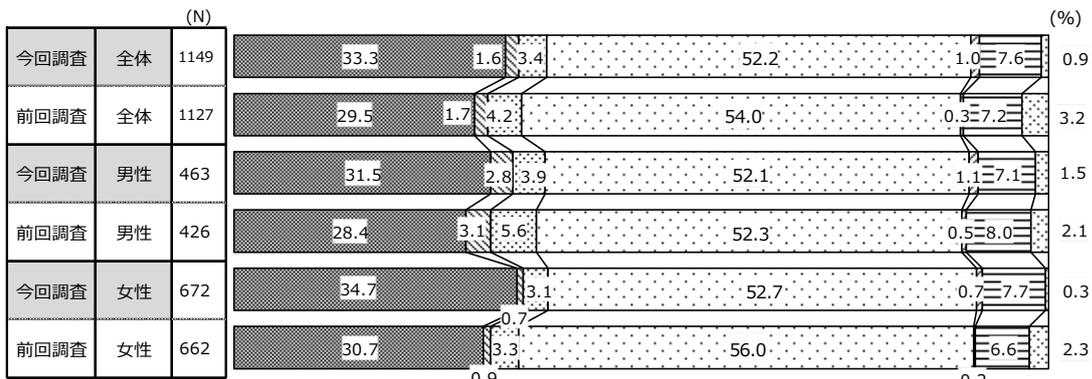
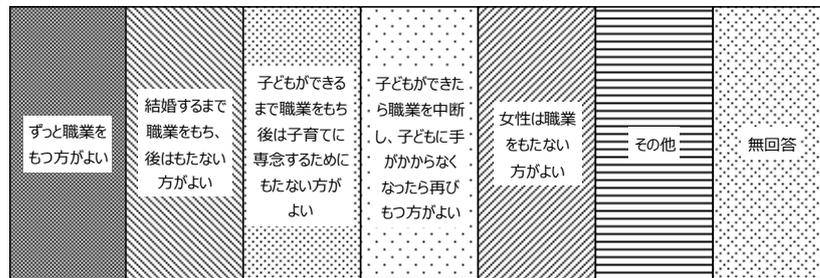


●国との比較

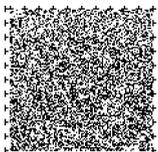


国の調査と比較すると、「ずっと職業をもつ方がよい」（就労継続型）は藤沢市が20.9ポイント低く、「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」（再就職型）は25.9ポイント藤沢市が高くなっており、藤沢市は「再就職型」の意識が高いことがわかる。これは男性・女性に共通した傾向といえる。

◎経年比較

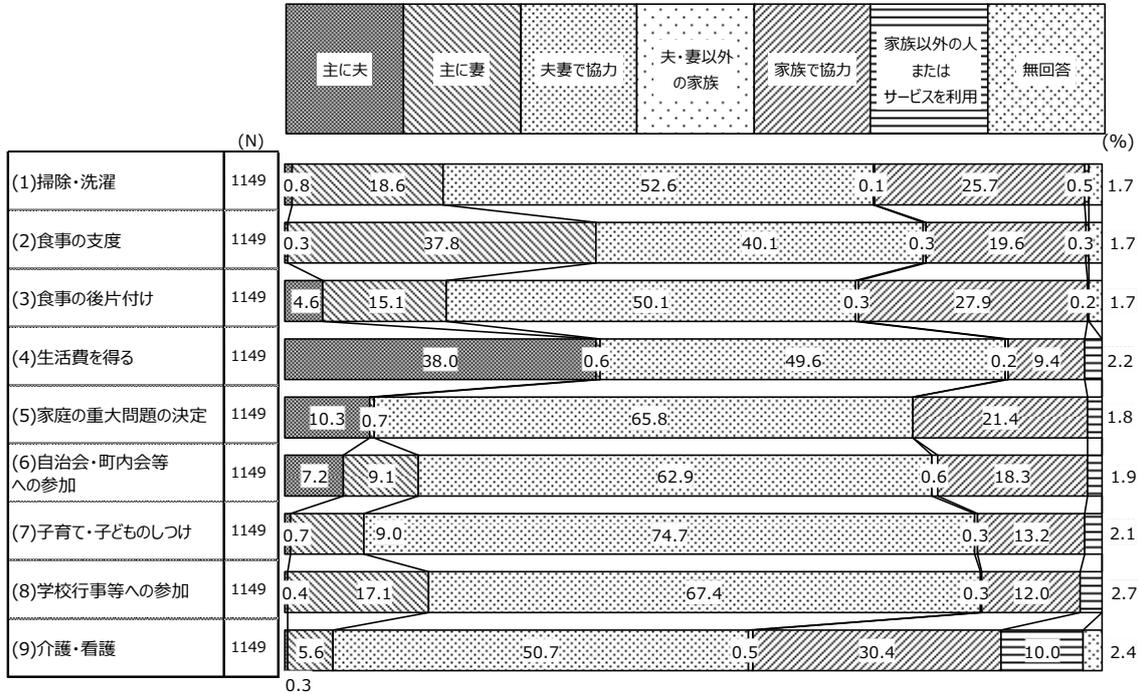


前回調査と比較すると、「ずっと職業をもつ方がよい」が全体3.8ポイント、男性3.1ポイント、女性4.0ポイントそれぞれ増加している。「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」は全体1.8ポイント、男性0.2ポイント、女性3.3ポイント減少している。



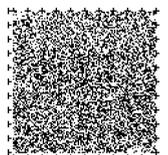
(3) 家庭における役割分担についての考え

Q6 あなたは、次にあげる家庭における役割は、どのように行うのが望ましいと思いますか。
 ((1)～(9)の各項目につき○は1つ)

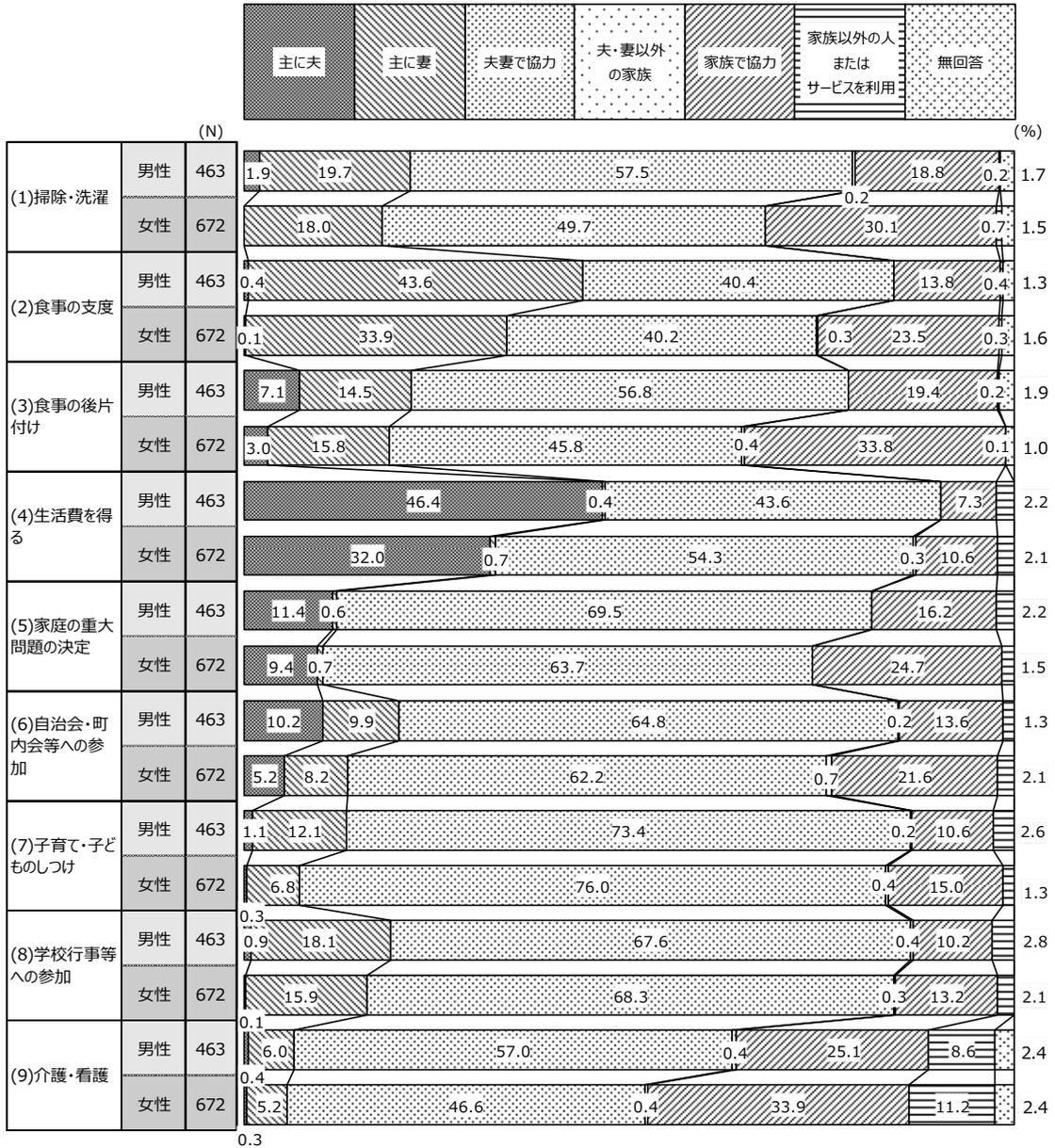


家庭における役割分担については、「夫妻で協力」は『子育て・子どものしつけ』(74.7%)、『学校行事への参加』(67.4%)、『家庭の重大問題の決定』(65.8%)で7割前後にのぼる。また、『自治会・町内会等への参加』(62.9%)、『掃除・洗濯』(52.6%)、『介護・看護』(50.7%)、『食事の後片付け』(50.1%)でも5～6割を占めており、全般的に「夫妻で協力」しあって家庭生活を営むことが望ましいという意識がうかがえる。

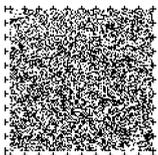
そうした中で、『食事の支度』は「主に妻」が37.8%で、『生活費を得る』は「主に夫」が38.0%と偏りがみられる。



■性別

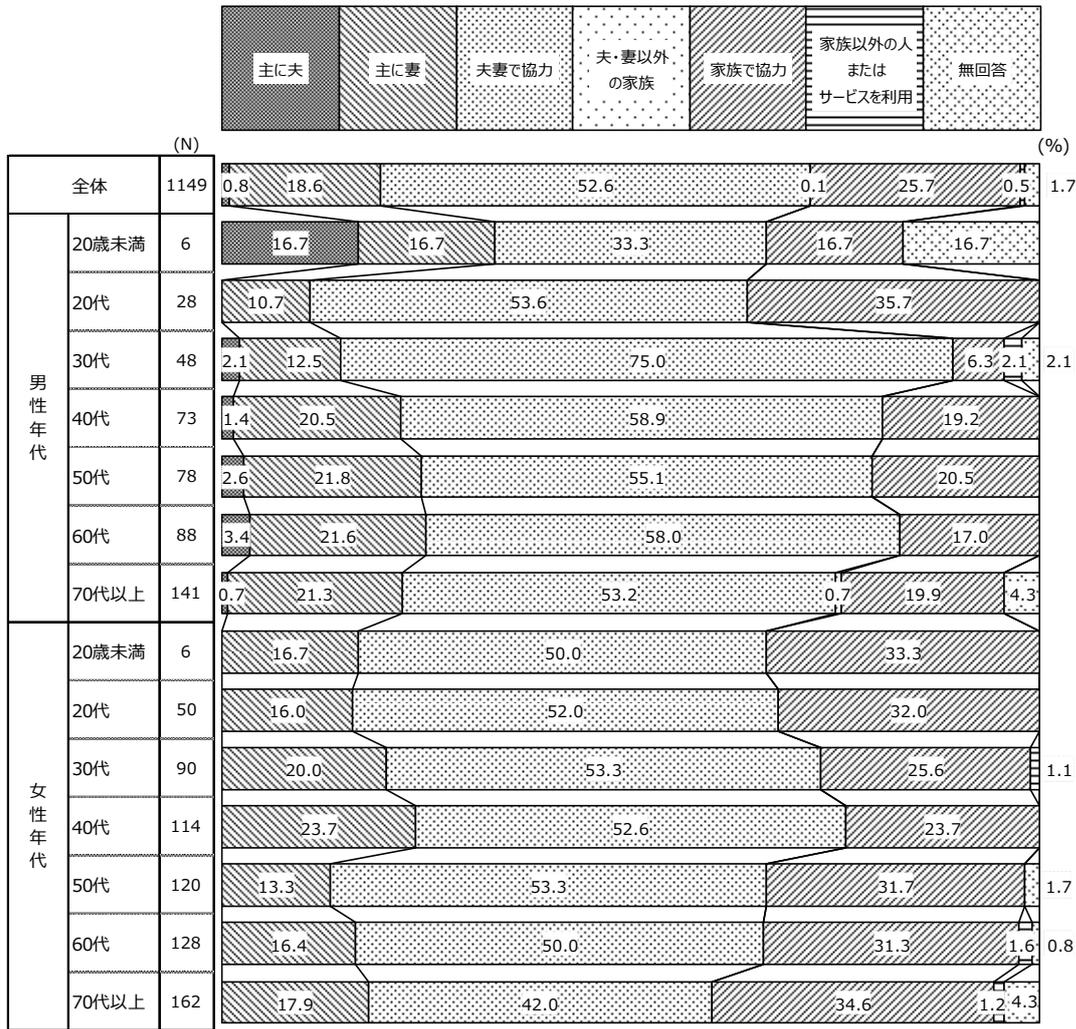


性別でみると、『家庭の重大問題の決定』『自治会・町内会等への参加』『子育て・子どものしつけ』『学校行事への参加』は特に差はみられない。しかし、『掃除・洗濯』『食事の後片付け』『介護・看護』では男性で「夫妻で協力」の割合が高く、女性で「家族で協力」の割合が高くなっている。また、『食事の支度』では男性で「主に妻」の割合が高く、女性で「家族で協力」の割合が高い。さらに『生活費を得る』では、男性で「主に夫」の割合が高く、女性で「夫妻で協力」の割合が高くなっている。

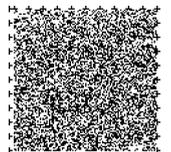


■性別・年代別

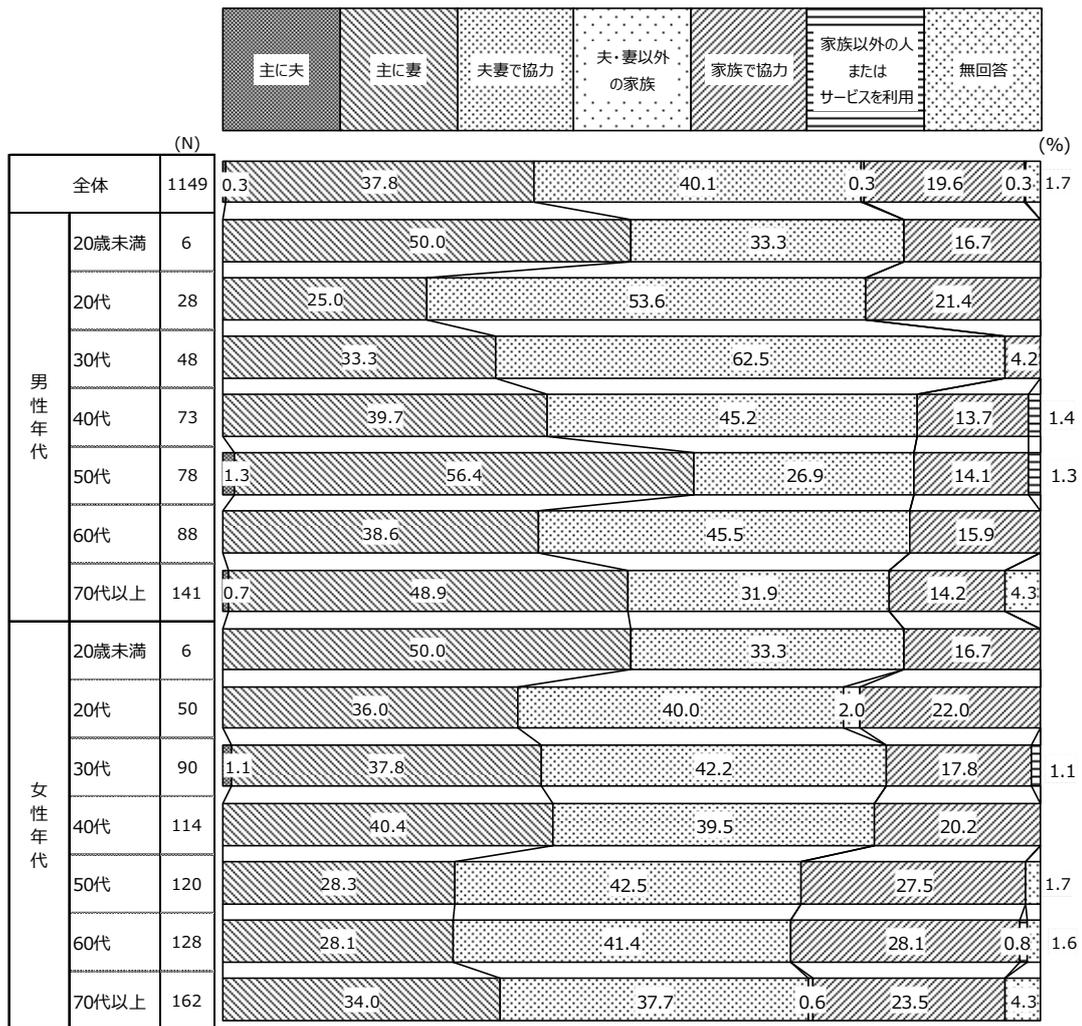
B(3)-(1)掃除・洗濯



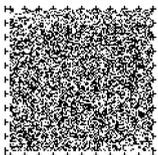
『掃除・洗濯』を性別・年代別で見ると、男性30代で「夫妻で協力」が75.0%ともっとも高く、男性20代、女性70代以上で「家族で協力」が35.7%、34.6%と高くなっている。



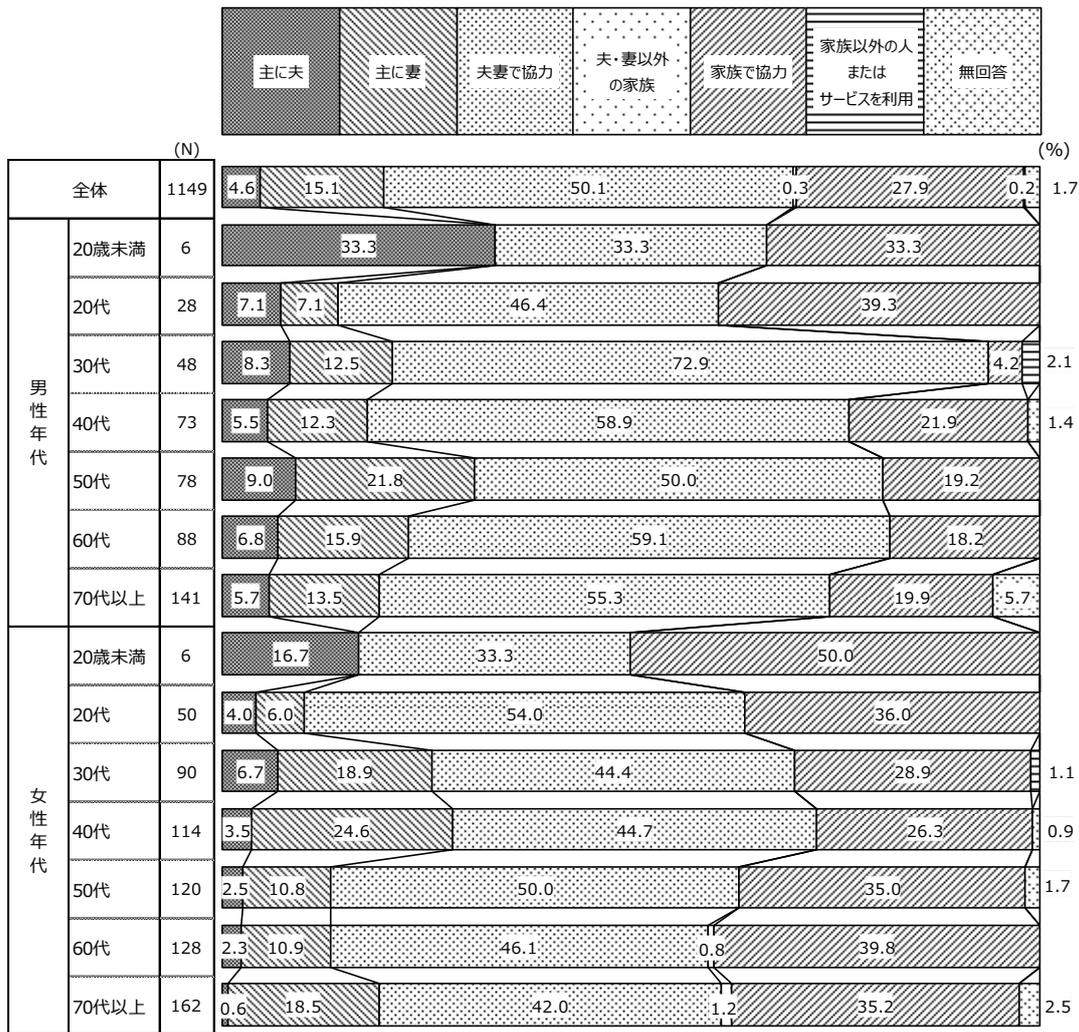
B (3)-(2) 食事の支度



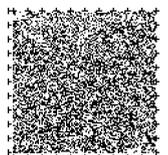
『食事の支度』を性別・年代別で見ると、男性50代で「主に妻」が56.4%と高く、男性20代・30代で「夫妻で協力」が53.6%、62.5%、女性50代・60代で「家族で協力」が27.5%、28.1%と高くなっている。



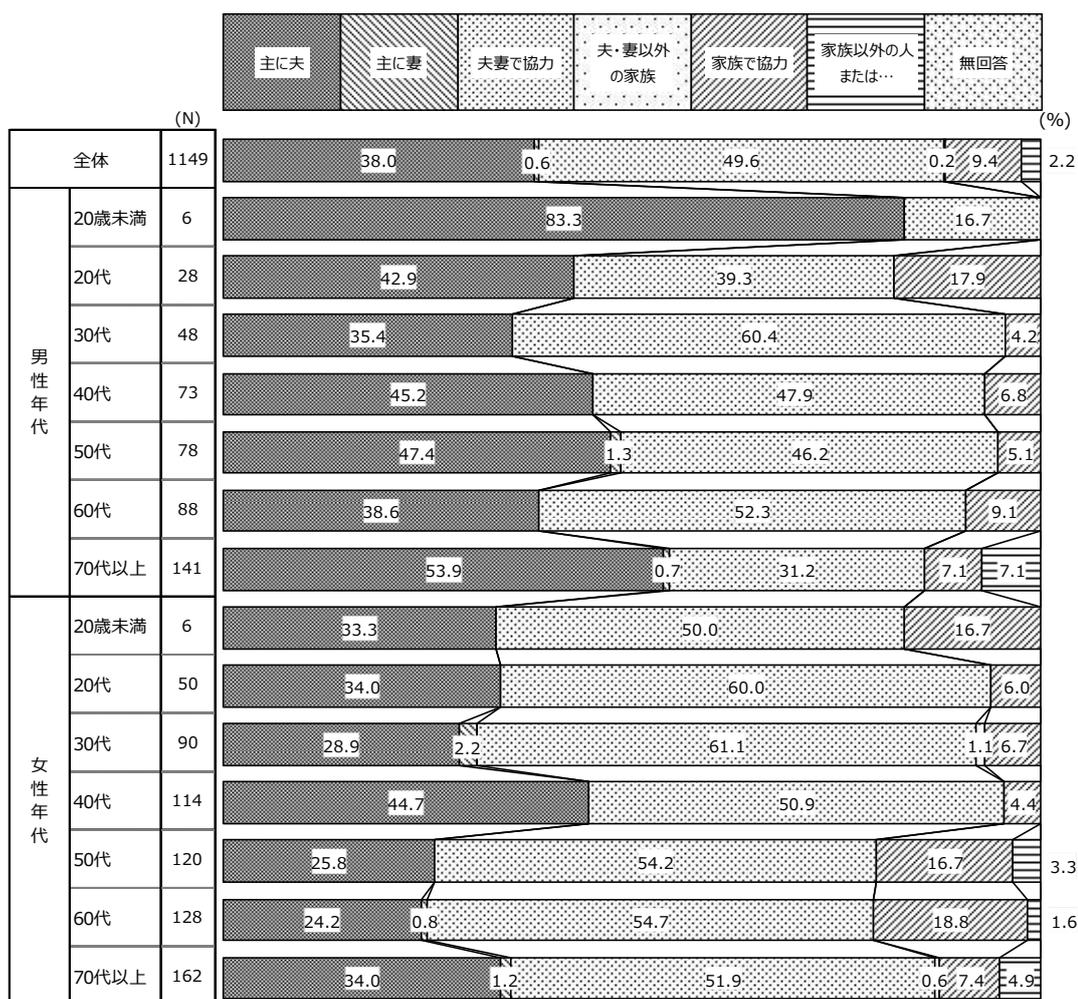
B (3)-(3) 食事の後片付け



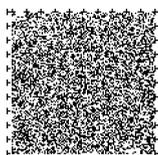
『食事の後片付け』を性別・年代別で見ると、男性50代、女性40代で「主に妻」が21.8%、24.6%と高く、男性30代～70代以上で「夫妻で協力」が5割以上となり、特に30代では72.9%ともっとも高くなっている。男性20代、女性20代・50代～70代以上で「家族で協力」が35.0～39.8%と高くなっている。



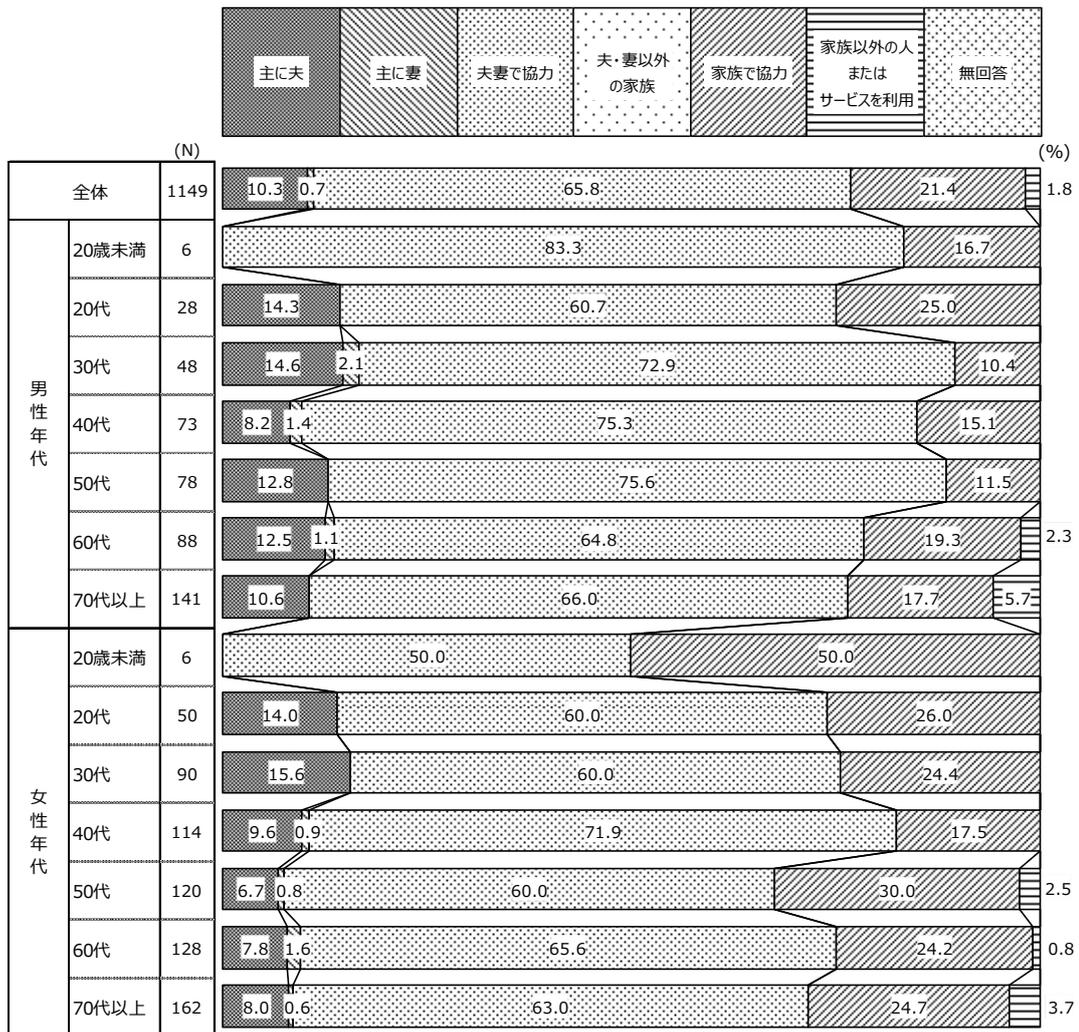
B (3)-(4) 生活費を得る



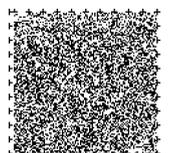
『生活費を得る』を性別・年代別でみると、男性40代・50代・70代以上、女性40代で「主に夫」が44.7～53.9%と高く、男性30代、女性20代・30代で「夫妻で協力」が60.0～61.1%と高くなっている。



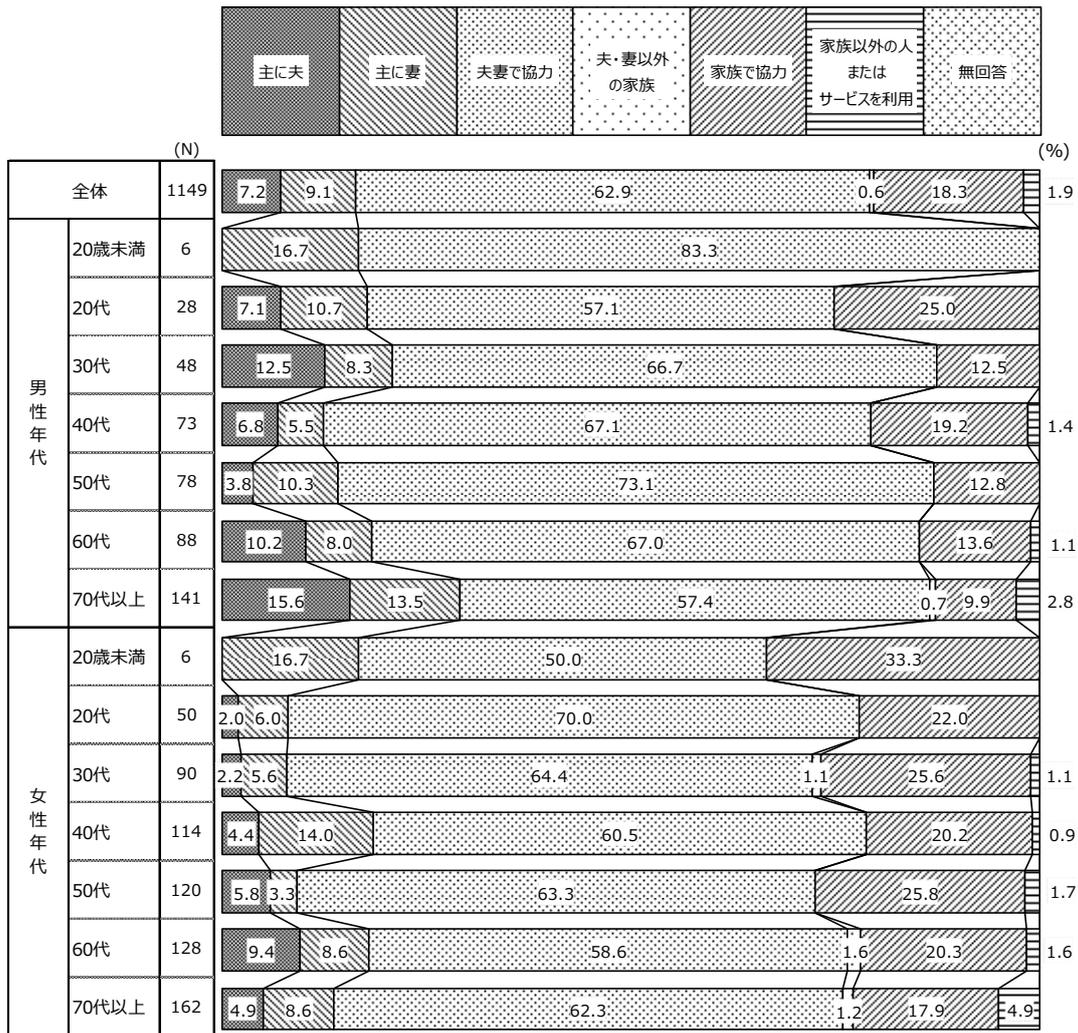
B (3)-(5) 家庭の重大問題の決定



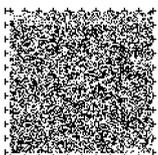
『家庭の重大問題の決定』を性別・年代別で見ると、男性30代～50代、女性40代では「夫妻で協力」が7割以上と高く、女性50代で「家族で協力」が30.0%と高くなっている。



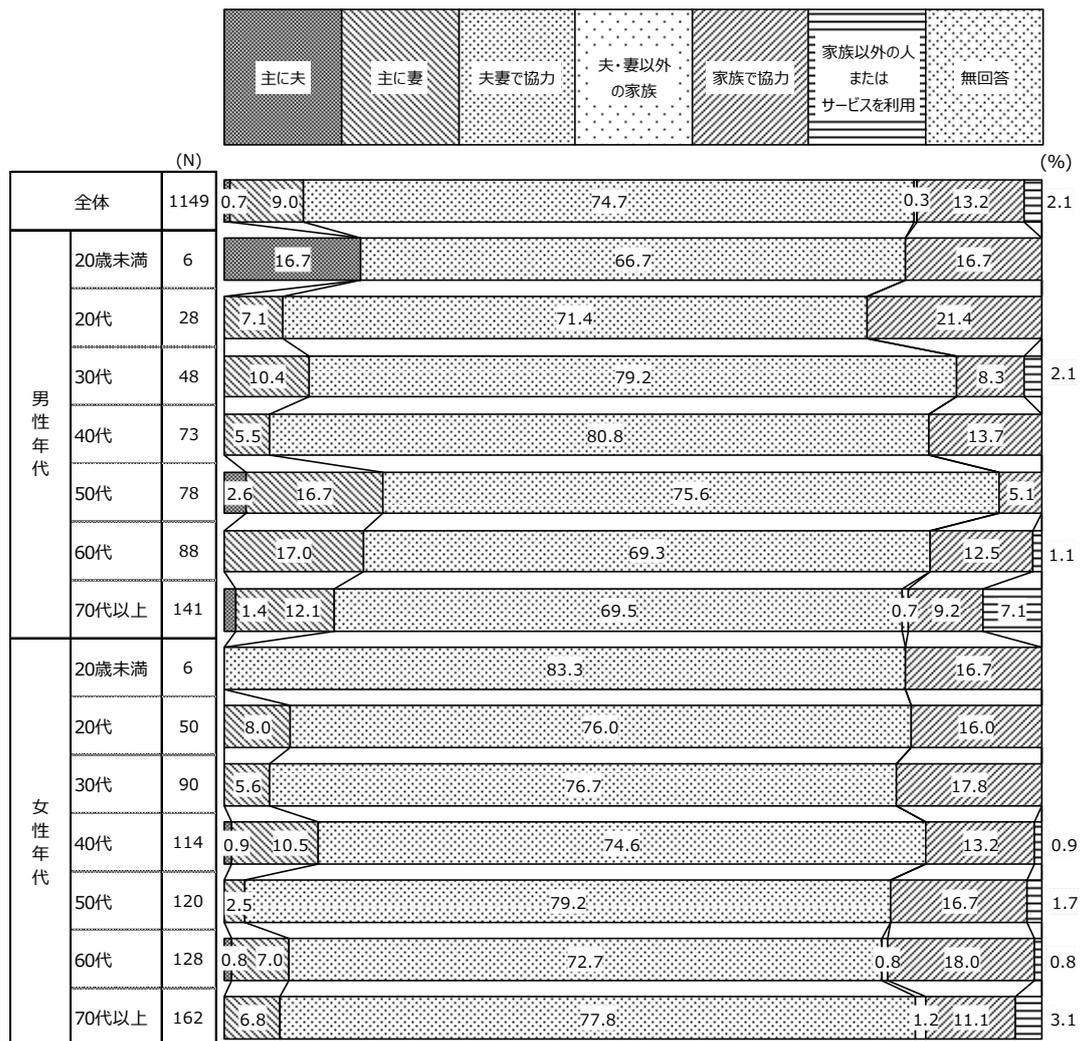
B (3)-(6) 自治会・町内会等への参加



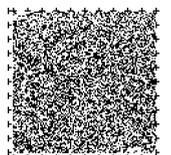
『自治会・町内会等への参加』を性別・年代別で見ると、男性50代、女性20代で「夫妻で協力」が73.1%、70.0%と高くなっている。



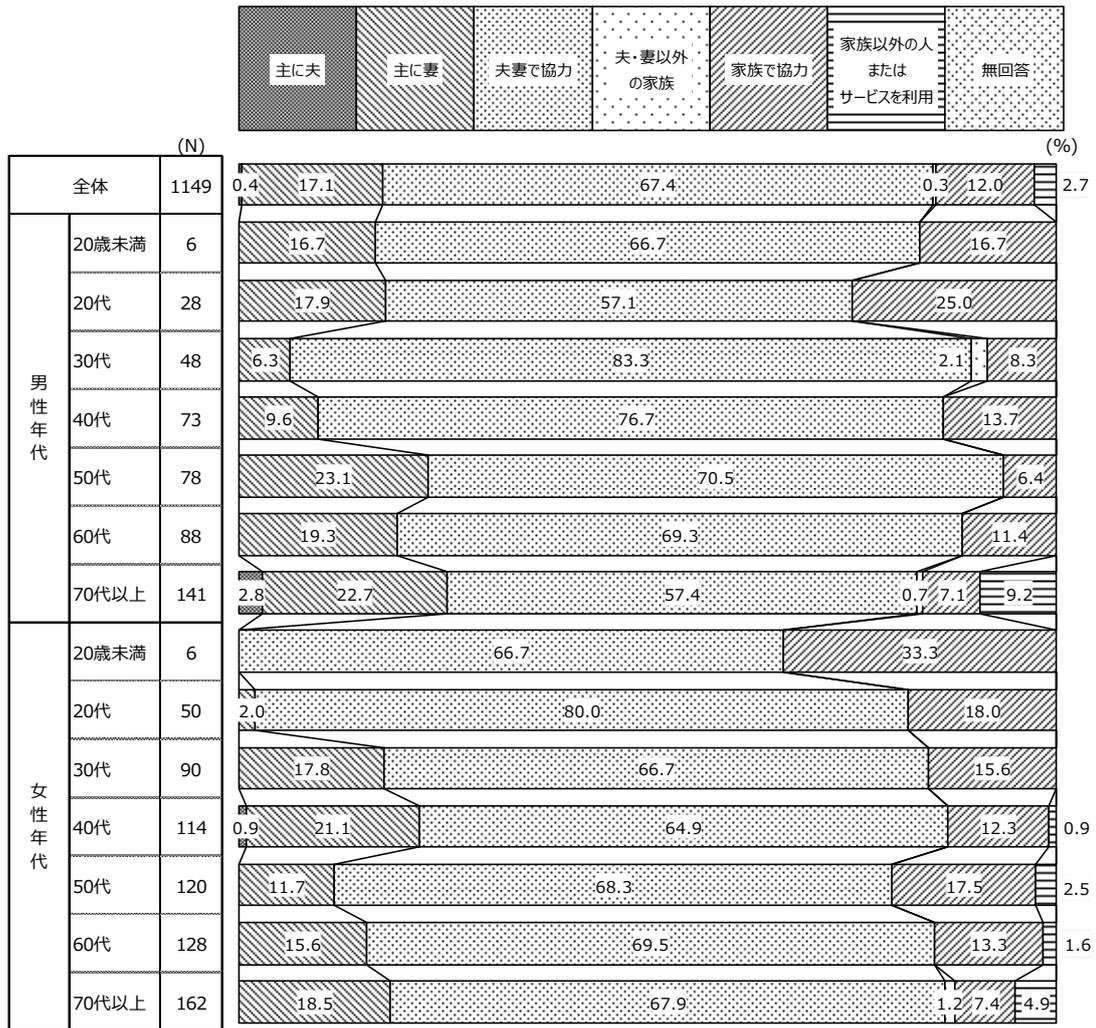
B (3)-(7)子育て・子どものしつけ



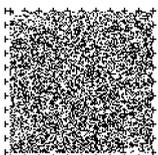
『子育て・子どものしつけ』を性別・年代別で見ると、性別を問わず「夫婦で協力」がすべての年代で高く、特に男性30代・40代、女性50代で79.2～80.8%と高くなっている。



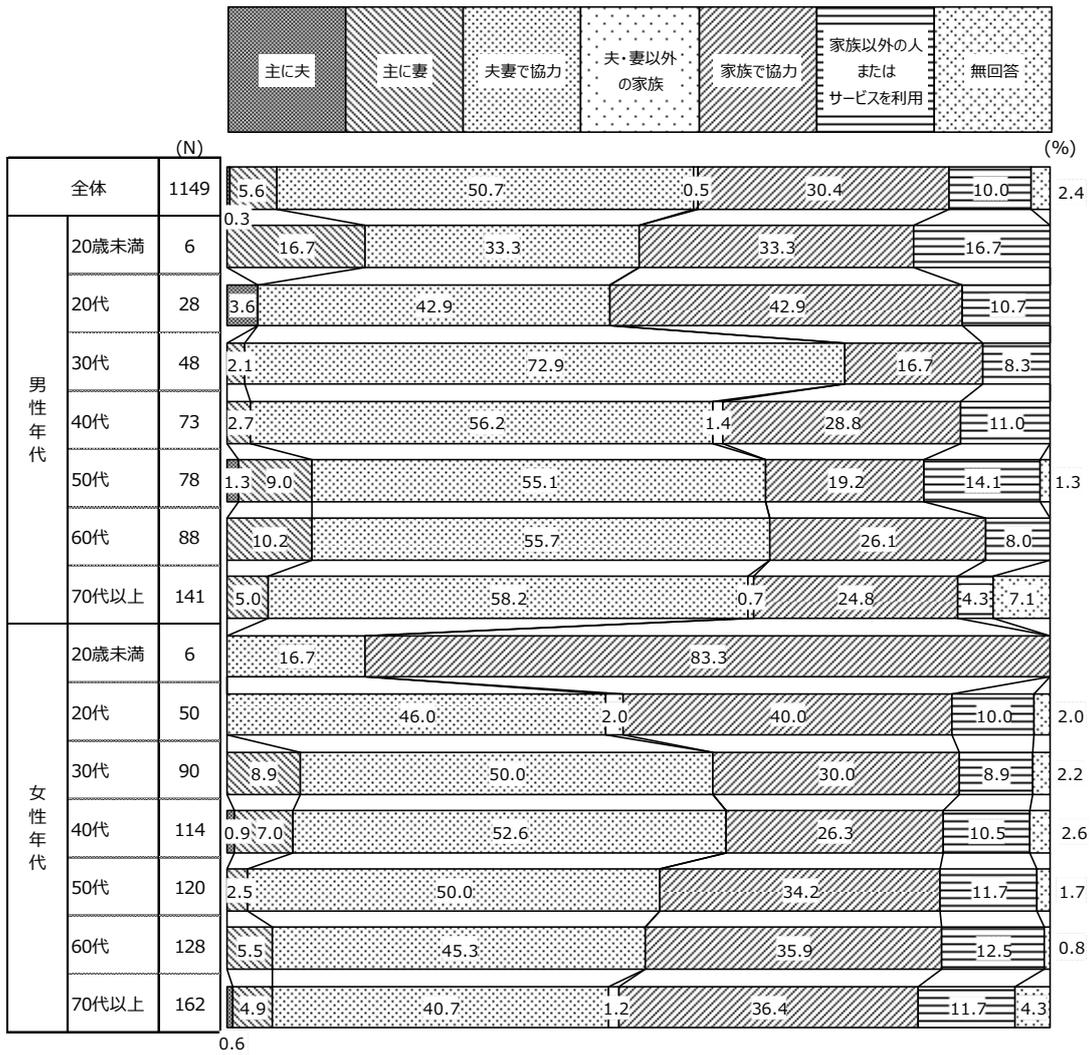
B (3)-(8) 学校行事等への参加



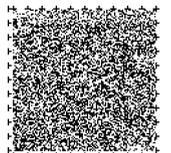
『学校行事等への参加』を性別・年代別で見ると、男性30代・40代、女性20代で「夫妻で協力」が76.7～83.3%と高く、男性20代で「家族で協力」が25.0%と高くなっている。



B (3)-(9) 介護・看護



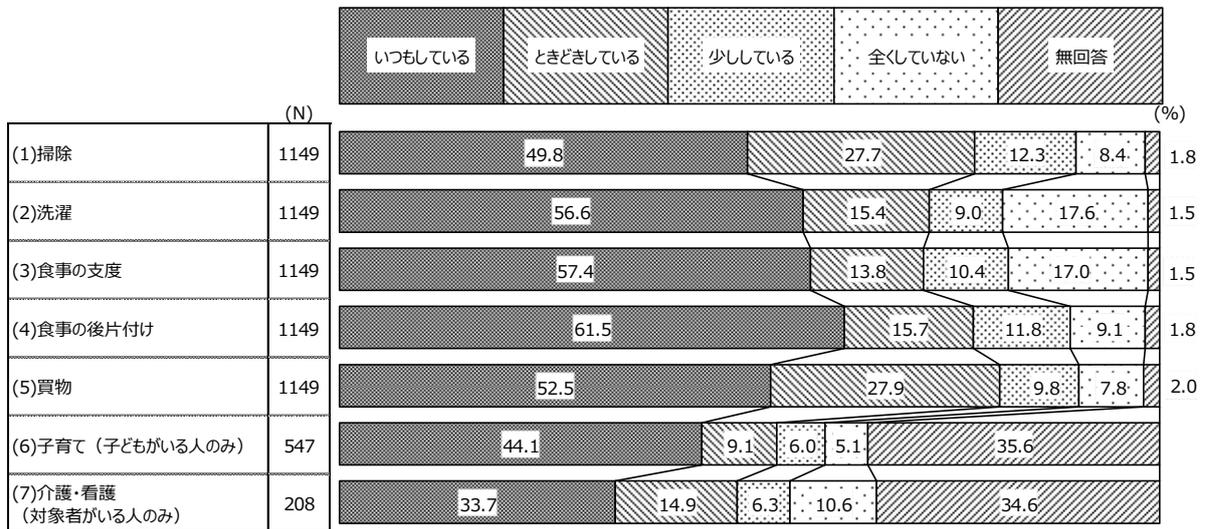
『介護・看護』を性別・年代別で見ると、男性30代で「夫妻で協力」が72.9%と高く、男性20代、女性20代で「家族で協力」が42.9%、40.0%と高くなっている。



(4) 家庭における役割分担の状況

Q7 あなたは、次にあげる家庭における役割にどの程度たずさわっていますか。((1)~(7)の各項目につき○は1つ)

また、「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」と答えた方は、普段1日に何分ぐらいしているかお答えください。日により異なる方は、週平均をお答えください。



家庭の役割にたずさわっている割合(「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」の合計)は、『買物』(90.2%)、『掃除』(89.8%)、『食事の後片付け』(89.0%)が9割前後、『食事の支度』(81.6%)、『洗濯』(81.0%)が8割強、『子育て』が59.2%、『介護・看護』が54.9%となっている。

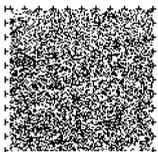
■ 平均時間数
<全体>

	掃除	洗濯	食事の支度	食事の後片付け	買物	子育て (み)	介護・看護 (み)
全体	33.4	39.7	65.7	29.9	48.2	443.0	200.9
男性	23.3	25.7	35.0	19.0	40.3	142.5	164.7
女性	39.2	45.5	78.2	35.8	52.2	599.9	220.9

<就学前の子どもがいる人>

(該当者は、P18 (6) 一番下の子どもの年齢区分で、「就学前」を回答した人)

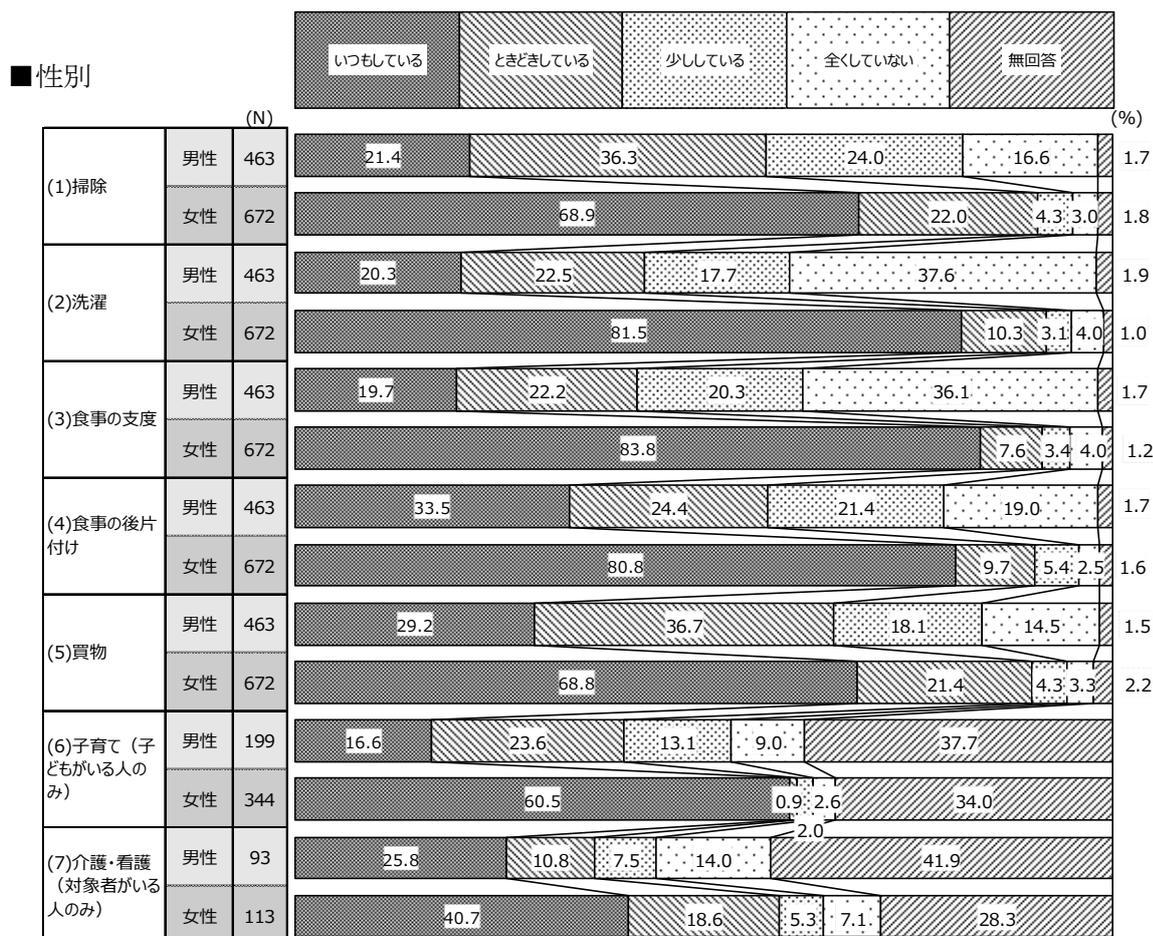
	掃除	洗濯	食事の支度	食事の後片付け	買物	子育て (み)	介護・看護 (み)
全体	29.6	30.9	68.8	26.8	46.1	717.9	30.0
男性	14.0	16.3	26.4	13.8	35.5	171.3	-
女性	36.0	35.4	83.5	31.9	49.9	950.7	30.0



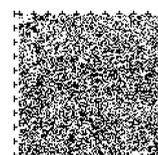
家庭の役割にたずさわっている平均時間は、『子育て』が443.0分、『介護・看護』が200.9分と特に長く、以下、『食事の支度』(65.7分)、『買物』(48.2分)、『洗濯』(39.7分)、『掃除』(33.4分)、『食事の後片付け』(29.9分)の順となっている。

平均時間を性別で見ると、すべての項目で女性がたずさわっている時間が男性を上回っているが、『食事の支度』(女性78.2分、男性35.0分)、『子育て』(女性599.9分、男性142.5分)、『介護・看護』(女性220.9分、男性164.7分)などが男性を大きく上回っている。

就学前の子どもがいる人の家庭の役割にたずさわっている平均時間を性別で見ると、『食事の支度』は女性83.5分、男性26.4分、『子育て』は女性950.7分、男性171.3分など女性がたずさわっている時間が男性を大きく上回っている。



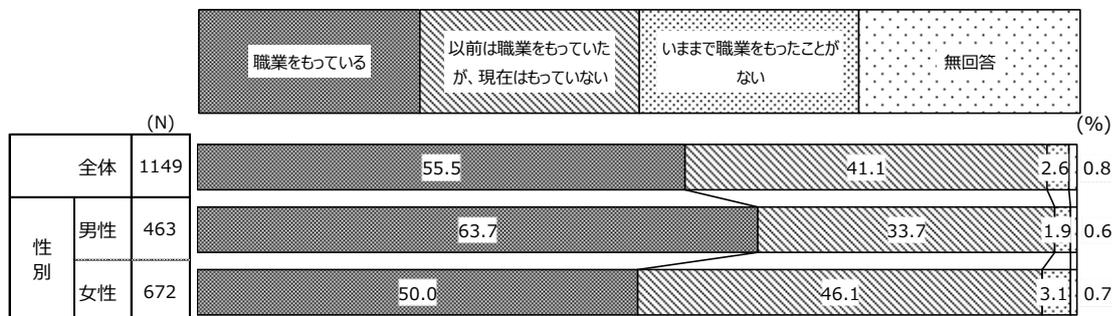
家庭の役割にたずさわっている割合を性別で見ると、どの役割でも女性が男性を上回っている。男性では『洗濯』『食事の支度』で、「全くしていない」が4割弱と高くなっている。



C 仕事と家庭の両立について

(1) 就業状況

Q8 あなたは現在職業をもっていますか。(〇は1つ)



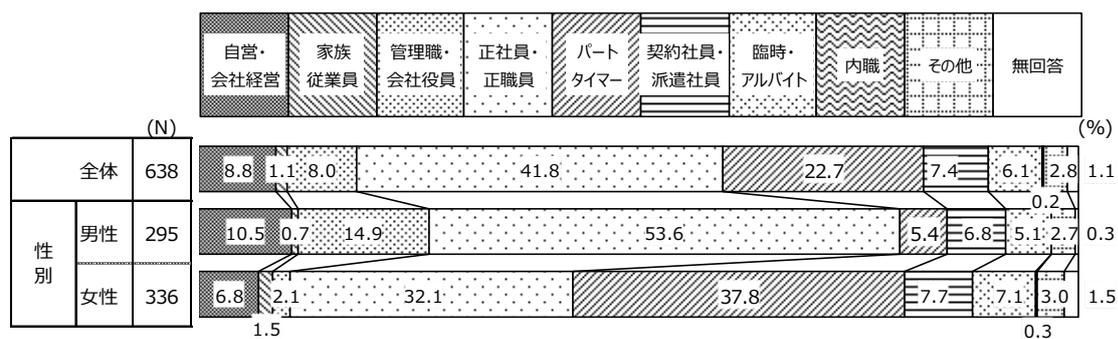
現在の就業状況については、全体では「職業をもっている」が55.5%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」が41.1%となっている。

性別では、「職業をもっている」は男性63.7%、女性50.0%で女性が13.7ポイント低く、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」は男性33.7%、女性46.1%で女性が12.4ポイント高くなっている。

(2) 就業形態

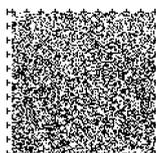
【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

Q8-1 あなたの就業形態は、次のどれに該当しますか。(〇は1つ)

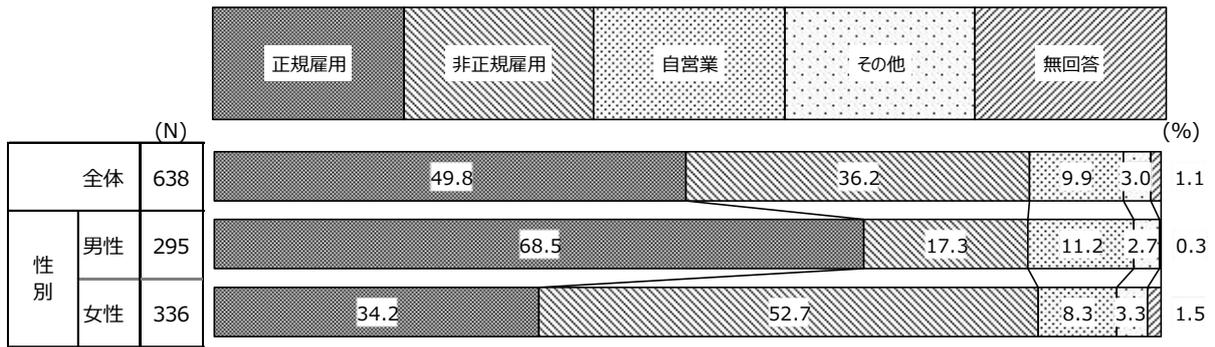


就業形態は、全体では「正社員・正職員」が41.8%でもっとも高く、次いで「パートタイマー」22.7%、「自営・会社経営」8.8%、「管理職・会社役員」8.0%となっている。

性別でみると、「正社員・正職員」は男性(53.6%)が女性(32.1%)を21.5ポイント上回り、「パートタイマー」は女性(37.8%)が男性(5.4%)を32.4ポイントと大きく上回っている。また、「管理職・会社役員」では男性(14.9%)が女性(2.1%)を12.8ポイント上回っている。



(3) 雇用形態



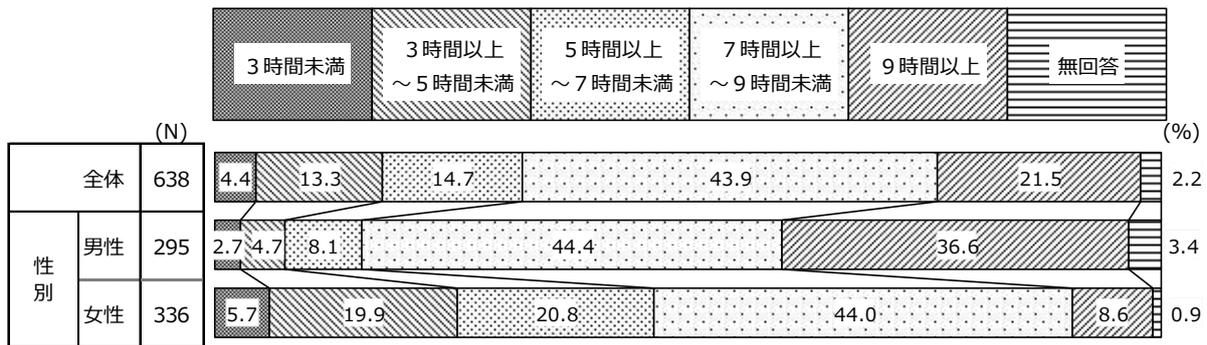
雇用形態は、全体では「正規雇用」が49.8%、「非正規雇用」が36.2%、「自営業」が9.9%、「その他」が3.0%となっている。

性別で見ると、男性は「正規雇用」が68.5%と高く、女性は「非正規雇用」が52.7%と高くなっている。

(4) 実労働時間

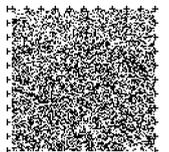
【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

Q8-2 あなたの一日平均の実労働時間はどれくらいですか。(〇は1つ)



実労働時間は、全体では「7時間以上～9時間未満」が43.9%でもっとも高く、次いで「9時間以上」が21.5%、「5時間以上～7時間未満」が14.7%、「3時間以上～5時間未満」が13.3%となっている。

性別で見ると、「7時間以上～9時間未満」は男性(44.4%)、女性(44.0%)とともに高くなっている。次いで、男性は「9時間以上」が36.6%、女性は「5時間以上～7時間未満」が20.8%、「3時間以上～5時間未満」が19.9%と続いている。

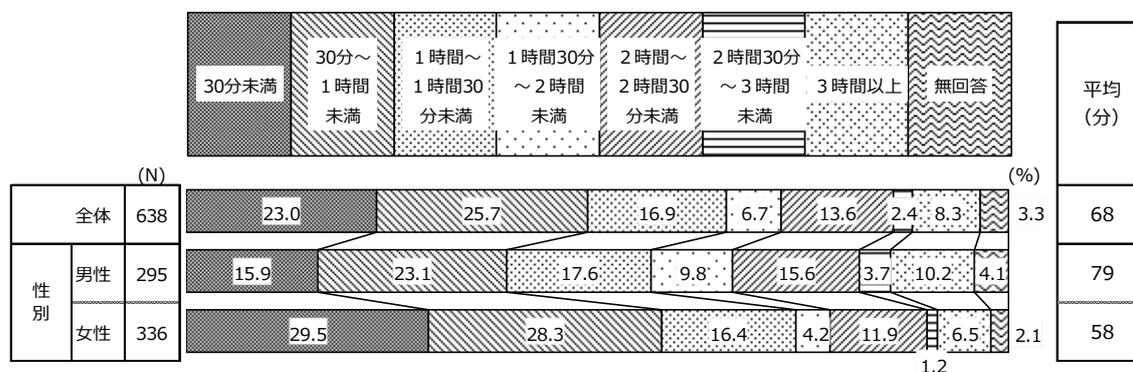


(5) 通勤時間（往復）

【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

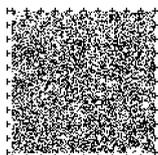
Q8-3 あなたの通勤時間はどれくらいですか。（ ）にご記入ください。

※通勤時間は往復の合計時間を記入



通勤時間は、全体では「30分～1時間未満」が25.7%、「30分未満」が23.0%、「1時間～1時間30分未満」が16.9%となっている。

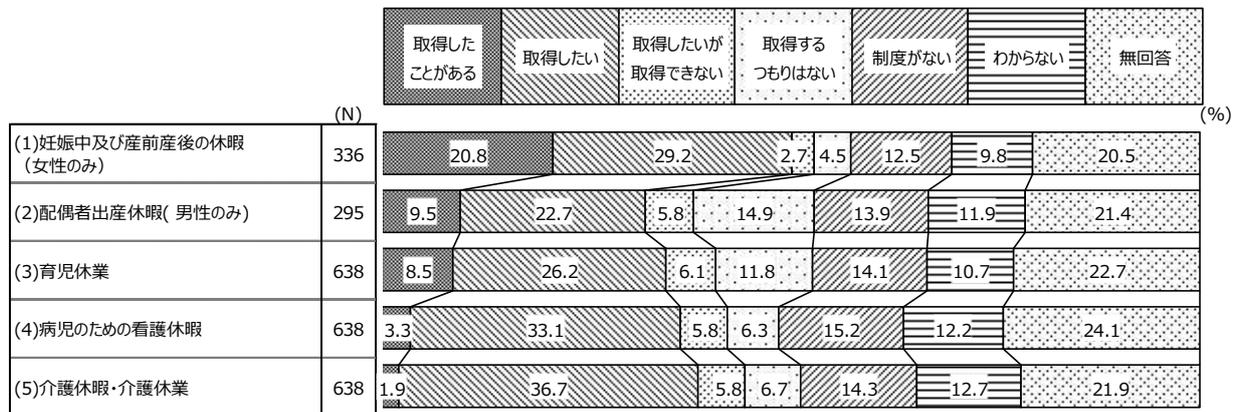
平均通勤時間をみると、全体での平均は68分となっており、性別では男性（79分）が女性（58分）より21分長くなっている。



(6) 産前産後休暇、育児休業、看護休暇、介護休業の取得の有無と取得希望

【Q8で「職業をもっている」と答えた人】

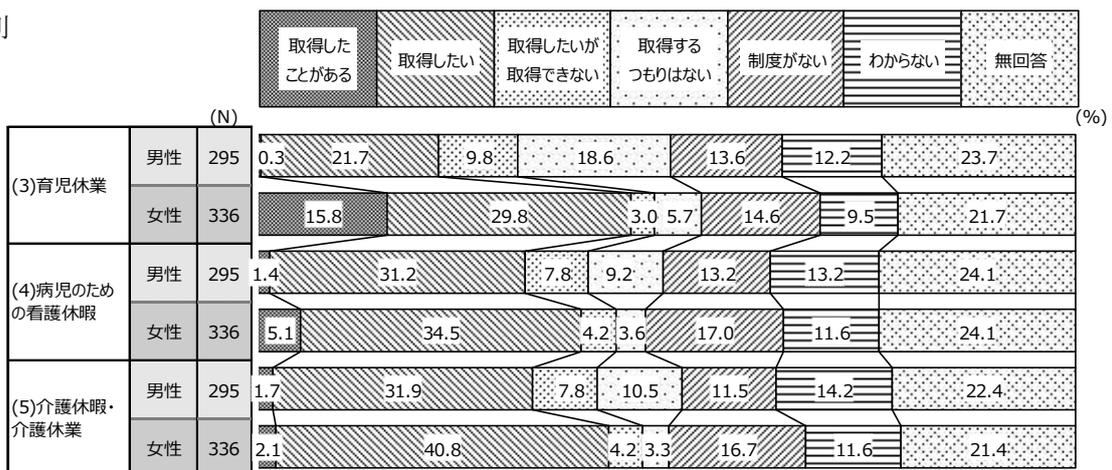
Q8-4 妊娠中及び産前産後の休暇、育児休業、病児のための看護休暇、介護休暇、介護休業を取得したことがありますか。または、取得したいと思いますか。(1)～(5)の各項目につき○は1つ)



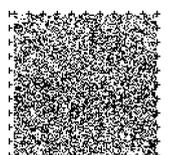
出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業の取得経験(「取得したことがある」)は、女性のみ質問した『妊娠中及び産前産後の休暇』が20.8%でもっとも高く、以下、男性のみ質問した『配偶者出産休暇』(9.5%)、『育児休業』(8.5%)、『病児のための看護休暇』(3.3%)、『介護休暇・介護休業』(1.9%)の順となっている。

こうした休暇・休業の取得意向(「取得したい」)は、『介護休暇・介護休業』が36.7%でもっとも高く、以下、『病児のための看護休暇』(33.1%)、『妊娠中及び産前産後の休暇』(29.2%)、『育児休業』(26.2%)、『配偶者出産休暇』(22.7%)の順となっている。なお、いずれの休暇・休業についても、職場に「制度がない」が1割強を占めている。

■性別

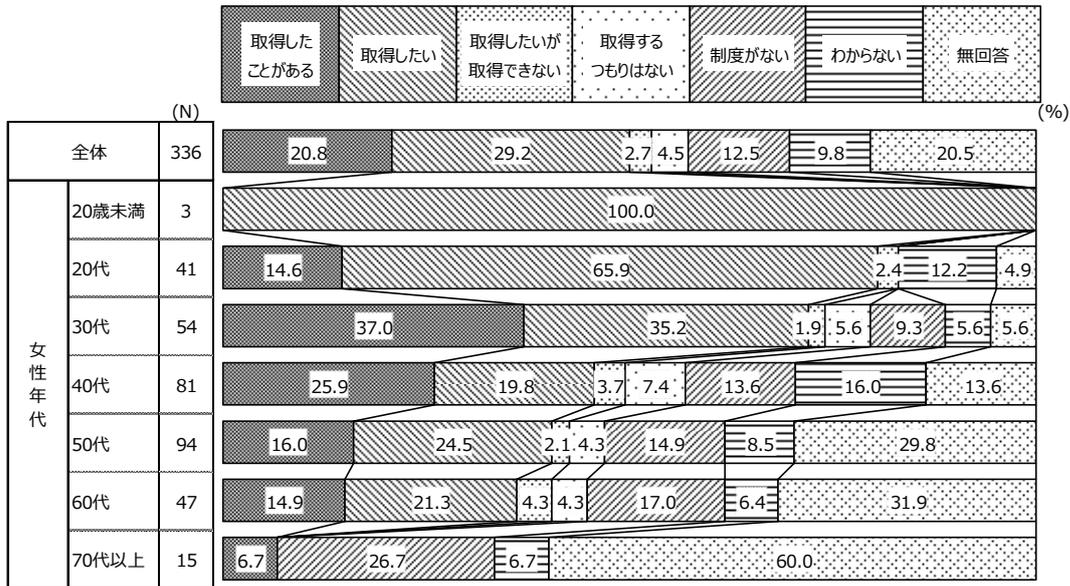


性別でみると、『育児休業』は女性の取得経験(15.8%)、取得意向(29.8%)が高く、『介護休暇・介護休業』では女性の取得意向(40.8%)が男性(31.9%)より8.9ポイント高くなっている。



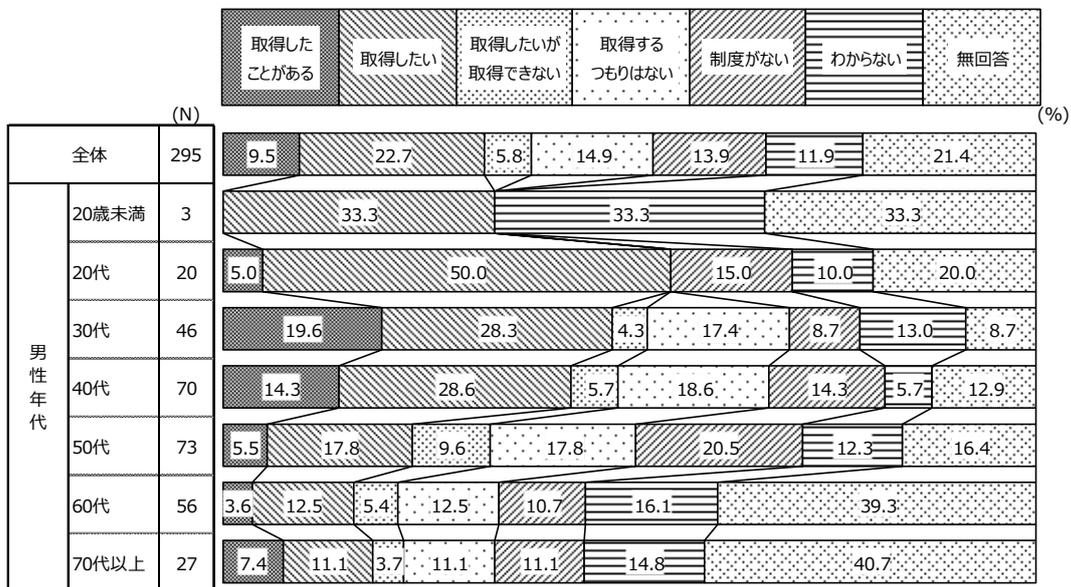
■性別・年代別

C (6)-(1) 妊娠中及び産前産後の休暇(女性のみ)

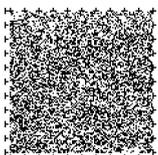


年代別の取得経験は、30代・40代で37.0%、25.9%と高く、取得意向は、20代が65.9%でもっとも高く、次いで30代が35.2%と高くなっている。

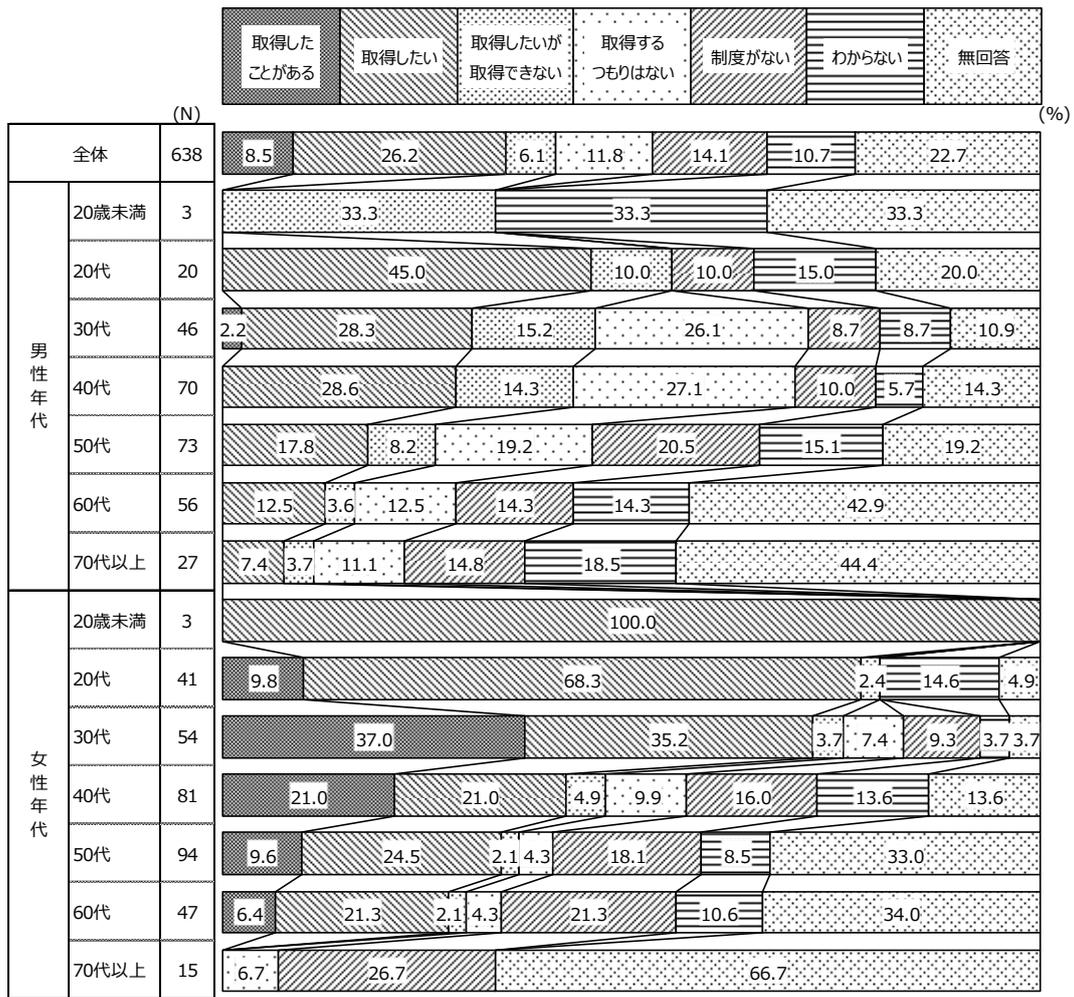
C (6)-(2) 配偶者出産休暇(男性のみ)



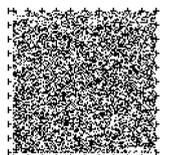
年代別の取得経験は、30代・40代で19.6%、14.3%と高い。取得意向は20代で50.0%ともっとも高く、男性30代・40代で28.3%、28.6%と続いている。



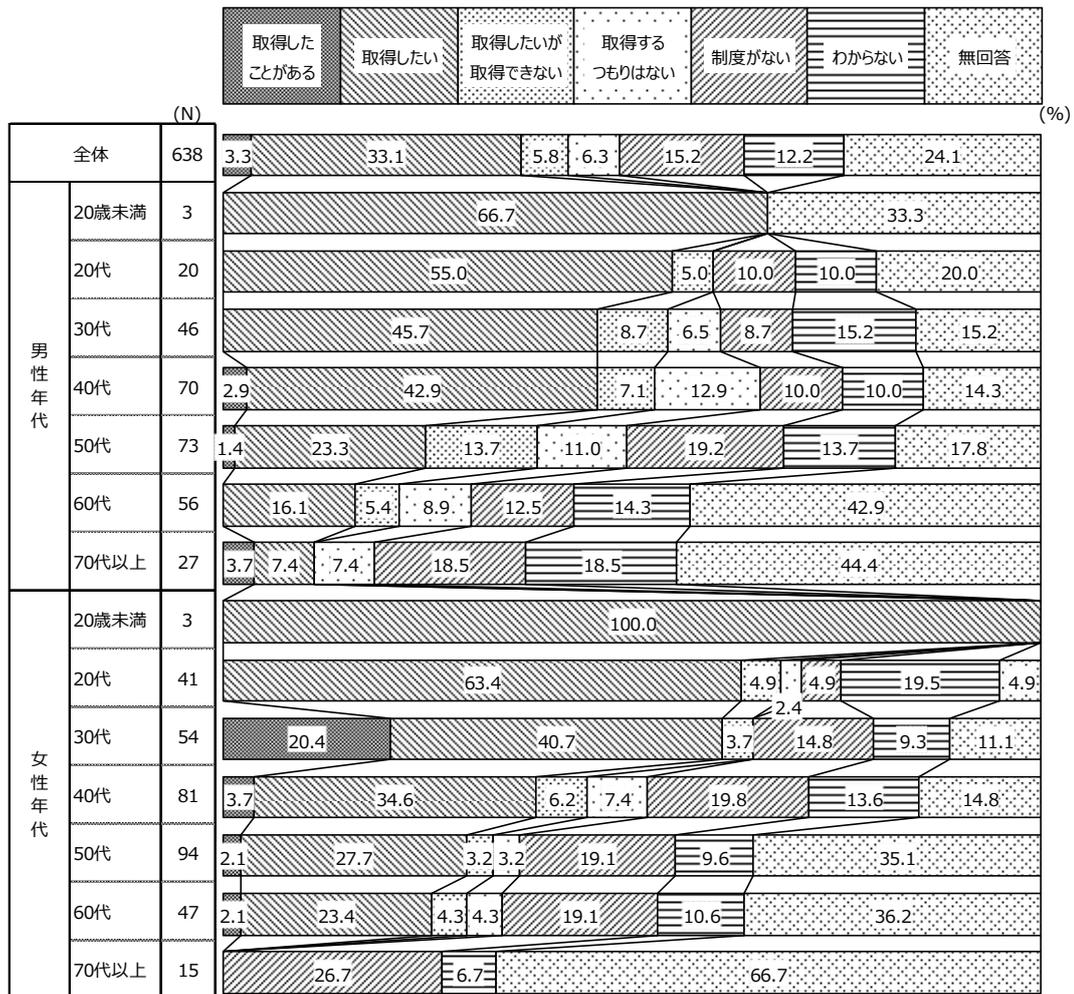
C (6)-(3) 育児休業



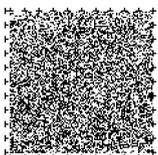
性別・年代別の取得経験は、女性30代・40代で37.0%、21.0%と高くなっている。取得意向は、男性20代で45.0%、女性20代・30代で68.3%、35.2%と高くなっている。



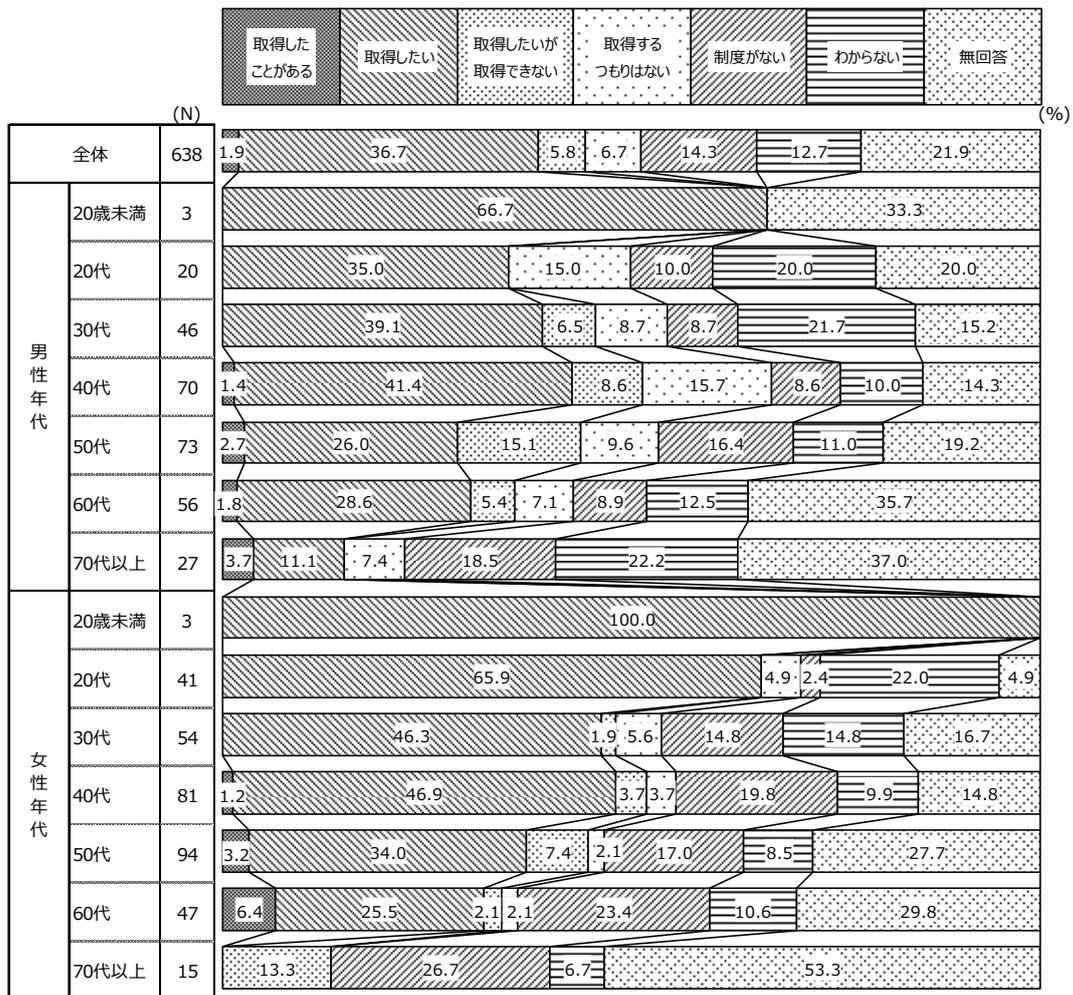
C (6)-(4) 病児のための看護休暇



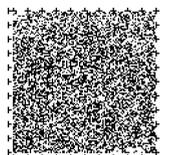
性別・年代別の取得経験は、女性30代で20.4%と高くなっている。取得意向は、男性20代で55.0%と高く、30代で45.7%、40代で42.9%と続いている。女性では20代が63.4%ともっとも高くなっている。



C (6)-(5) 介護休暇・介護休業

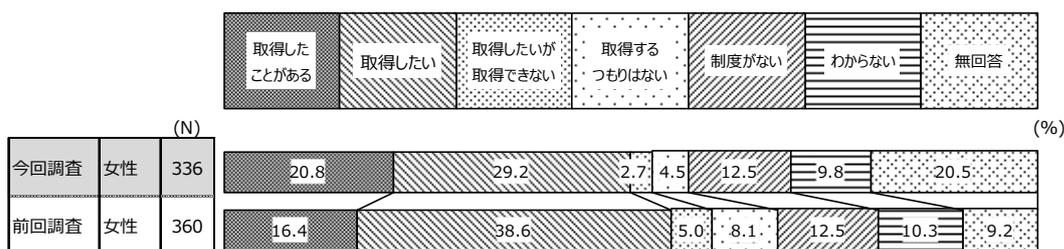


性別・年代別の取得経験は、女性60代が6.4%でもっとも高くなっている。取得意向は、女性20代で65.9%、女性30代・40代で46.3%、46.9%と高く、男性は40代が41.4%ともっとも高くなっている。



◎経年比較

C (6)-(1) 妊娠中及び産前産後の休暇(女性のみ)



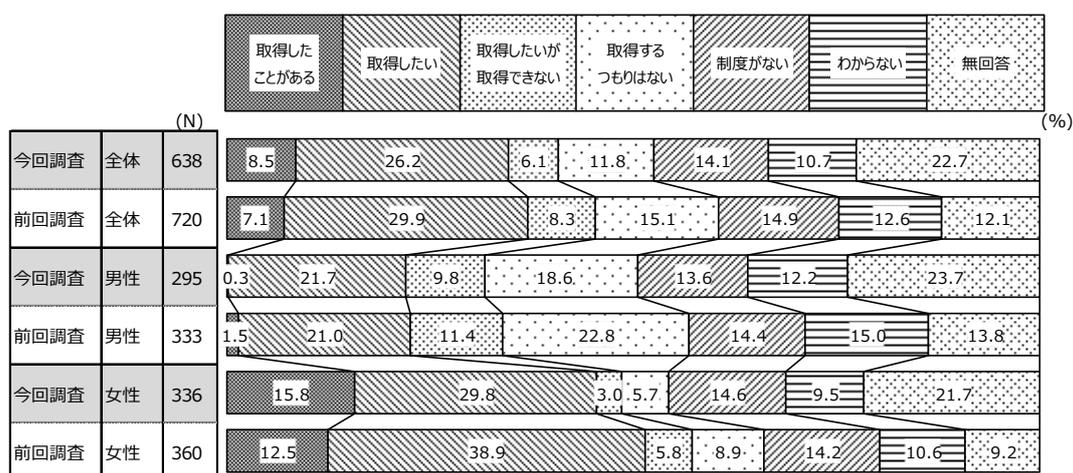
前回調査と比較すると、「取得したことがある」は4.4ポイント増加している。また、「取得したい」は9.4ポイント減少、「取得するつもりはない」は3.6ポイント減少している。

C (6)-(2) 配偶者出産休暇(男性のみ)

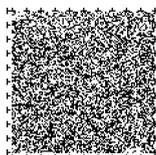


前回調査と比較すると、「取得したい」は2.0ポイント増加している。また、「取得したことがある」は1.9ポイント減少、「取得したいが取得できない」は3.8ポイント減少、「取得するつもりはない」は2.2ポイント減少している。

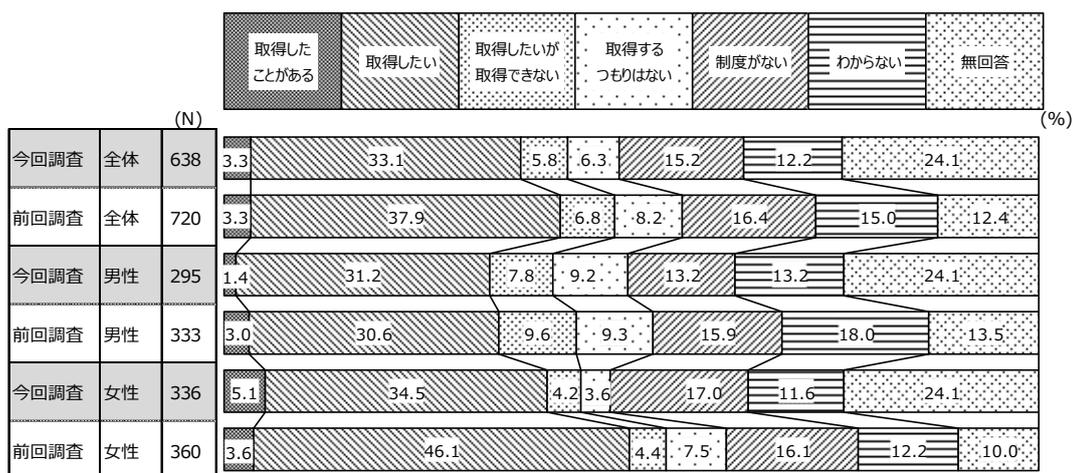
C (6)-(3) 育児休業



前回調査と比較すると、「取得したことがある」は全体で1.4ポイント、女性で3.3ポイント増加している。また、「取得したい」は全体で3.7ポイント、女性で9.1ポイント減少している。「取得するつもりはない」は男性で4.2ポイント減少、女性で3.2ポイント減少している。

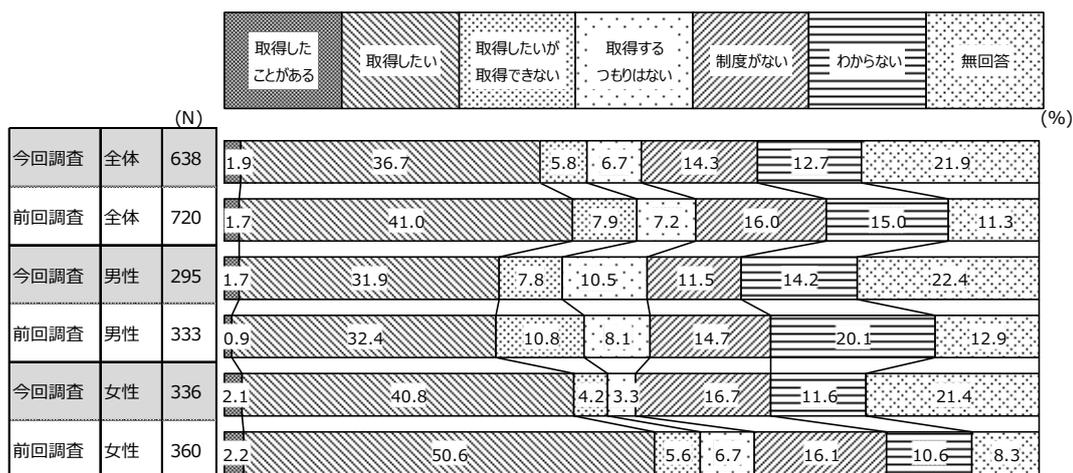


C (6)-(4) 病児のための看護休暇

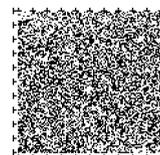


前回調査と比較すると、「取得したい」の割合が全体で4.8ポイント減少、女性で11.6ポイント減少している。「制度がない」の割合が全体で1.2ポイント減少、男性で2.7ポイント減少している。

C (6)-(5) 介護休業



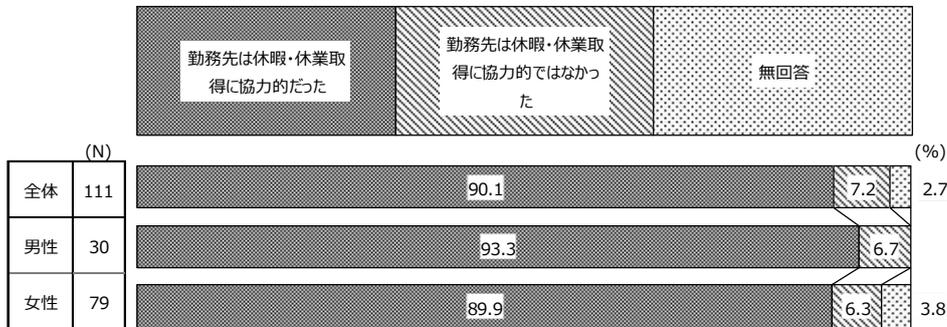
前回調査と比較すると、「取得するつもりはない」の割合は男性で2.4ポイント増加、女性で3.4ポイント減少している。また、「取得したい」の割合が全体で4.3ポイント減少、女性で9.8ポイント減少している。「取得したいが取得できない」の割合が全体で2.1ポイント減少、男性で3.0ポイント減少している。「制度がない」の割合が全体で1.7ポイント減少、男性で3.2ポイント減少している。



(7) 取得時の勤務先の対応 (取得前・取得中・取得後)

Q8-4-1 Q8-4で1つでも「取得したことがある」とお答えの方におたずねします。
 取得時の勤務先の対応はどうでしたか。(○は1つ)
 また、勤務先の対応や職場の雰囲気などをよろしければ具体的に記入してください。

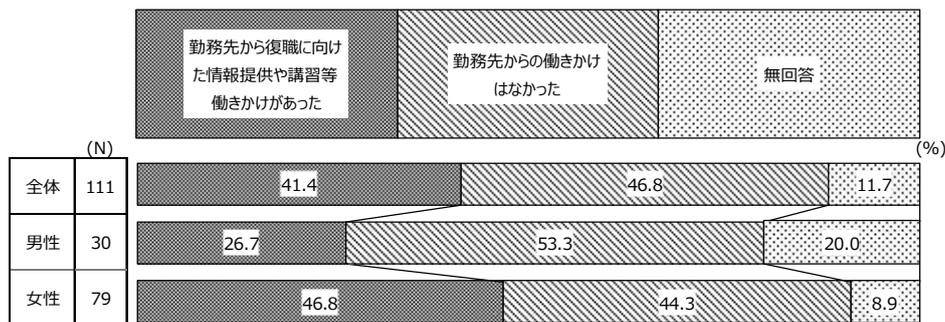
①取得前



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業を取得する前の勤務先の状況は、「休暇・休業取得に協力的だった」が90.1%、「協力的でなかった」が7.2%となっている。

性別でみても、男女とも「協力的だった」が9割前後(男性93.3%、女性89.9%)となっている。

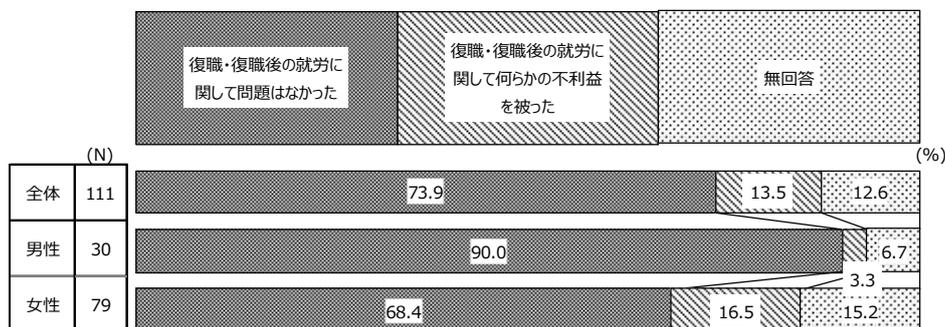
②取得中



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得中の状況は、「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が41.4%、「勤務先から働きかけはなかった」が46.8%となっている。

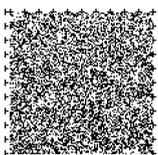
性別でみると、女性は「勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった」が46.8%であり、男性は26.7%と、女性の方が高くなっている。

③取得後



出産、育児、看護、介護にかかわる休暇・休業取得後の状況は、「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」が73.9%となっており、「何らかの不利益を被った」が13.5%となっている。

性別でみると、女性は「何らかの不利益を被った」が16.5%と男性に比べ高くなっている。



■勤務先の対応や職場の雰囲気などについての記入内容

①取得前

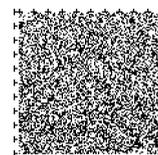
◆勤務先は休暇・休業取得に協力的だった
・職場全体で協力してくれた（女性・20代）、職場全体が妊娠したら産休・育休・復帰するのが当たり前という考え。（女性・30代）
・種々の休暇を取得している前例があり理解協力が得られやすかった（女性・40代）
・上司に陣痛が来たらそばにいてあげるように言ってもらえた（男性・20代）
・自分が管理職だったので休めた（現役の時）（男性・70代）
・有休を利用、1日程度の短い休みを取得、特に制限など無し（男性・40代）
◆勤務先は休暇・休業取得に協力的ではなかった
・同僚からの陰口が毎日あった（女性・20代）
・辞職せざるをえない状況（女性・40代）、取得するなら辞表を出すよう言われた（女性・40代）
・一週間だけだったが、良い顔はしなかった。（男性・30代）

②取得中

◆勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった
・メールで近況報告が来たり総務から手紙が来た（女性・40代）
・早く復帰するようせかされた（女性・30代）
◆勤務先から働きかけはなかった
・会社側からは特になかったので自分で動いた（女性・40代）
・出産1週間前に、いつ戻るのかなど復職の催促があった。1年取りたい、じっくり子育てをしたいと話すと露骨に嫌な顔をされた（女性・20代）

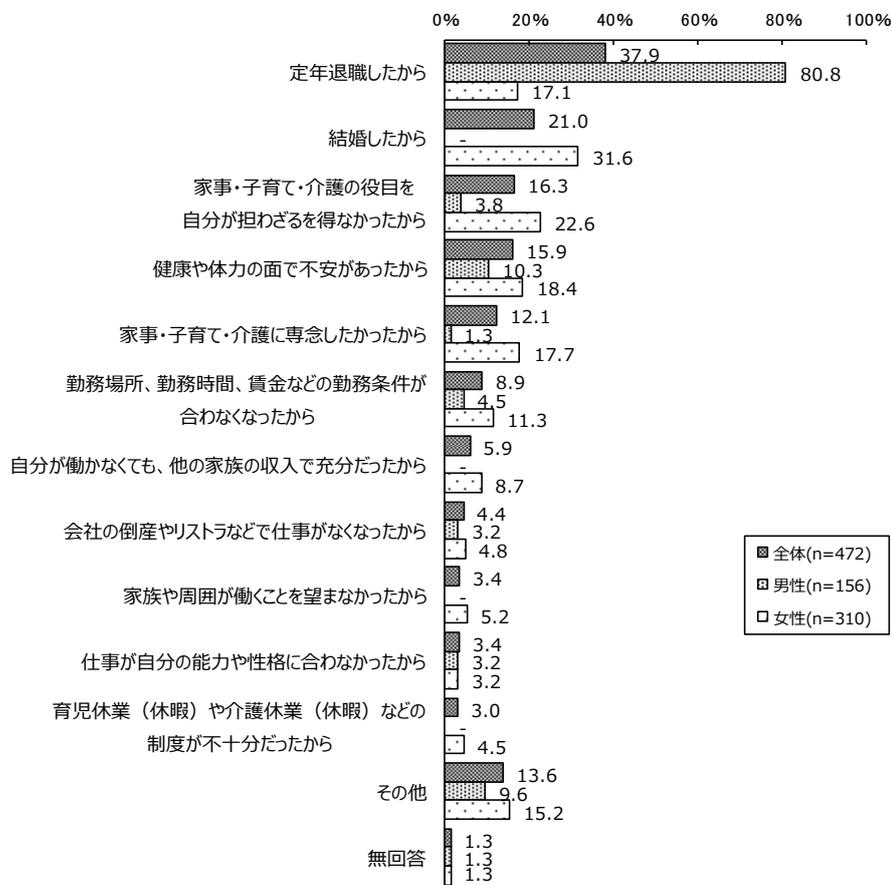
③取得後

◆復職・復職後の就労に関して問題はなかった
・期間が短いので特に問題はなかった（男性・20代）
・子どもがいる為残業はしない様に対応してくれている（女性・30代）
◆復職・復職後の就労に関して何らかの不利益を被った
・復職はできなかった（女性・40代）、新生児に対して理解されず退職した（女性・50代）
・いじめにあった（女性・30代）、セクハラ、パワハラを受けた（女性・50代）
・子どもが多いから有給取得が多いと言われた。（女性・20代）
・遠い職場等をすすめられた。正社員になるためには転勤できないとダメだと言われた。（女性・20代）



(8) 以前の職業をやめた理由

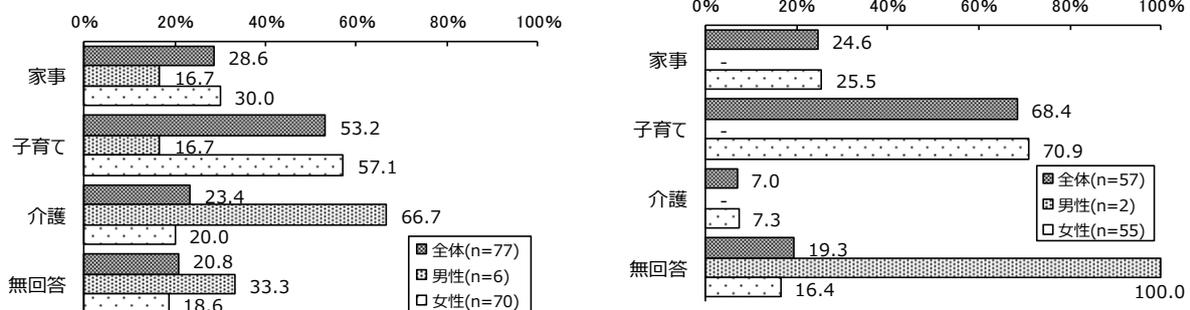
Q9 Q8で「2. 以前職業をもっていたが、現在はもっていない」とお答えの方におたずねします。あなたが以前の職業をやめたのはなぜですか。(〇は3つまで)



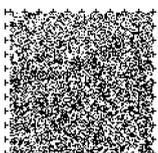
以前の職業をやめた理由は、男性では「定年退職したから」が80.8%と特に高く、女性は「結婚したから」が31.6%でもっとも高い。次いで女性は「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」(22.6%)、「健康や体力の面で不安があったから」(18.4%)、「家事・子育て・介護に専念したかった」(17.7%)となっている。

■主な理由

家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから 家事・子育て・介護に専念したかったから

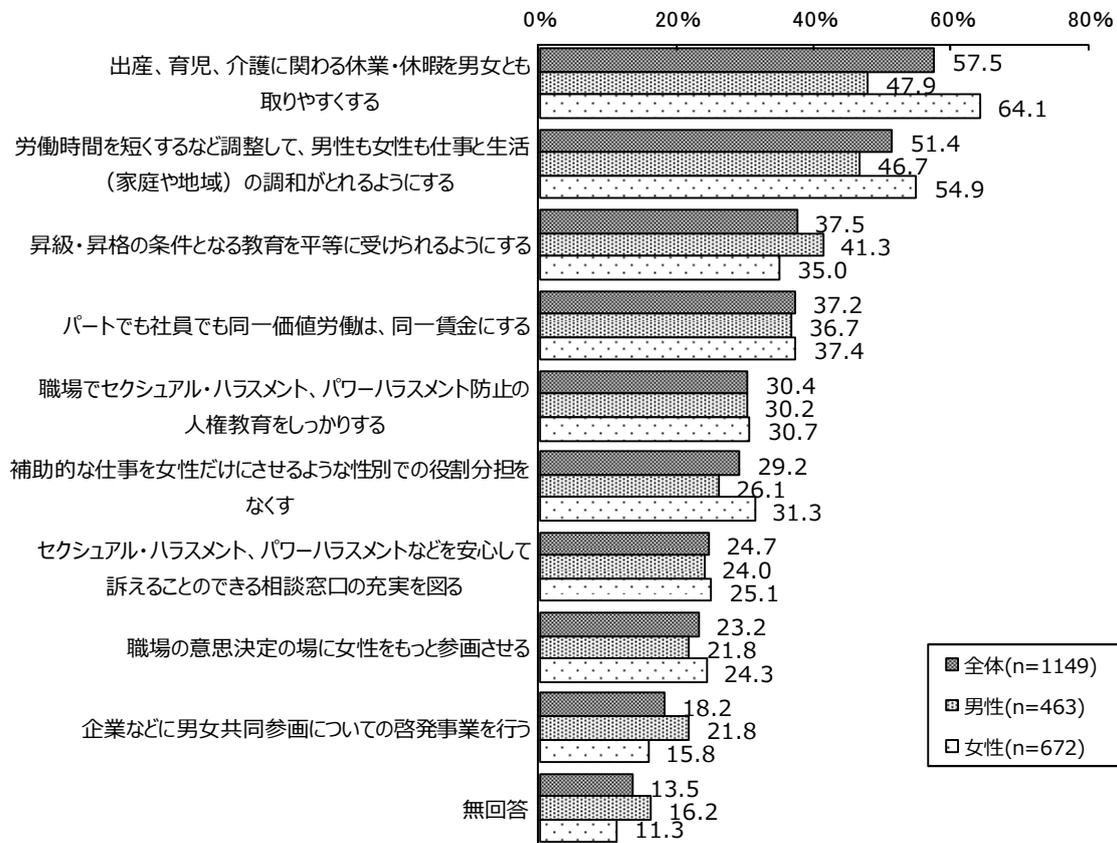


「家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから」の主な理由を全体で見ると、「子育て」が53.2%、「家事」が28.6%、「介護」が23.4%となっている。「家事・子育て・介護に専念したかったから」の主な理由を全体で見ると、「子育て」が68.4%、「家事」が24.6%、「介護」が7.0%となっている。

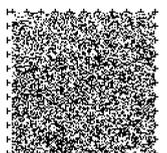


(9) 自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なこと

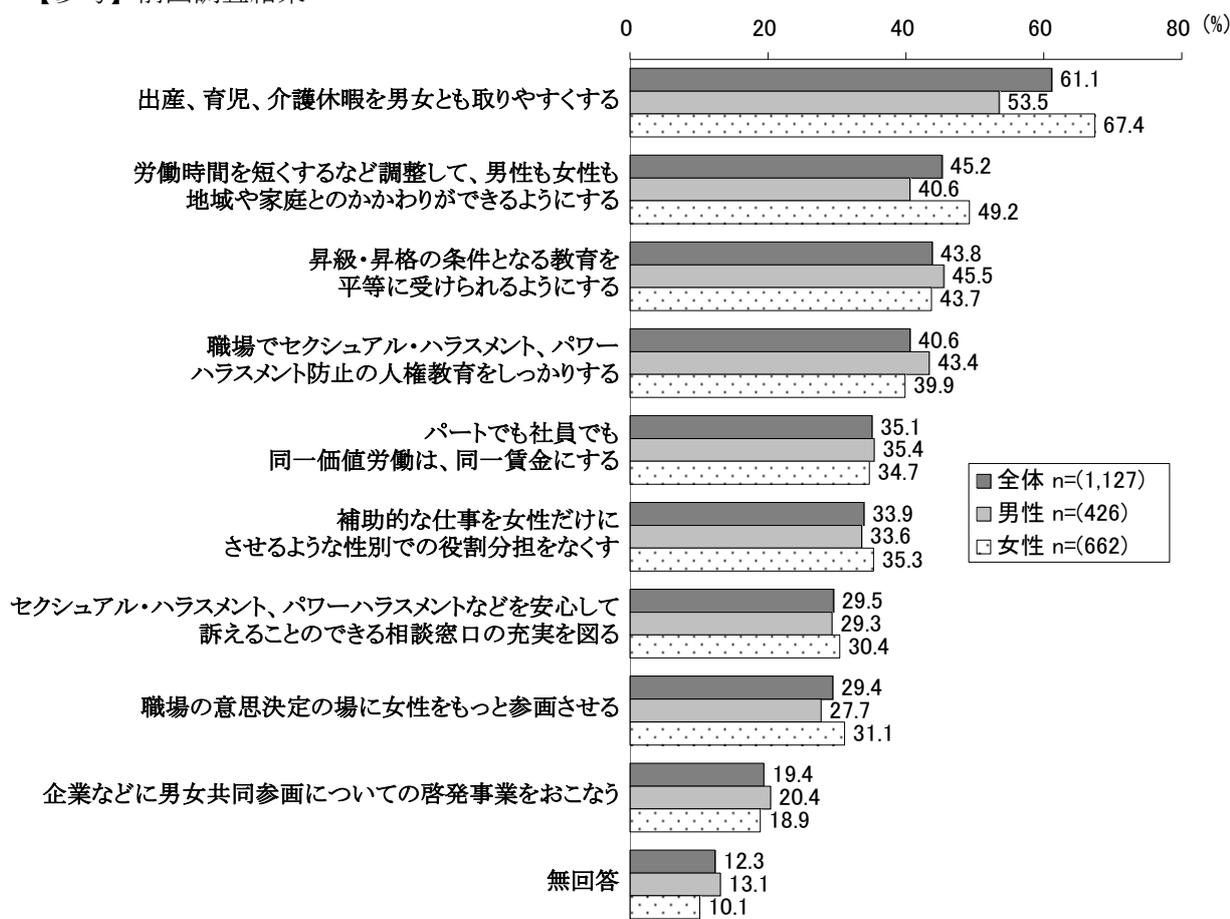
Q10 自らの能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)



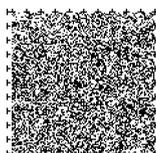
自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」が全体で57.5%、女性が64.1%、男性が47.9%でそれぞれもっとも高く、女性が男性より16.2ポイント高くなっている。次いで「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」は全体で51.4%、女性が54.9%、男性が46.7%となっている。「昇級・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」は全体で37.5%、男性41.3%、女性35.0%で、男性が女性より6.3ポイント高くなっている。



【参考】 前回調査結果



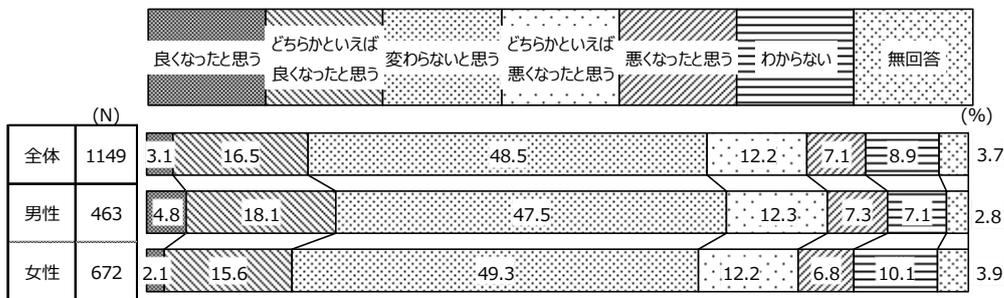
前回調査結果でも、「出産、育児、介護休暇を男女とも取りやすくする」が全体61.1%、女性67.4%、男性53.5%でもっとも高く、女性が男性より13.9ポイント高くなっている。次いで、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も地域や家族とのかかわりができるようにする」が全体で45.2%となっている。



(10) 生活や身の回りの環境の5年前との比較

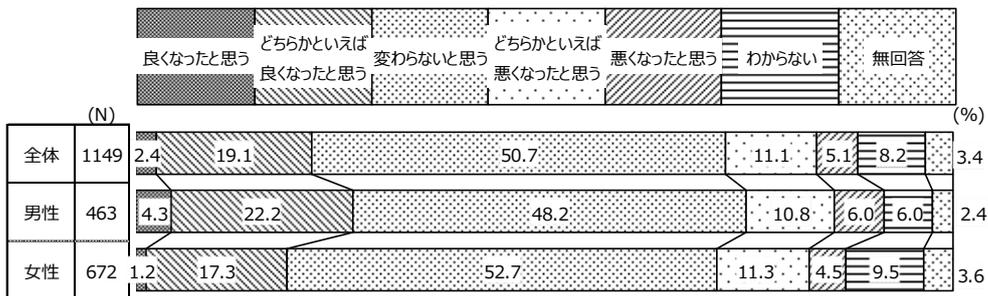
Q11 政府では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」について、以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が5年前と比較してどのように変化していると思いますか。（(1)～(3)の各項目につき〇は1つ）

①就労による経済的自立が可能な社会



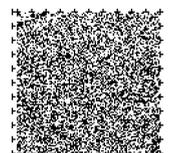
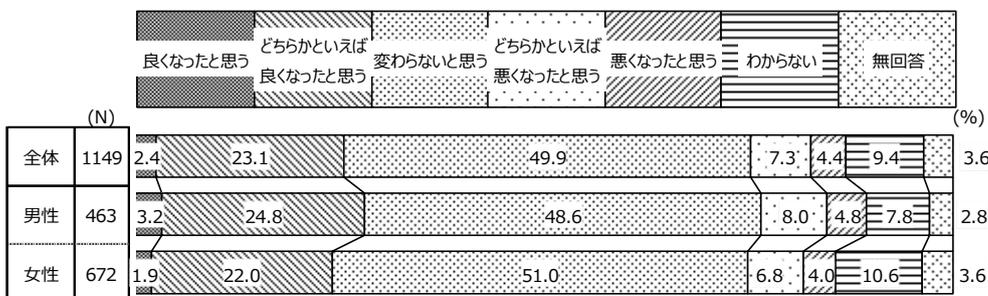
『就労による経済的自立が可能な社会』では、「良くなったと思う」と「どちらかといえば良くなったと思う」の合計である「良くなった(計)」が19.6%、「変わらないと思う」が48.5%、「悪くなったと思う」と「どちらかといえば悪くなったと思う」の合計である「悪くなった(計)」が19.3%である。性別でみると、男性は「良くなった(計)」が22.9%とやや高い。

②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』では、「良くなった(計)」が21.5%、「変わらないと思う」が50.7%、「悪くなった(計)」が16.2%である。性別でみると、男性は「良くなった(計)」が26.5%とやや高い。

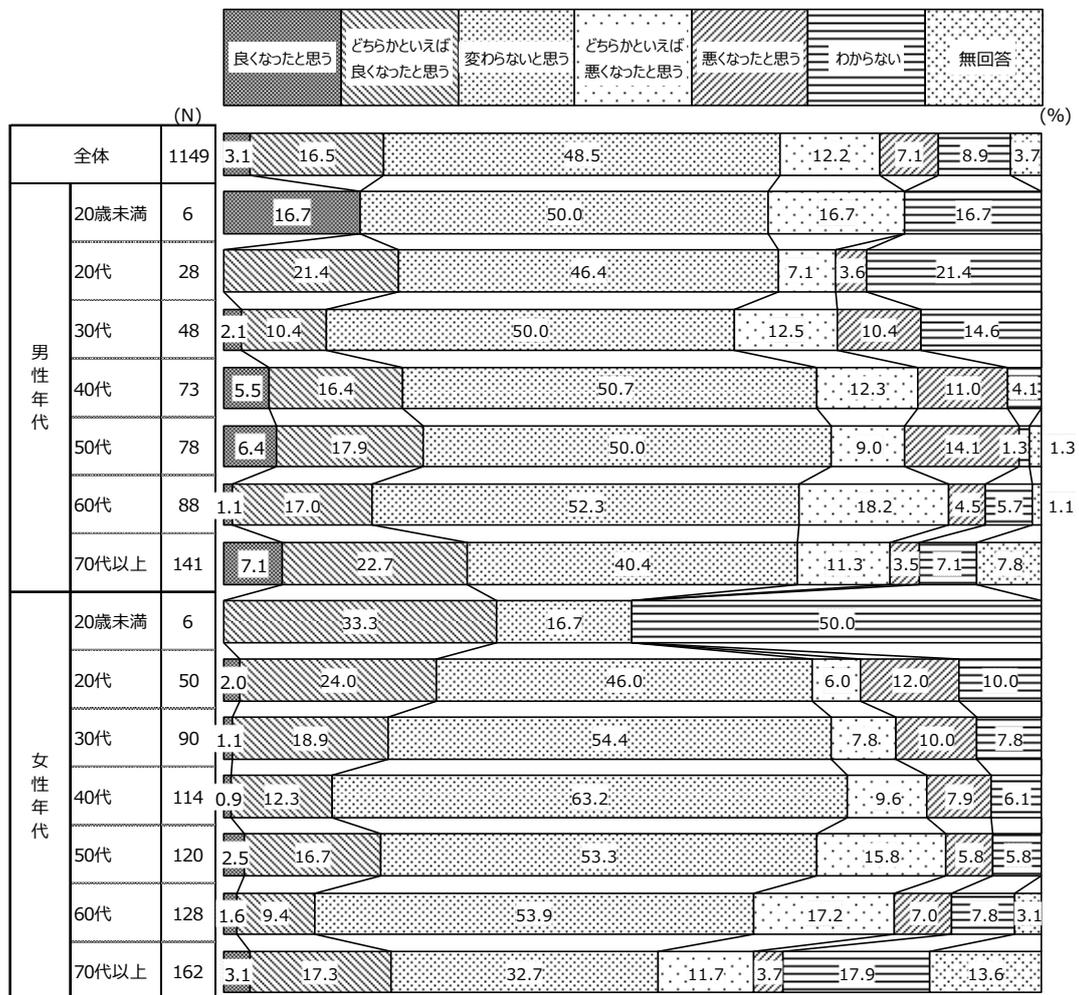
③多様な働き方・生き方が選択できる社会



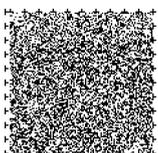
『多様な働き方・生き方が選択できる社会』では、「良くなった(計)」が25.5%、「変わらないと思う」が49.9%、「悪くなった(計)」が11.7%である。性別でみると、男性は「良くなった(計)」が28.0%とやや高い。

■性別・年齢別

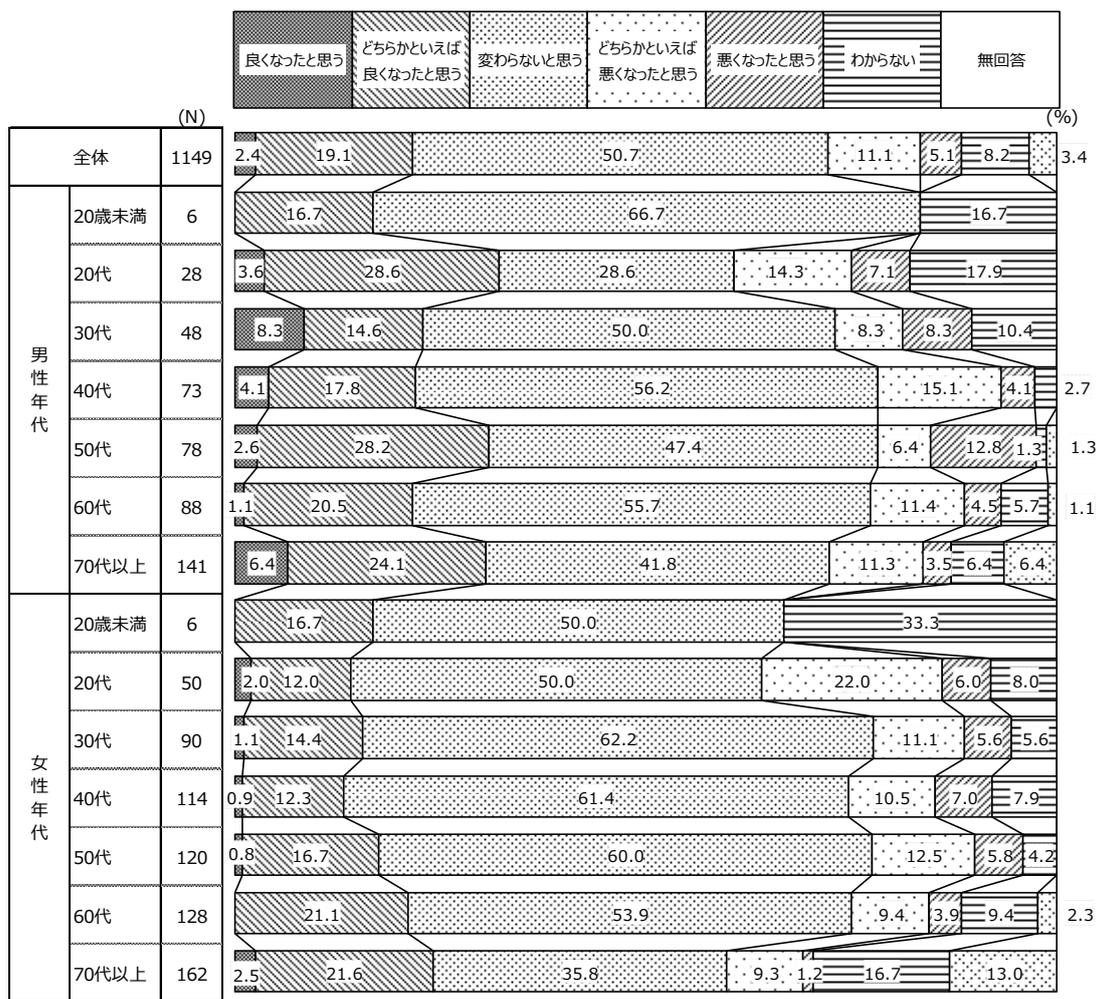
(1) 就労による経済的自立が可能な社会



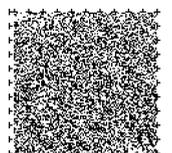
『就労による経済的自立が可能な社会』を性別・年代別でみると、男性70代以上で「良くなった(計)」が29.8%と高い。これに対し、女性40代では「変わらない」が63.2%と高くなっている。



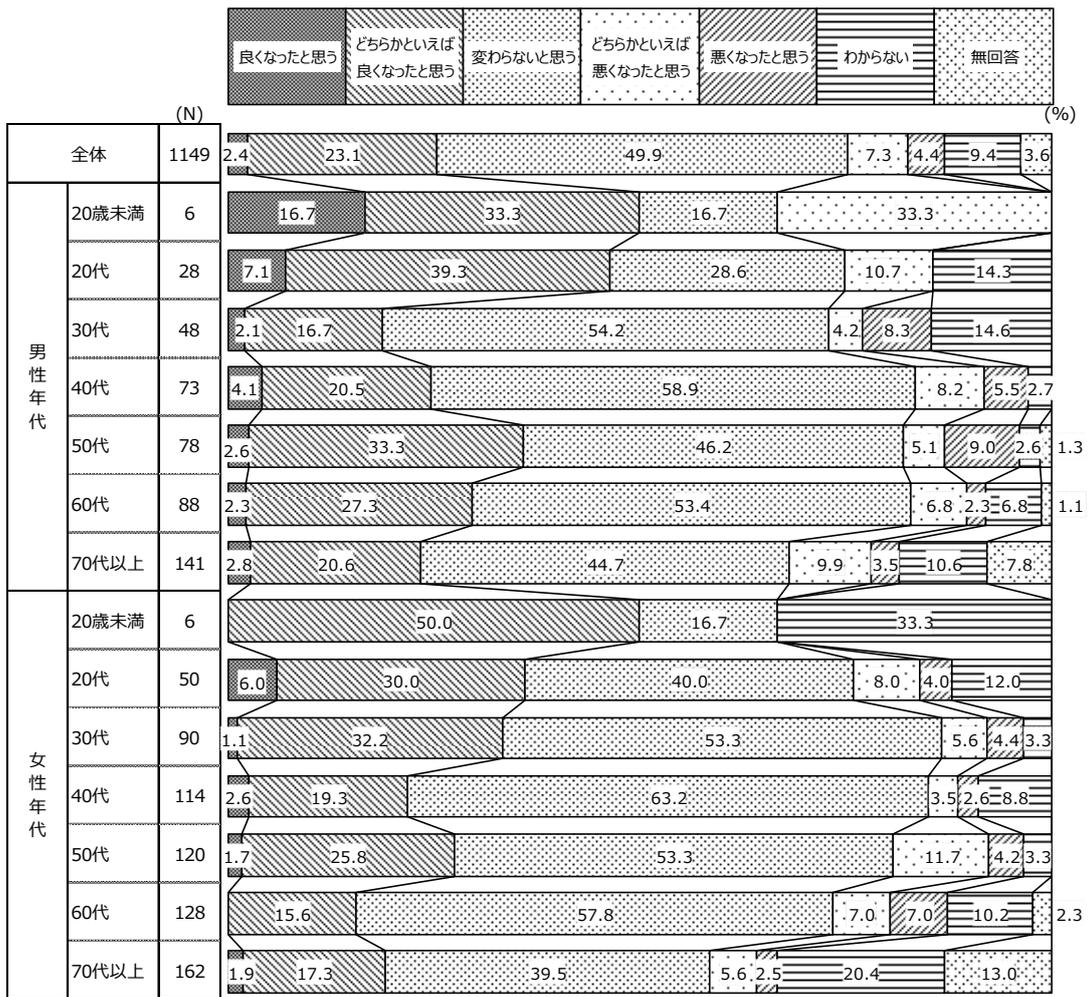
(2)健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



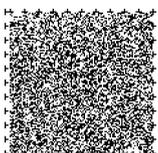
『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』を性別・年代別でみると、男性は20代・50代・70代以上で「良くなった(計)」が30.5～32.2%と高い。これに対し、女性は20代で「悪くなった(計)」が28.0%と高く、30代～50代で「変わらない」が60.0～62.2%と高くなっている。



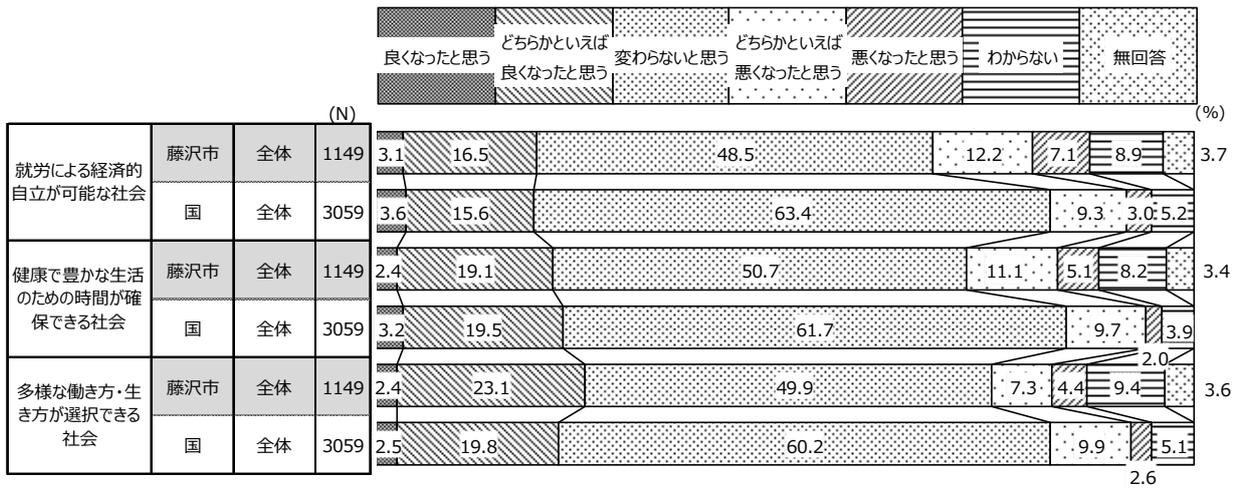
(3) 多様な働き方・生き方が選択できる社会



『多様な働き方・生き方が選択できる社会』を性別・年代別で見ると、男性20代・50代、女性20代・30代で「良くなった(計)」が33.3~46.4%と高い。これに対し、男性40代、女性40代・60代は「変わらない」が57.8~63.2%と高くなっている。



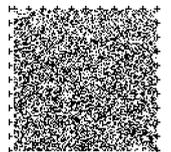
●国との比較



『就労による経済的自立が可能な社会』は国の調査、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査63.4%、藤沢市48.5%で藤沢市が14.9ポイント低い。「良くなった（計）」は国、藤沢市ともほとんど差はない。「悪くなった（計）」は国12.3%に対し藤沢市は19.3%で7.0ポイント高くなっている。

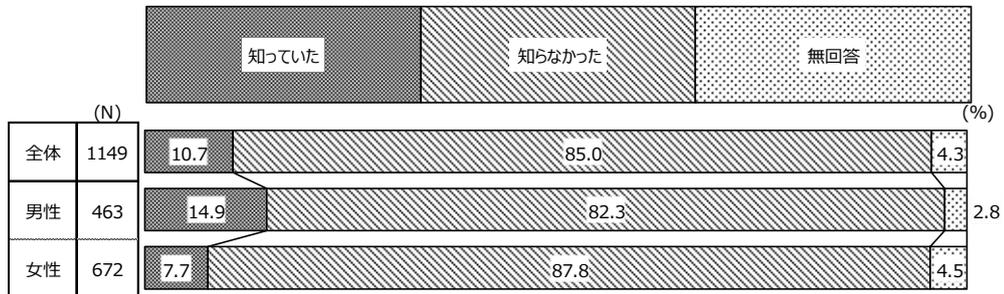
『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』は国の調査、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査61.7%、藤沢市50.7%で藤沢市が11.0ポイント低い。「良くなった（計）」は国、藤沢市ともほとんど差はない。「悪くなった（計）」は国11.7%に対し藤沢市は16.2%で4.5ポイント高くなっている。

『多様な働き方・生き方が選択できる社会』も同様に「変わらないと思う」の割合が高く、国60.2%、藤沢市49.9%で藤沢市が10.3ポイント低い。「良くなった（計）」は国22.3%、藤沢市25.5%で藤沢市が3.2ポイント高い。「悪くなった（計）」は国、藤沢市ともほとんど差はない。



(11) 介護休業・介護休暇の制度改革の認知状況

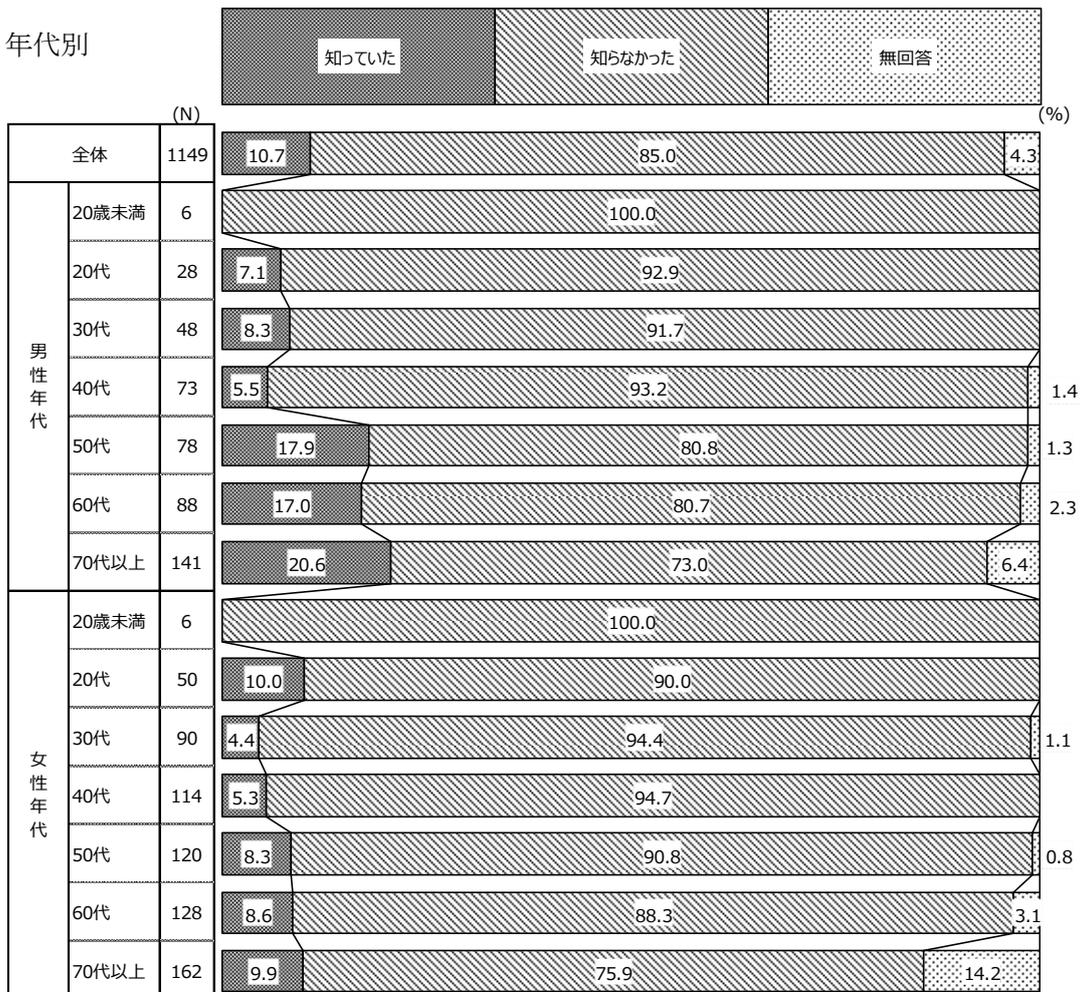
Q12 平成29年の育児・介護休業法改正で、「介護休業」(93日まで)はこれまで1回限りでしたが、3回まで分割取得が可能となり、「介護休暇」(1年度に5日まで)はこれまで1日単位でしたが、半日単位で取得することが可能になりました。これらの制度改革を知っていましたか。(○は1つ)



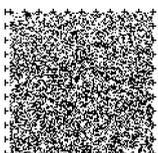
介護休業・介護休暇の制度改革については、「知っていた」が10.7%、「知らなかった」が85.0%となっている。

性別でみると、「知っていた」は男性14.9%、女性7.7%で、男性の方が高くなっている。

■性別・年代別

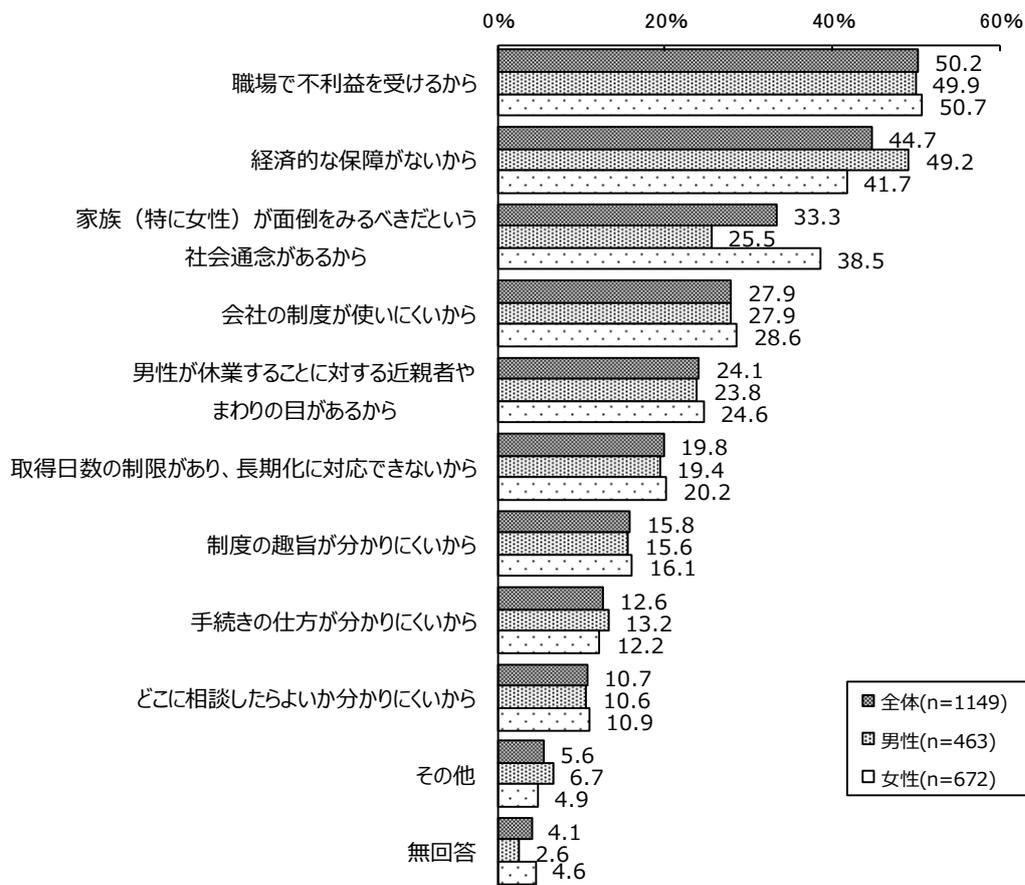


性別・年代別では、男性50代～70代以上の認知度が17.0～20.6%と高くなっている。



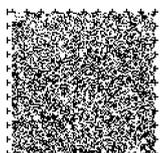
(12) 男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由

Q13 男女ともに育児休業や介護休業の取得が進まないのはなぜだと思いますか。(〇は3つまで)



男女ともに育児休業・介護休業の取得が進まない理由としては、「職場で不利益を受けるから」が全体で50.2%（男性49.9%、女性50.7%）でもっとも高く、これに「経済的な保障がないから」（44.7%）、「家族（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから」（33.3%）が続いている。

性別でみると、「家族（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから」が女性は38.5%で男性（25.5%）より13.0ポイント高くなっている。

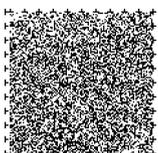


■性別・年代別

(%)

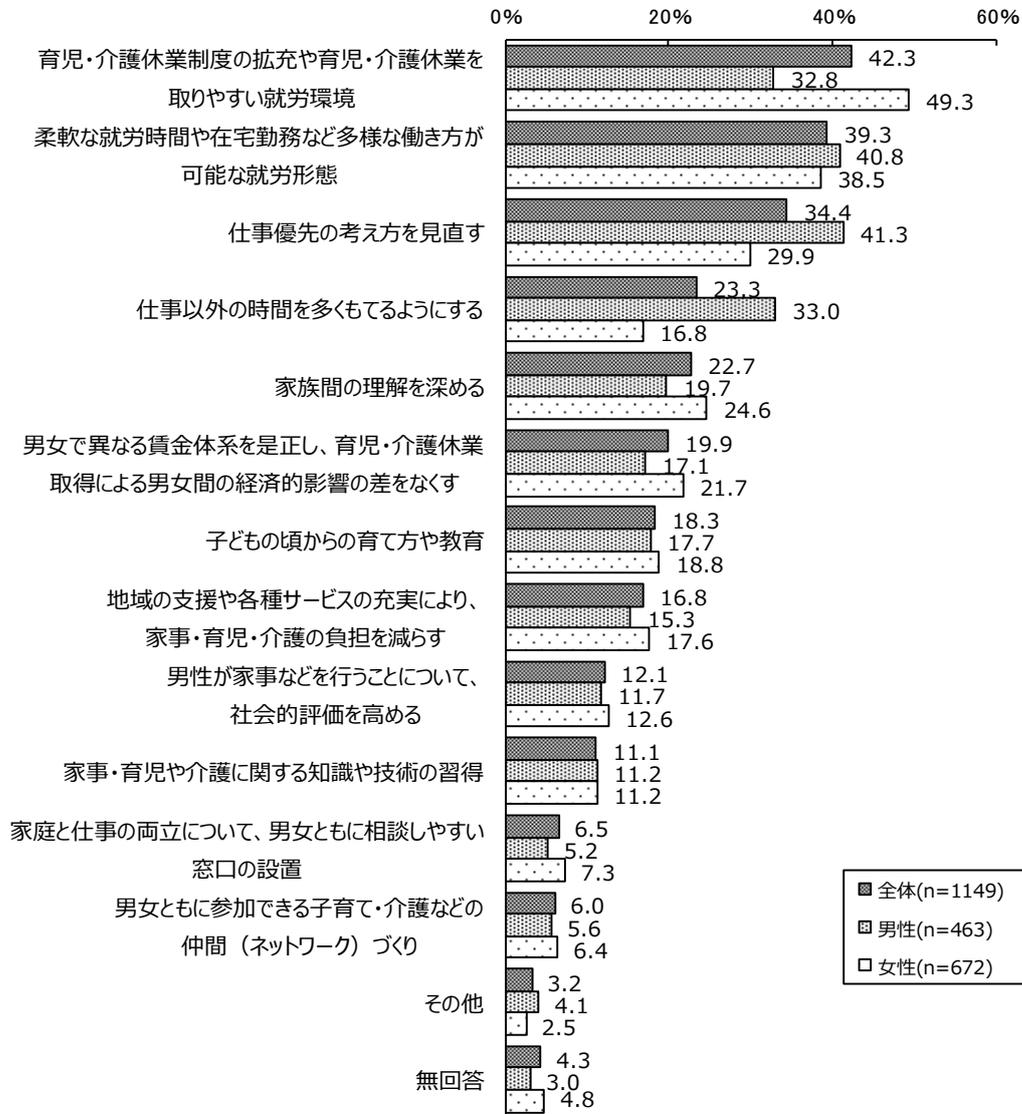
		n	職場で不利益を受けるから	経済的な保障がないから	きだ（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから	会社の制度が使いにくいから	男性が休業することに対する近親者やまわりの目があるから	取得日数の制限があり、長期化に対応できないから	制度の趣旨が分かりにくいから	手続きの仕方が分かりにくいから	どこに相談したらよいか分かりにくいから	その他	無回答
	全体	1149	50.2	44.7	33.3	27.9	24.1	19.8	15.8	12.6	10.7	5.6	4.1
男性年代	20歳未満	6	83.3	33.3	16.7	16.7	-	50.0	33.3	-	16.7	16.7	-
	20代	28	64.3	46.4	28.6	39.3	32.1	7.1	14.3	10.7	14.3	3.6	-
	30代	48	54.2	52.1	20.8	29.2	22.9	12.5	10.4	22.9	18.8	10.4	2.1
	40代	73	46.6	52.1	24.7	30.1	16.4	17.8	21.9	16.4	8.2	12.3	1.4
	50代	78	48.7	50.0	21.8	28.2	19.2	17.9	10.3	17.9	11.5	7.7	-
	60代	88	50.0	53.4	30.7	33.0	25.0	22.7	11.4	9.1	5.7	4.5	2.3
	70代以上	141	46.8	45.4	26.2	21.3	28.4	22.7	19.1	9.2	10.6	3.5	5.7
女性年代	20歳未満	6	66.7	33.3	50.0	-	66.7	16.7	-	16.7	16.7	-	-
	20代	50	66.0	46.0	28.0	42.0	28.0	18.0	8.0	18.0	16.0	6.0	-
	30代	90	57.8	44.4	41.1	37.8	23.3	15.6	11.1	13.3	13.3	10.0	-
	40代	114	61.4	40.4	38.6	27.2	34.2	21.9	14.9	13.2	9.6	7.0	-
	50代	120	53.3	37.5	42.5	27.5	25.0	23.3	16.7	15.0	8.3	5.8	0.8
	60代	128	46.9	41.4	43.8	32.8	22.7	22.7	21.9	9.4	10.9	0.8	3.9
	70代以上	162	35.2	43.8	32.7	19.1	17.3	17.9	17.3	8.6	9.9	3.1	15.4

性別・年代別では、「経済的な保障がないから」が男性30代～60代で5割を超えて高くなっている。また、「職場で不利益を受けるから」が男性20代、女性20代・40代で6割を超え、「会社の制度が使いにくいから」が男性20代、女性20代・30代で4割前後、「家族が面倒をみるべきだという社会通念がある」が女性30代・50代・60代で4割強と高くなっている。



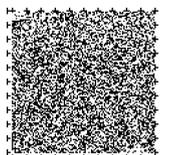
(13) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うこと

Q14 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)



ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(42.3%)、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」(39.3%)が上位となり、これらに「仕事優先の考え方を見直す」(34.4%)が続いている。

性別でみると、男性は「仕事優先の考え方を見直す」(41.3%)、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」(40.8%)が高く、女性は「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」(49.3%)が高くなっている。

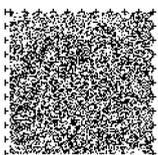


■性別・年代別

(%)

		n	育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境	柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態	仕事優先の考え方を見直す	仕事以外の時間を多くもてるようにする	家族間の理解を深める	業取得による男女間の経済的影響の差をなくす	男女で異なる賃金体系的正し、育児・介護休業取得による男女間の経済的影響の差をなくす	子どもの頃からの育て方や教育	地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす	男性が家事などを行うことについて、社会的評価を高める	家事・育児や介護に関する知識や技術の習得	家庭と仕事の両立について、男女ともに相談しやすい窓口の設置	男女ともに参加できる子育て・介護などの仲間（ネットワーク）づくり	その他	無回答
	全体	1149	42.3	39.3	34.4	23.3	22.7	19.9	18.3	16.8	12.1	11.1	6.5	6.0	3.2	4.3	
男性年代	20歳未満	6	50.0	50.0	33.3	50.0	33.3	-	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-	
	20代	28	10.7	46.4	57.1	67.9	10.7	7.1	14.3	7.1	7.1	14.3	3.6	7.1	-	-	
	30代	48	27.1	47.9	37.5	41.7	20.8	12.5	10.4	8.3	10.4	12.5	2.1	4.2	12.5	-	
	40代	73	27.4	47.9	41.1	37.0	17.8	17.8	20.5	13.7	16.4	8.2	1.4	8.2	5.5	2.7	
	50代	78	34.6	41.0	47.4	35.9	16.7	12.8	15.4	17.9	9.0	5.1	5.1	3.8	6.4	1.3	
	60代	88	35.2	45.5	42.0	27.3	18.2	17.0	18.2	20.5	11.4	12.5	2.3	4.5	1.1	3.4	
	70代以上	141	38.3	30.5	35.5	22.7	24.1	23.4	20.6	15.6	12.1	14.2	10.6	6.4	2.1	5.7	
女性年代	20歳未満	6	66.7	33.3	33.3	50.0	-	33.3	-	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	
	20代	50	62.0	54.0	32.0	42.0	12.0	10.0	4.0	22.0	8.0	14.0	8.0	10.0	4.0	-	
	30代	90	58.9	41.1	31.1	28.9	15.6	23.3	25.6	16.7	15.6	8.9	-	5.6	1.1	1.1	
	40代	114	51.8	48.2	36.8	14.9	21.1	21.1	20.2	9.6	14.9	10.5	3.5	3.5	5.3	-	
	50代	120	41.7	43.3	30.8	11.7	29.2	23.3	20.8	15.0	19.2	12.5	7.5	8.3	4.2	1.7	
	60代	128	56.3	32.0	28.9	15.6	31.3	26.6	14.8	21.1	7.8	9.4	12.5	4.7	-	5.5	
	70代以上	162	37.7	27.2	24.1	7.4	27.8	19.1	21.0	21.6	9.9	12.3	9.3	8.0	1.2	13.6	

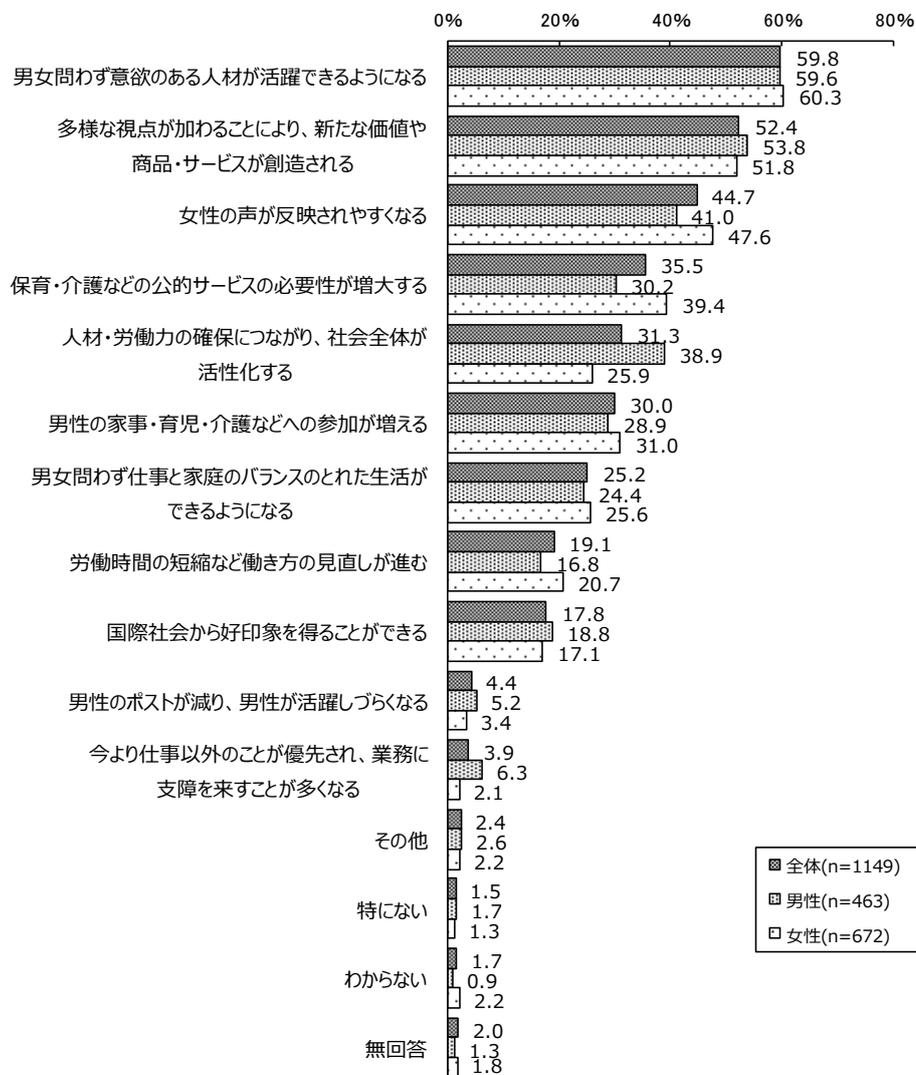
性別・年代別では、「仕事優先の考え方を見直す」が男性20代・50代で57.1%、47.4%と高く、「仕事以外の時間を多くもてるようにする」が男性20代・30代、女性20代で4割を超え、特に男性20代では67.9%と高くなっている。また、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」が男性20代～40代、女性20代・40代で5割前後、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」が女性20代～40代・60代で5～6割と高くなっている。



D 女性の活躍推進について

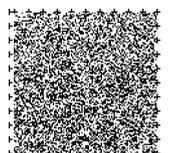
(1) 女性の活躍を進めたことによる影響

Q15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)



政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか、という点については、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が59.8%でもっとも高く、これに「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(52.4%)、「女性の声が反映されやすくなる」(44.7%)、「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」(35.5%)が続く。

性別で見ると、「人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する」は男性38.9%で女性(25.9%)より高く、「女性の声が反映されやすくなる」は女性47.6%、男性41.0%「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する」は女性39.4%、男性30.2%と、どちらも女性が高くなっている。

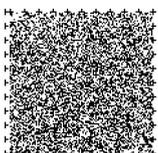


■性別・年代別

(%)

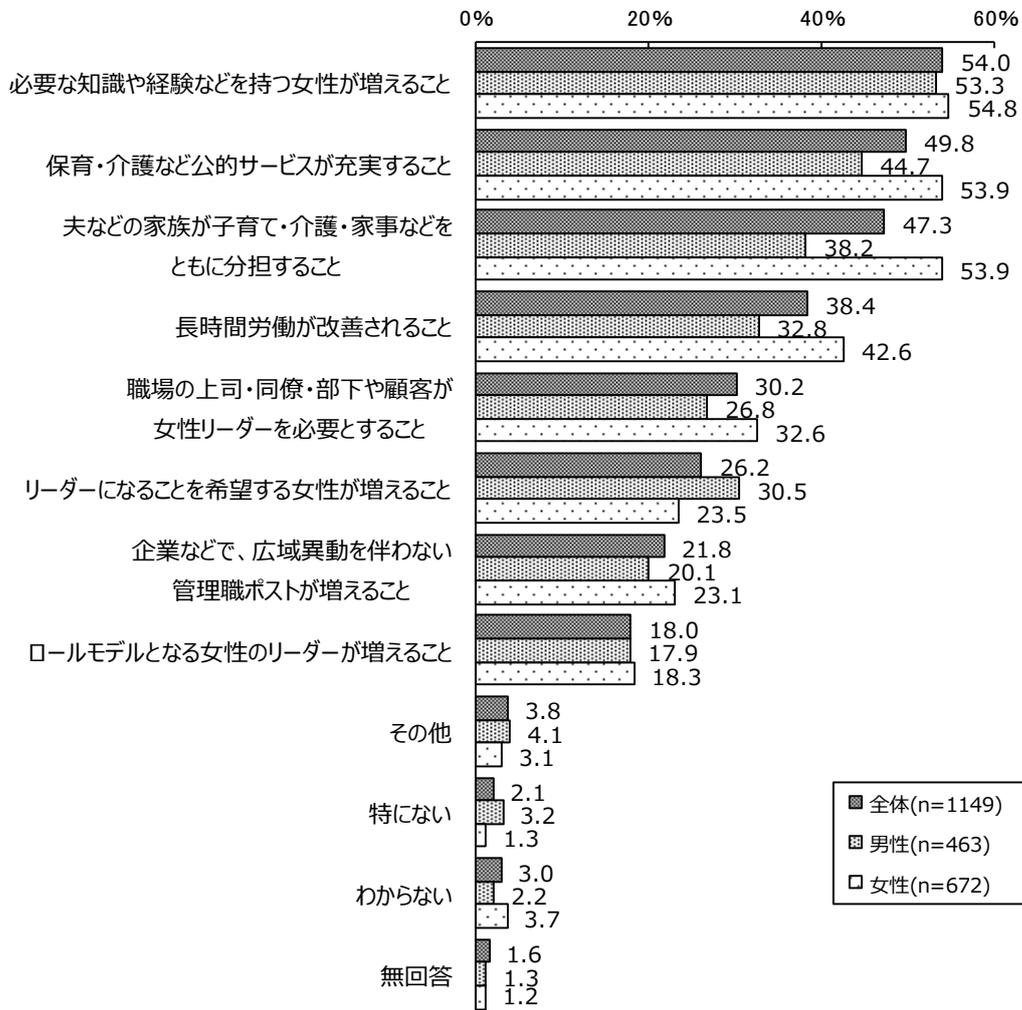
		n	男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる	多様な視点や商品・サービスが創造される	女性の声が反映されやすくなる	性が増大する	保育・介護などの公的サービスの必要	人材が活性化される	全体が活性的化する	人材・労働力の確保につながり、社会	が増える	男性の家事・育児・介護などへの参加	男女問わず仕事と家庭のバランスのと	れた生活ができるようになる	進め	労働時間の短縮など働き方の見直し	る	国際社会から好印象を得ることができ	らくなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづ	務に支障を来すことが多くなる	今より仕事以外のことが優先され、業	その他	特にな	わからない	無回答
	全体	1149	59.8	52.4	44.7	35.5	31.3	30.0	25.2	19.1	17.8	4.4	3.9	2.4	1.5	1.7	2.0									
男性年代	20歳未満	6	33.3	83.3	50.0	50.0	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代	28	46.4	53.6	42.9	25.0	28.6	21.4	25.0	17.9	21.4	10.7	14.3	-	-	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	48	50.0	35.4	45.8	18.8	10.4	27.1	20.8	12.5	12.5	6.3	8.3	8.3	4.2	2.1	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代	73	64.4	50.7	43.8	35.6	34.2	27.4	32.9	15.1	17.8	5.5	6.8	4.1	-	-	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50代	78	59.0	62.8	50.0	26.9	42.3	25.6	25.6	12.8	9.0	7.7	5.1	1.3	5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60代	88	64.8	54.5	38.6	33.0	38.6	30.7	14.8	18.2	21.6	4.5	5.7	1.1	-	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70代以上	141	61.0	55.3	33.3	31.9	51.1	32.6	26.2	20.6	24.8	2.8	4.3	2.1	1.4	1.4	1.4	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-
女性年代	20歳未満	6	33.3	66.7	66.7	16.7	-	66.7	83.3	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代	50	50.0	62.0	54.0	32.0	24.0	30.0	30.0	22.0	22.0	2.0	2.0	2.0	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	90	64.4	61.1	40.0	40.0	20.0	32.2	32.2	24.4	16.7	5.6	3.3	4.4	1.1	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40代	114	60.5	52.6	55.3	38.6	22.8	20.2	21.1	20.2	23.7	3.5	1.8	3.5	2.6	2.6	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50代	120	68.3	48.3	45.8	35.8	21.7	32.5	21.7	13.3	11.7	3.3	2.5	1.7	-	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60代	128	64.1	58.6	53.1	43.0	34.4	39.8	31.3	25.0	20.3	1.6	0.8	1.6	0.8	1.6	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	70代以上	162	53.7	38.9	40.7	42.6	29.0	28.4	20.4	21.0	13.6	4.3	2.5	1.2	0.6	4.9	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-

性別・年代別では、「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が男性50代、女性20代・30代で6割強と高く、「女性の声が反映される」が女性20代・40代・60代で5割強、「男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる」が女性50代で7割弱と高くなっている。



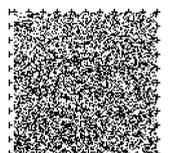
(2) 女性の活躍を進めるために必要なこと

Q16 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーが増えるために必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)



女性の活躍を進めるために必要なことは、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」全体54.0%で男女ともにもっとも高く、次いで「保育・介護など公的サービスが充実すること」全体49.8%となっている。「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」は全体47.3%となっており、女性（53.9%）が男性（38.2%）より15.7ポイント高くなっている。

男性は「リーダーになることを希望する女性が増えること」が30.5%で女性（23.5%）より7.0ポイント高くなっている。

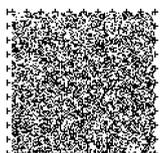


■性別・年代別

(%)

		n	が増えること	必要な知識や経験などを持つ女性	実する	保育・介護など公的サービスが充実	事などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること	夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること	長時間労働が改善されること	女性リーダーを必要とする顧客が	職場の上司・同僚・部下や顧客が増えること	リーダーになることを希望する女性が増えること	管理職ポストが増えること	企業などで、広域異動を伴わない	ダールモデルとなる女性のリーダーが増えること	その他	特にな	わからない	無回答
	全体	1149	54.0	49.8	47.3	38.4	30.2	26.2	21.8	18.0	3.8	2.1	3.0	1.6					
男性年代	20歳未満	6	50.0	16.7	33.3	50.0	50.0	-	16.7	33.3	-	-	16.7	-					
	20代	28	39.3	53.6	21.4	35.7	17.9	32.1	3.6	21.4	10.7	3.6	3.6	-					
	30代	48	29.2	35.4	35.4	31.3	27.1	20.8	22.9	14.6	6.3	8.3	4.2	2.1					
	40代	73	42.5	49.3	41.1	28.8	34.2	34.2	16.4	20.5	2.7	2.7	2.7	1.4					
	50代	78	55.1	42.3	33.3	29.5	23.1	34.6	15.4	21.8	3.8	5.1	1.3	-					
	60代	88	58.0	47.7	44.3	34.1	23.9	33.0	21.6	19.3	2.3	2.3	-	1.1					
	70代以上	141	66.7	44.7	40.4	35.5	27.7	28.4	26.2	13.5	4.3	1.4	2.1	2.1					
女性年代	20歳未満	6	66.7	33.3	33.3	16.7	50.0	50.0	16.7	16.7	-	-	16.7	-					
	20代	50	34.0	60.0	50.0	50.0	32.0	30.0	18.0	28.0	-	4.0	2.0	-					
	30代	90	41.1	58.9	57.8	47.8	38.9	27.8	23.3	24.4	5.6	1.1	1.1	1.1					
	40代	114	49.1	51.8	56.1	40.4	30.7	33.3	21.1	22.8	6.1	2.6	2.6	-					
	50代	120	48.3	58.3	54.2	40.0	35.0	24.2	20.8	20.8	4.2	0.8	2.5	-					
	60代	128	68.0	57.0	57.0	44.5	33.6	16.4	32.0	20.3	2.3	-	3.9	0.8					
	70代以上	162	66.7	45.1	50.0	40.1	27.8	16.0	21.0	5.6	0.6	1.2	6.8	3.7					

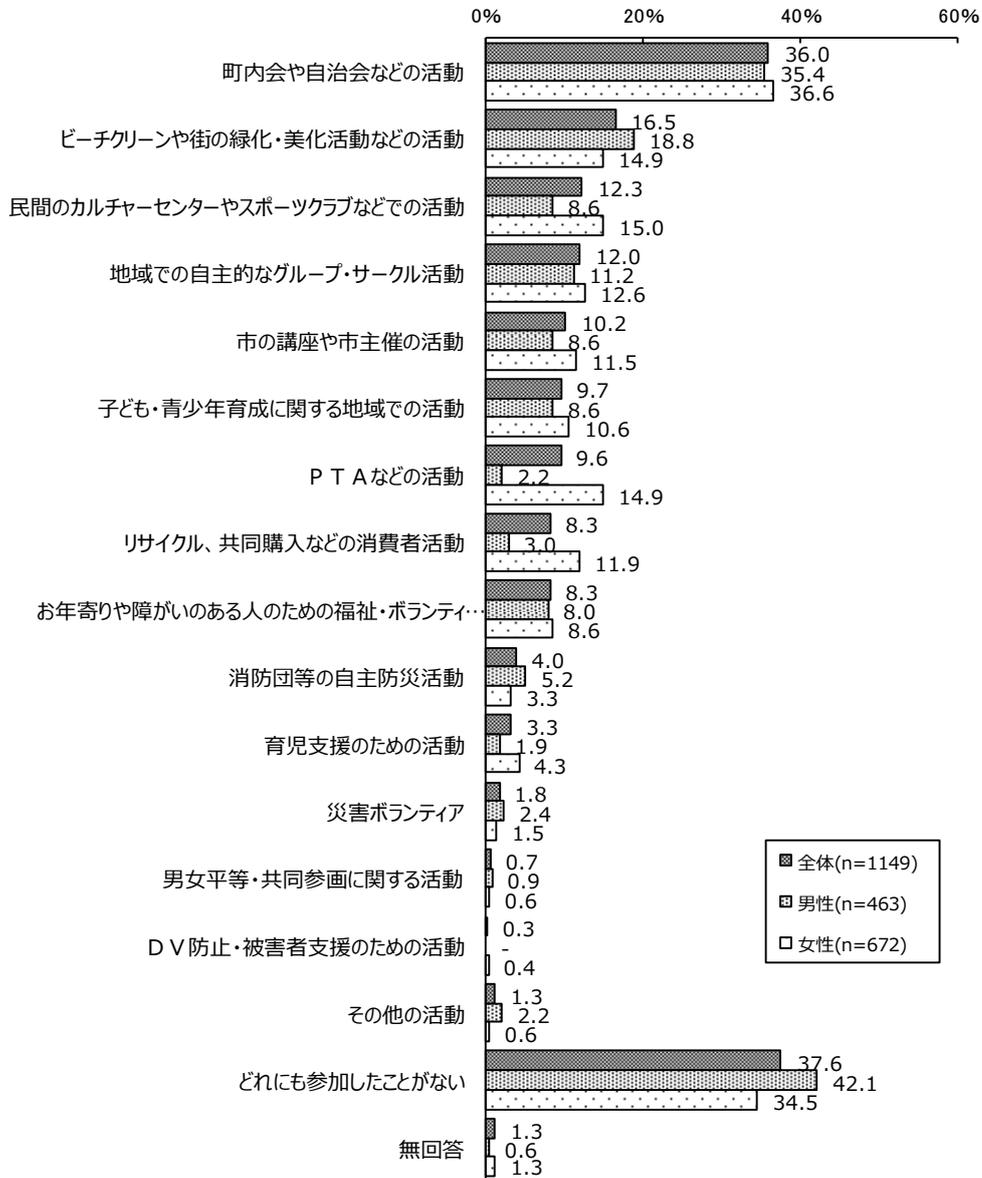
性別・年代別でみると、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」が男性70代以上、女性60代・70代以上で7割弱、「長時間労働が改善されること」が女性20代・30代で5割前後、「保育・介護など公的サービスが充実すること」が女性20代・30代・50代で6割前後、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が女性30代・40代・60代で6割弱と高くなっている。



E 社会参画について

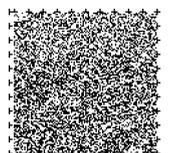
(1) ボランティア活動や地域活動への参加状況

Q17 あなたはこの1～2年の間に、以下のような活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)



この1～2年の間のボランティア活動や地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」が36.0%でもっとも高く、これに「ビーチクリーンや街の緑化・美化活動などの活動」(16.5%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」(12.3%)、「地域での自主的なサークル活動」(12.0%)、「市の講座や市主催の活動」(10.2%)が1割台で続く。一方、「どれにも参加したことがない」は全体37.6%、男性42.1%、女性34.5%で男性が4割強と高くなっている。

性別で見ると、女性は「P T Aなどの活動」が14.9%で男性(2.2%)より12.7ポイント高くなっている。



■性別・年代別

(%)

	n	町内会や自治会などの活動	文化活動などの活動	スポーツクラブや街の緑化・美化活動	民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの活動	サークル活動	地域での自主的なグループ・市の講座や市主催の活動	子ども・青少年育成に関する地域での活動	P T Aなどの活動	費者活動	リサイクル、共同購入などの消費者活動	お年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動	消防団等の自主防災活動	育児支援のための活動	災害ボランティア	男女平等・共同参画に関する活動	D V 防止・被害者支援のための活動	その他の活動	どれにも参加したことがない	無回答
全体	1,149	36.0	16.5	12.3	12.0	10.2	9.7	9.6	8.3	8.3	4.0	3.3	1.8	0.7	0.3	1.3	37.6	1.3		
男性年代	20歳未満	6	-	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
	20代	28	7.1	17.9	3.6	3.6	-	7.1	-	3.6	7.1	-	-	-	3.6	-	-	71.4	-	
	30代	48	27.1	10.4	6.3	2.1	4.2	4.2	-	4.2	2.1	8.3	4.2	-	-	-	2.1	50.0	2.1	
	40代	73	26.0	24.7	5.5	5.5	9.6	12.3	2.7	4.1	5.5	2.7	1.4	-	-	-	1.4	45.2	1.4	
	50代	78	33.3	19.2	5.1	5.1	1.3	5.1	6.4	2.6	6.4	7.7	2.6	3.8	-	-	1.3	51.3	-	
	60代	88	40.9	17.0	8.0	11.4	12.5	14.8	1.1	1.1	8.0	4.5	4.5	4.5	-	-	3.4	37.5	-	
	70代以上	141	47.5	19.1	14.2	22.0	13.5	7.1	1.4	3.5	12.1	5.7	-	2.8	2.1	-	2.8	29.8	0.7	
女性年代	20歳未満	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	20代	50	10.0	6.0	6.0	2.0	4.0	10.0	-	6.0	6.0	-	2.0	-	-	-	-	64.0	-	
	30代	90	35.6	20.0	6.7	8.9	10.0	16.7	23.3	21.1	2.2	3.3	7.8	4.4	-	-	1.1	32.2	1.1	
	40代	114	46.5	21.1	14.0	9.6	10.5	22.8	49.1	12.3	5.3	3.5	6.1	-	-	0.9	-	22.8	-	
	50代	120	39.2	12.5	17.5	10.0	14.2	7.5	12.5	11.7	5.8	2.5	3.3	0.8	1.7	0.8	-	29.2	0.8	
	60代	128	43.8	19.5	18.8	16.4	14.1	7.0	4.7	10.9	13.3	2.3	3.9	2.3	0.8	-	1.6	32.8	0.8	
	70代以上	162	32.1	9.3	19.1	19.8	11.7	4.3	1.2	9.3	13.6	5.6	3.1	1.2	0.6	0.6	0.6	38.3	3.7	

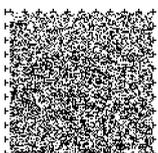
性別・年代別では、男性70代以上で「町内会や自治会などの活動」が47.5%、「地域での自主的なグループ・サークル活動」が22.0%と高くなっている。また、女性40代で「町内会や自治会などの活動」、「子ども・青少年育成に関する地域での活動」、「P T Aなどの活動」が46.5%、22.8%、49.1%と高くなっている。

【参考】前回調査結果

(%)

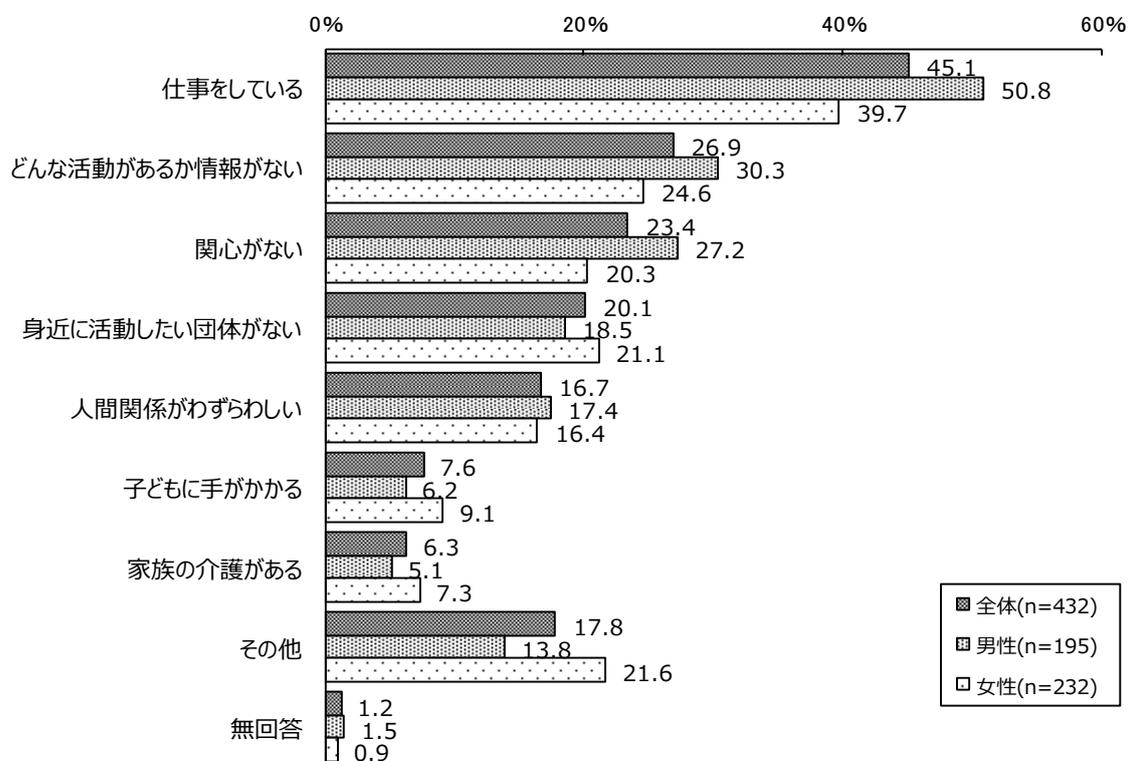
	n	町内会や自治会などの活動	民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動	P T Aなどの活動	市の講座や市主催の活動	地域での自主的なグループ・サークル活動	どの消費者活動、共同購入などの活動	リサイクル、共同購入などの活動	お年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動	子ども会など青少年育成に関する活動	育児支援のための活動	の市民活動、環境保護など	公の活動	男女平等・共同参画に関する活動	た V 防止・被害者支援のための活動	その他の活動	ないにも参加したことが	無回答
全体	1,127	38.8	16.7	12.3	11.3	11.0	10.1	9.6	8.6	4.3	3.4	1.1	0.5	1.9	36.6	1.1		
男性	426	33.6	10.3	3.1	7.0	8.7	5.6	5.9	6.3	0.7	4.7	0.7	0.2	1.6	50.2	0.5		
女性	662	42.7	20.7	19.0	14.7	12.5	13.3	12.4	10.6	6.6	2.4	1.4	0.8	2.1	27.6	0.5		

前回調査では、全体では「町内会や自治会などの活動」が38.8%（男性33.6%、女性42.7%）でもっとも高く、次いで「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動」となっている。一方「どれにも参加したことがない」は前回調査結果と比べて、今回は男性で減少したが、女性は増加している。

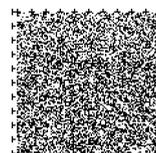


(2) ボランティア活動や地域活動をしていない理由

Q17-1 Q17で「16. どれにも参加したことがない」とお答えの方におたずねします。
あなたが活動をしていない理由は、どのようなことでしょうか。(〇は3つまで)



ボランティア活動や地域活動のどれにも参加していない理由は、「仕事をしている」が全体で45.1%、男女でみてももっとも高く、以下、「どんな活動があるか情報がない」全体で26.9%、「関心がない」全体で23.4%の順となり、これらの項目は男性が女性より高くなっている。



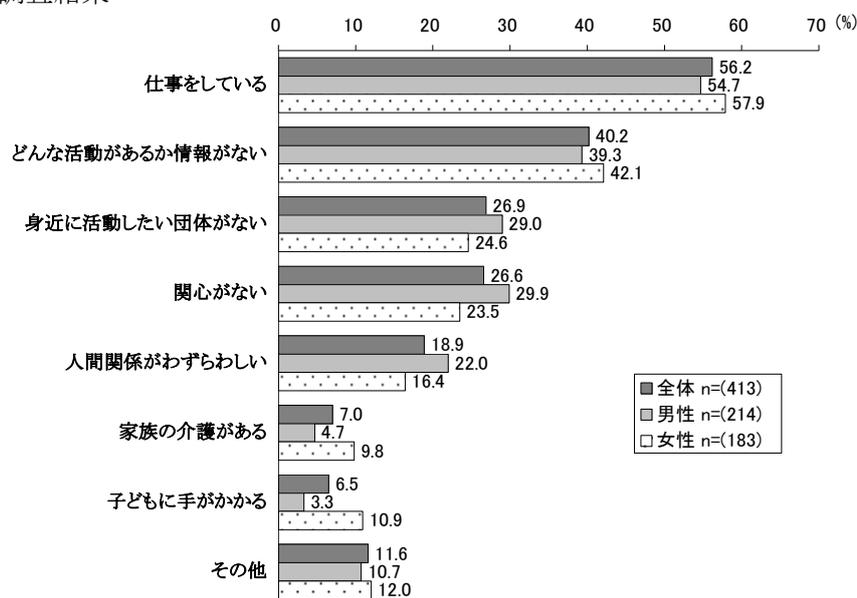
■性別・年代別

(%)

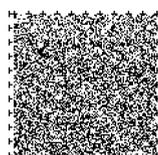
	n	仕事を している	ど ん な 活 動 が あ る か	情 報 が な い	関 心 が な い	身 近 に 活 動 し た い 団 体	し ん じ ん 間 関 係 が わ ず ら わ い	子 ど も に 手 が か か る	家 族 の 介 護 が あ る	そ の 他	無 回 答
全体	432	45.1	26.9	23.4	20.1	16.7	7.6	6.3	17.8	1.2	
男性 年代	20歳未満	3	-	-	33.3	-	-	-	-	66.7	-
	20代	20	50.0	50.0	50.0	25.0	20.0	5.0	-	-	-
	30代	24	70.8	37.5	29.2	8.3	29.2	20.8	-	4.2	4.2
	40代	33	66.7	24.2	39.4	15.2	15.2	12.1	-	9.1	-
	50代	40	70.0	25.0	12.5	20.0	15.0	5.0	5.0	12.5	-
	60代	33	48.5	30.3	21.2	18.2	12.1	-	15.2	9.1	-
女性 年代	20歳未満	6	-	50.0	33.3	16.7	-	-	-	50.0	-
	20代	32	62.5	40.6	31.3	15.6	12.5	12.5	-	6.3	-
	30代	29	51.7	27.6	20.7	13.8	13.8	41.4	-	3.4	-
	40代	26	65.4	38.5	19.2	7.7	23.1	19.2	-	23.1	-
	50代	35	62.9	14.3	28.6	31.4	14.3	-	5.7	14.3	-
	60代	42	33.3	16.7	11.9	35.7	26.2	-	19.0	19.0	-
70代以上	62	6.5	17.7	14.5	17.7	12.9	-	11.3	40.3	3.2	

性別・年代別でみると、「仕事をしている」が男性30代～50代、女性20代・40代・50代で6～7割、「どんな活動があるか情報がない」が男性20代・30代、女性20代・40代で4～5割、「関心がない」が男性20代・40代で4～5割、「子どもに手がかかる」が女性30代で4割と高くなっている。

【参考】 前回調査結果

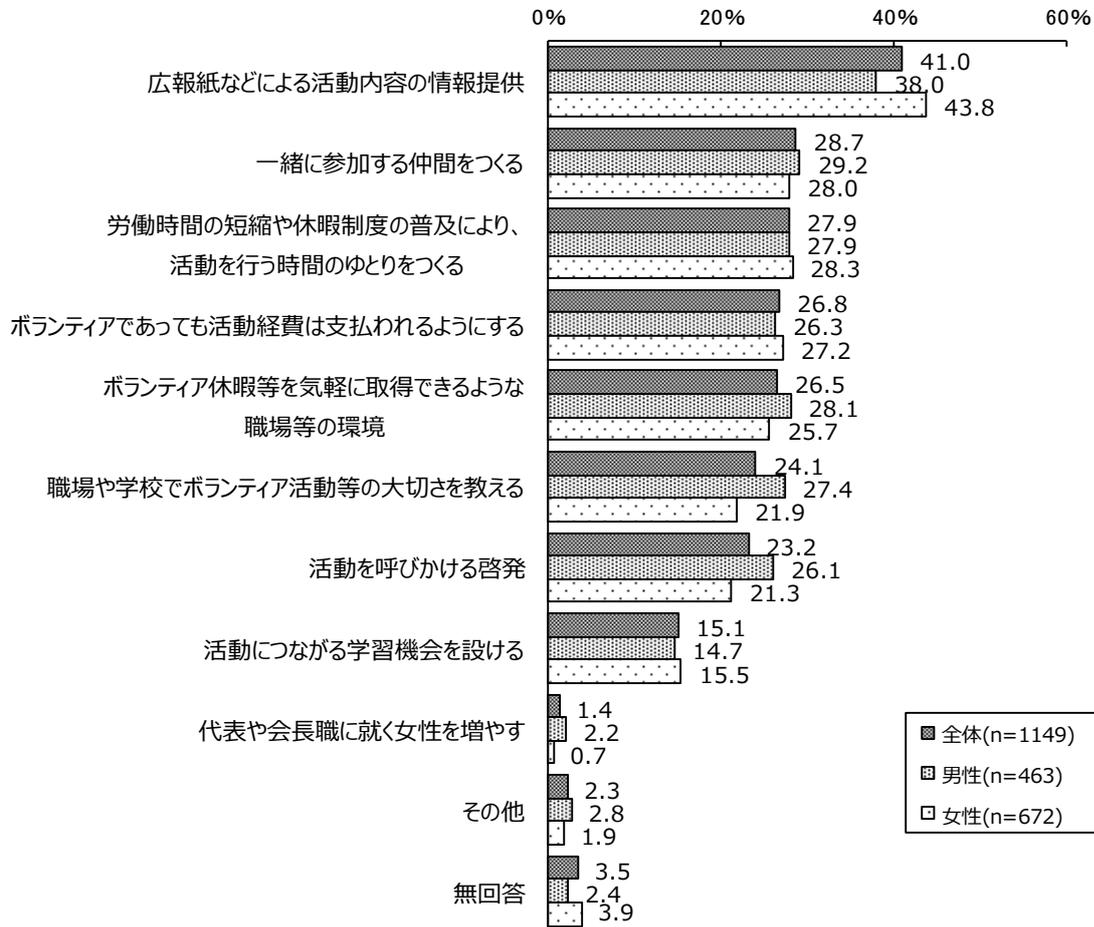


前回調査では、「仕事をしている」が全体56.2%、女性57.9%、男性54.2%となっているが、今回の調査結果では男女ともに減少している。また、「どんな活動があるか情報がない」「身近に活動したい団体がない」、「関心がない」も男女ともに減少している。



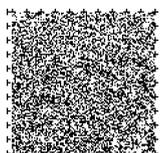
(3) ボランティア活動や地域活動に多くの市民が参加するために必要なこと

Q18 さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が41.0%でもっとも高く、以下、「一緒に参加できる仲間をつくる」(28.7%)、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」(27.9%)、「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」(26.8%)、「ボランティア休暇等を気軽に取得できるような職場等の環境」(26.5%)の順となっている。

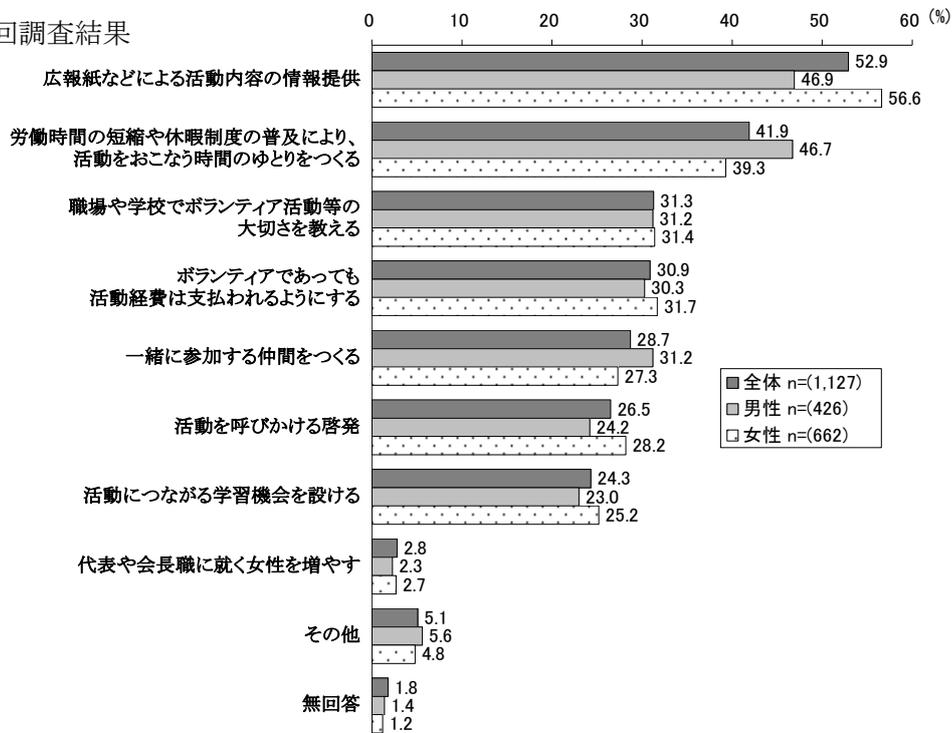
性別でみると、男性は「職場や学校でボランティア活動等の大切さを教える」が27.4%と女性よりもやや高く、女性は「広報紙などによる活動内容の情報提供」が43.8%と男性よりもやや高くなっている。



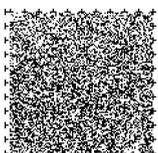
	n	の広 情報 紙な どに よる 活動 内容	一 緒に 参加 する 仲間 をつ くる	時 間の ゆとり をつ くる	の普 通の 時間 の短 縮や 休暇 制度 の普 及に よる	労働 時間 の短 縮や 休暇 制度 の普 及に よる	動 経費 は支 払わ れる よう にする	ボラ ンテ ィア 活動 が活 躍的 な環 境を 提供 する	に取 得可 する よう な職 場等 の環 境を 提供 する	活 動等 の学 校で ボラ ンテ ィア 活動 を教 える	職 場や 学校 でボ ラン テ ィア 活動 を教 える	活 動を 呼び かけ る啓 発	活 動に つな がる 学習 機会 を設 ける	増 やす 代表 や会 長職 に就 く女 性を 増やす	そ の他	無 回答
全体	1149	41.0	28.7	27.9	26.8	26.5	24.1	23.2	15.1	1.4	2.3	3.5				
男性年代	20歳未満	6	50.0	16.7	33.3	16.7	-	33.3	50.0	-	-	16.7	-			
	20代	28	21.4	35.7	39.3	35.7	39.3	17.9	17.9	10.7	-	-	-			
	30代	48	16.7	27.1	39.6	29.2	35.4	14.6	12.5	10.4	-	10.4	2.1			
	40代	73	32.9	32.9	32.9	24.7	28.8	28.8	24.7	12.3	-	1.4	2.7			
	50代	78	41.0	23.1	38.5	32.1	30.8	23.1	24.4	17.9	-	-	2.6			
	60代	88	43.2	25.0	20.5	19.3	27.3	35.2	36.4	21.6	2.3	3.4	1.1			
70代以上	141	45.4	33.3	17.7	26.2	23.4	30.5	27.0	12.8	5.7	2.1	3.5				
女性年代	20歳未満	6	33.3	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-			
	20代	50	32.0	32.0	48.0	34.0	30.0	18.0	28.0	2.0	-	-	-			
	30代	90	43.3	27.8	43.3	25.6	24.4	20.0	24.4	8.9	-	3.3	2.2			
	40代	114	33.3	26.3	39.5	34.2	32.5	21.9	22.8	14.0	-	4.4	-			
	50代	120	48.3	22.5	29.2	31.7	30.8	18.3	20.0	10.0	-	1.7	1.7			
	60代	128	46.9	31.3	18.8	28.1	25.0	25.0	18.0	25.0	0.8	-	3.1			
70代以上	162	49.4	30.2	12.3	17.9	16.7	24.1	19.8	19.8	1.9	1.9	11.1				

性別・年代別では、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が女性50代～70代以上で5割弱、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」が男性20代・30代、女性20代～40代で4～5割、「ボランティア休暇等を気軽に取得できるような職場等の環境」が男性20代で約4割、「活動を呼びかける啓発」が男性60代で4割弱と高くなっている。

【参考】 前回調査結果



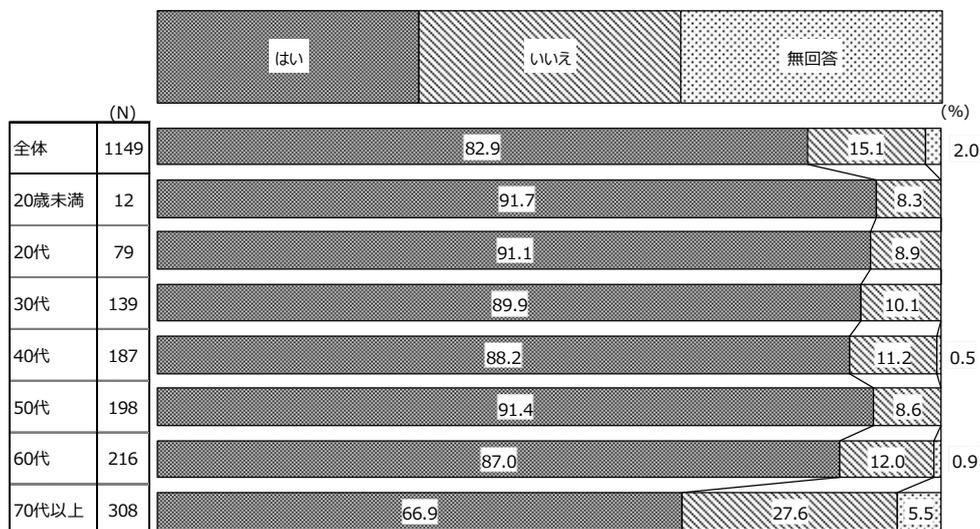
前回調査では、「広報誌などによる活動内容の情報提供」が全体で52.9%、女性56.6%、男性46.9%でもっとも高くなっているが、今回の調査結果では男女ともに大きく減少している。



F 性の多様性について

(1) セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知状況

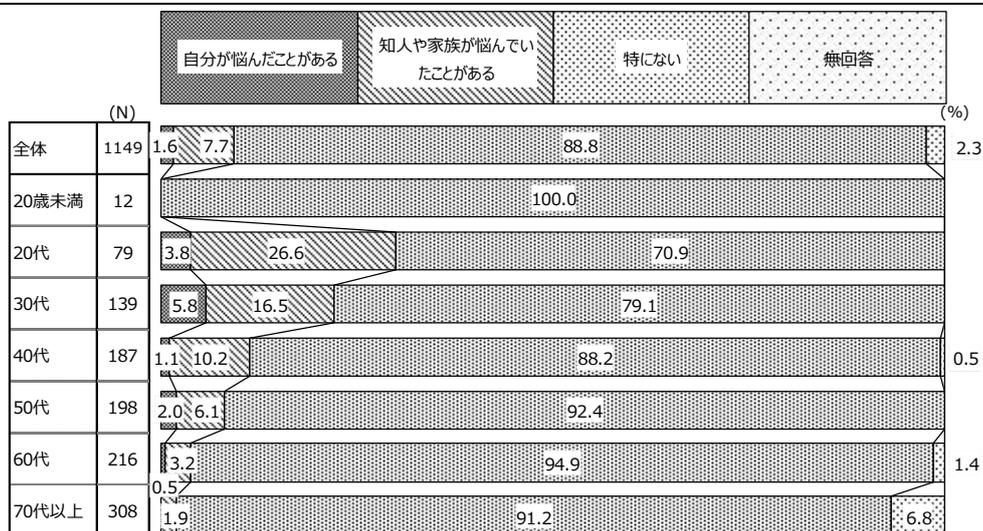
Q19 あなたはセクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)という言葉を知っていますか。(〇は1つ)



セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)という言葉の認知度は82.9%となっている。年代別でみると、20代から60代の認知度は9割程度と高いが、70代以上では66.9%にとどまっている。

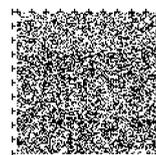
(2) 身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験

Q20 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)に悩んだり、あるいは身近で悩んでいる人がいましたか。(〇はいくつでも)



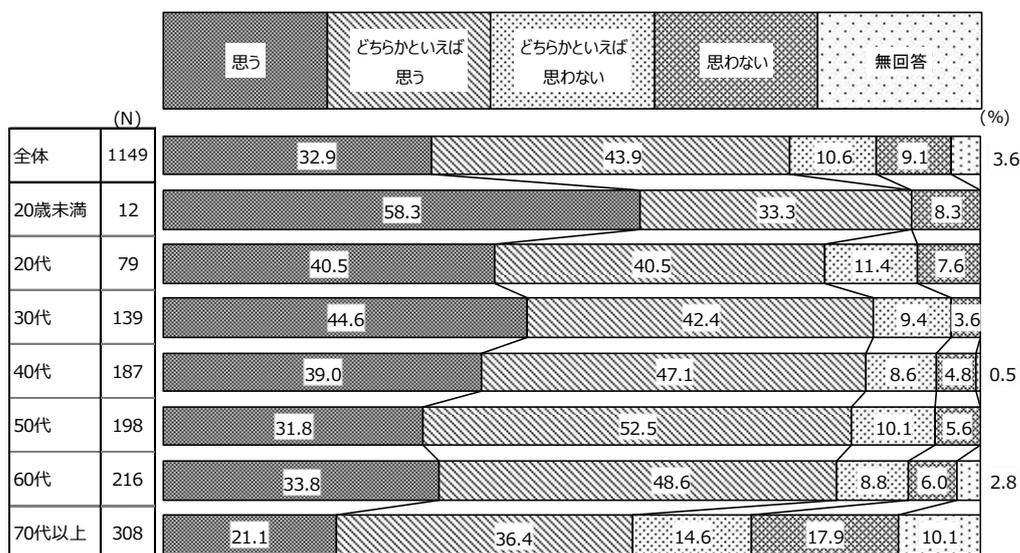
身体・心の性、性的指向については、「自分が悩んだことがある」が1.6%、「知人や家族が悩んでいたことがある」が7.7%となっている。

年代別でみると、20代・30代で「自分が悩んだことがある」と「知人や家族が悩んでいたことがある」が高くなっている。



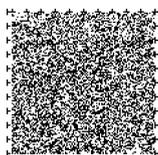
(3) セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか

Q21 現在、セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(〇は1つ)



セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思う(「思う」と「どちらかといえば思う」の合計)は全体の76.8%を占めている。

年代別で見ると、「思う」と「どちらかといえば思う」の合計は20代~60代が8割以上で、30代が87.0%でもっとも高くなっている。

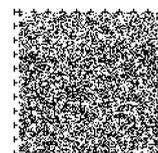


(4) セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

Q21-1 Q21で「1. 思う」「2. どちらかと言えば思う」とお答えの方におたずねします。セクシュアル・マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

		(%)													
	n	つ学校 いで教 育し の 中 で 、 性 の 多 様 性 に	解消 への 取 り 組 み を 明 記 す る	ノリ テ イ の 方 々 へ の 偏 見 や 差 別	法 律 等 に 、 セ ク シ ユ ア ル ・ マ イ ノ リ テ ィ	境 場 を 取 り 組 み を す い す	企 業 な ど の 取 組 み を す い す	生 徒 や 市 民 へ の 対 応 を 想 定 し 、 小 中 高 等	を 行 う	相 談 窓 口 等 を 充 実 さ せ 、 周 知 す	行 政 が 市 民 等 へ 周 知 啓 発 を 行 う	え 当 事 者 や 支 援 団 体 、 意 見 交 換 を 行 う	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	882	61.7	27.0	24.4	20.5	10.5	9.6	6.6	7.8	2.3	1.4				
20歳未満	11	63.6	36.4	45.5	18.2	9.1	-	-	9.1	-	-				
20代	64	65.6	32.8	31.3	25.0	1.6	6.3	9.4	4.7	3.1	1.6				
30代	121	63.6	24.8	24.8	24.0	4.1	6.6	3.3	8.3	5.8	0.8				
40代	161	64.0	24.8	26.1	24.2	7.5	11.2	5.6	7.5	2.5	-				
50代	167	58.1	34.1	25.7	15.0	9.6	4.2	5.4	10.2	3.0	0.6				
60代	178	64.6	27.0	24.2	23.6	11.2	11.2	9.0	6.7	-	-				
70代以上	177	57.6	20.9	16.9	15.8	21.5	15.8	7.9	7.9	1.1	5.1				

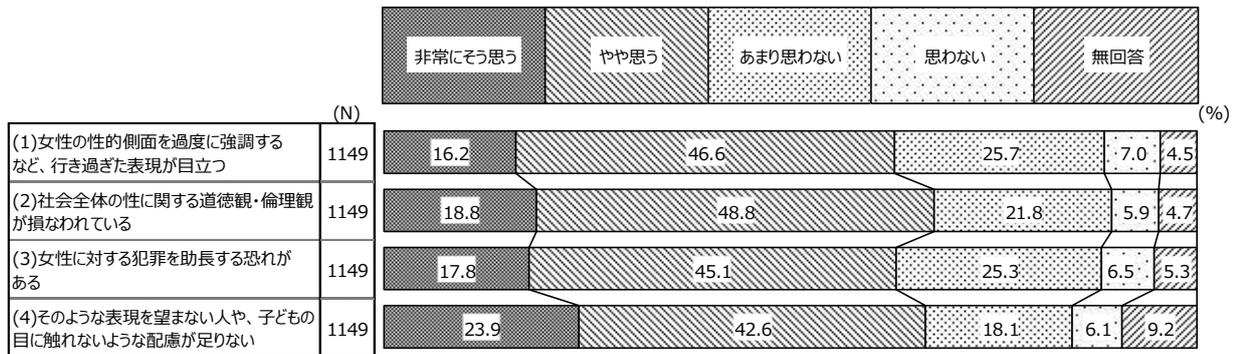
セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策としては、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が61.7%と特に高く、これに「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が27.0%で続いている。



G 男女の人権について

(1) メディアにおける性表現・暴力表現についての考え

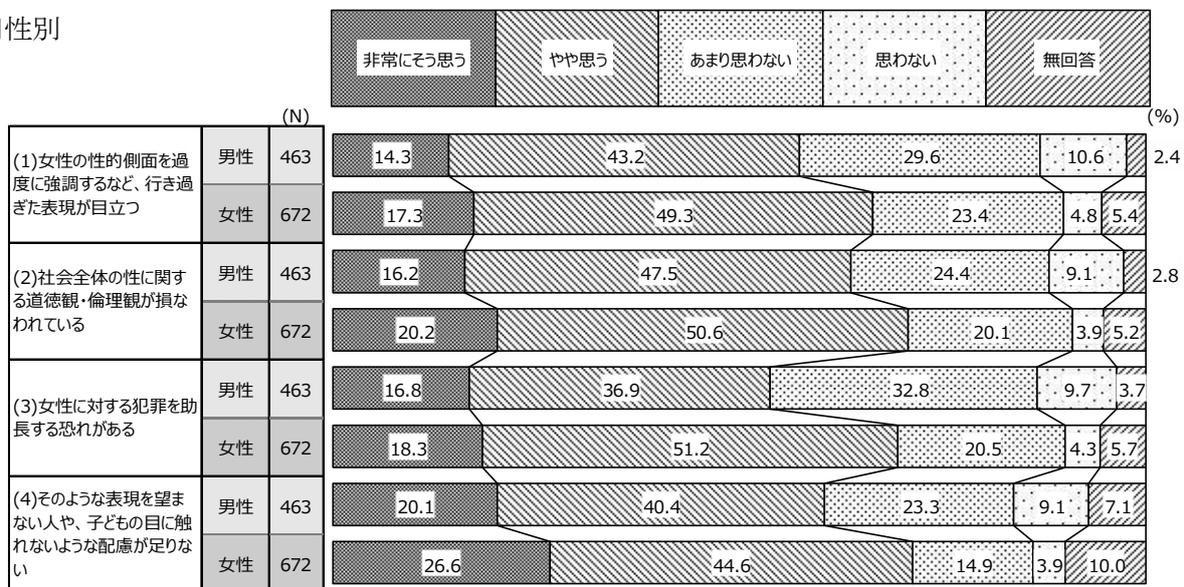
Q22 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性表現・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。(1)～(4)の各項目につき○は1つ
また、その他にご意見がありましたら、(5)の欄にご記入ください。



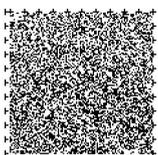
メディアにおける性表現・暴力表現については、『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』において、「非常にそう思う」と「やや思う」の合計である「そう思う(計)」は62.8%、『社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている』で67.6%、『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』で62.9%、『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』が66.5%となっており、全般的に否定的な様子が見えらる。

その他では、インターネットで簡単に不適切な情報も見られるようになっている、規制が必要、正しい知識を学校で教えるべきなどの意見があった。

■性別



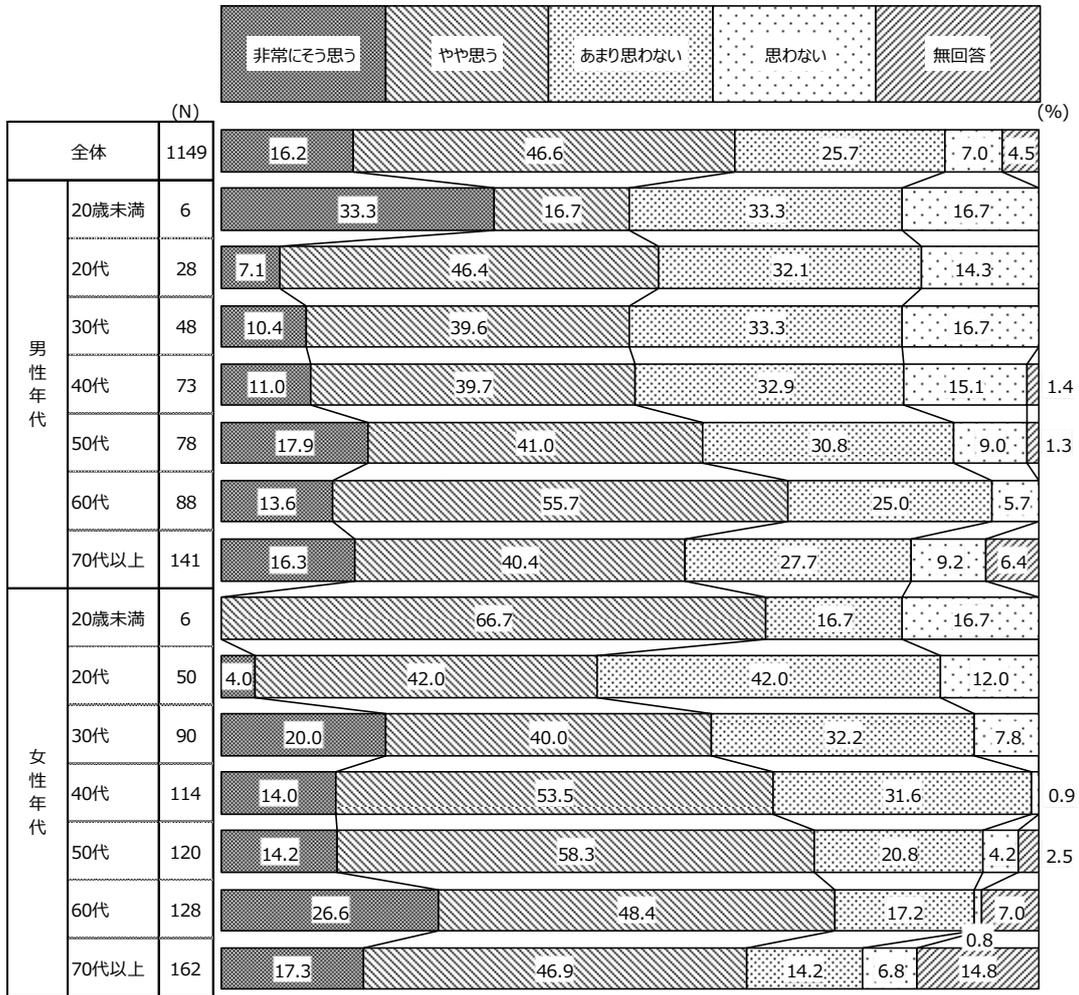
「そう思う(計)」を性別で見ると、いずれも女性が男性を上回っており、特に『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』は女性(69.5%)が男性(53.7%)より15.8ポイント高くなっている。



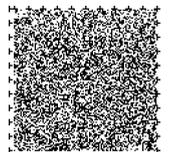
■性別・年代別

G (1)-(1)

女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



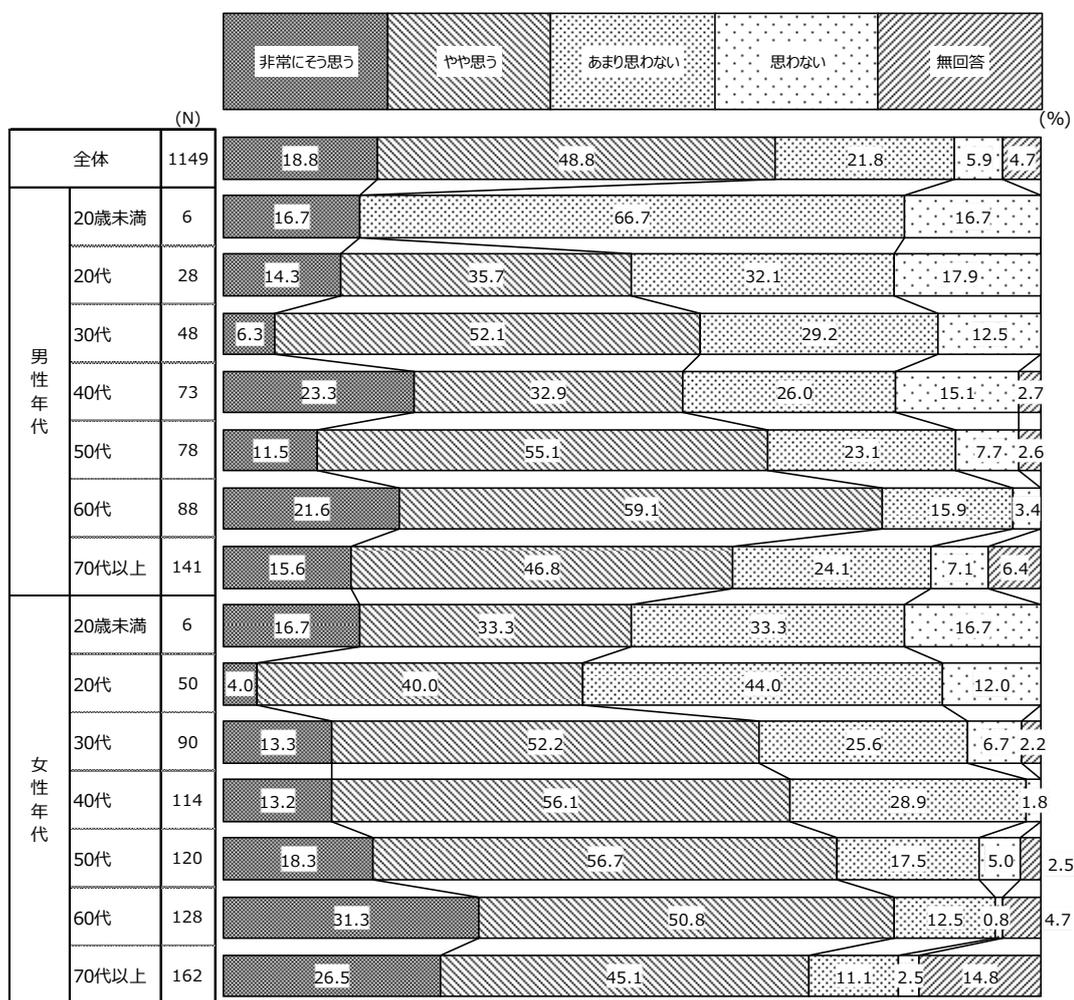
『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』を性別・年代別で見ると、男性60代、女性50代・60代で「そう思う (計)」が69.3~75.0%と高くなっている。一方、「思わない」と「あまり思わない」の合計である「思わない (計)」が男性30代 (50.0%)、男性40代 (48.0%)、女性20代 (54.0%) で5割前後と高くなっている。



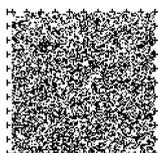
■性別・年代別

G (1)-(2)

社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている



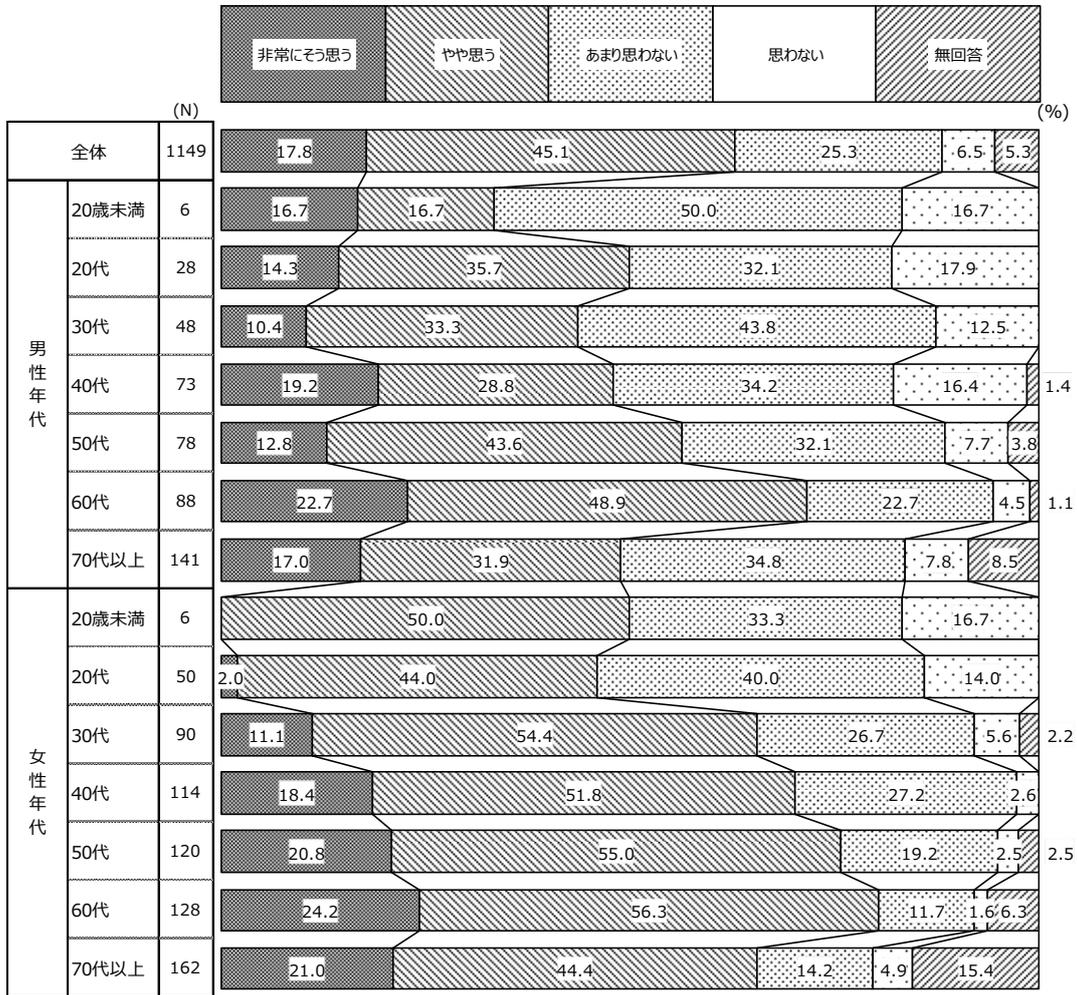
『社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている』を性別・年代別でみると、男性60代、女性50代・60代・70代以上で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。一方、「思わない（計）」が男性、女性ともに20代で5割と高くなっている。



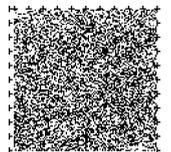
■性別・年代別

G (1)-(3)

女性に対する犯罪を助長する恐れがある



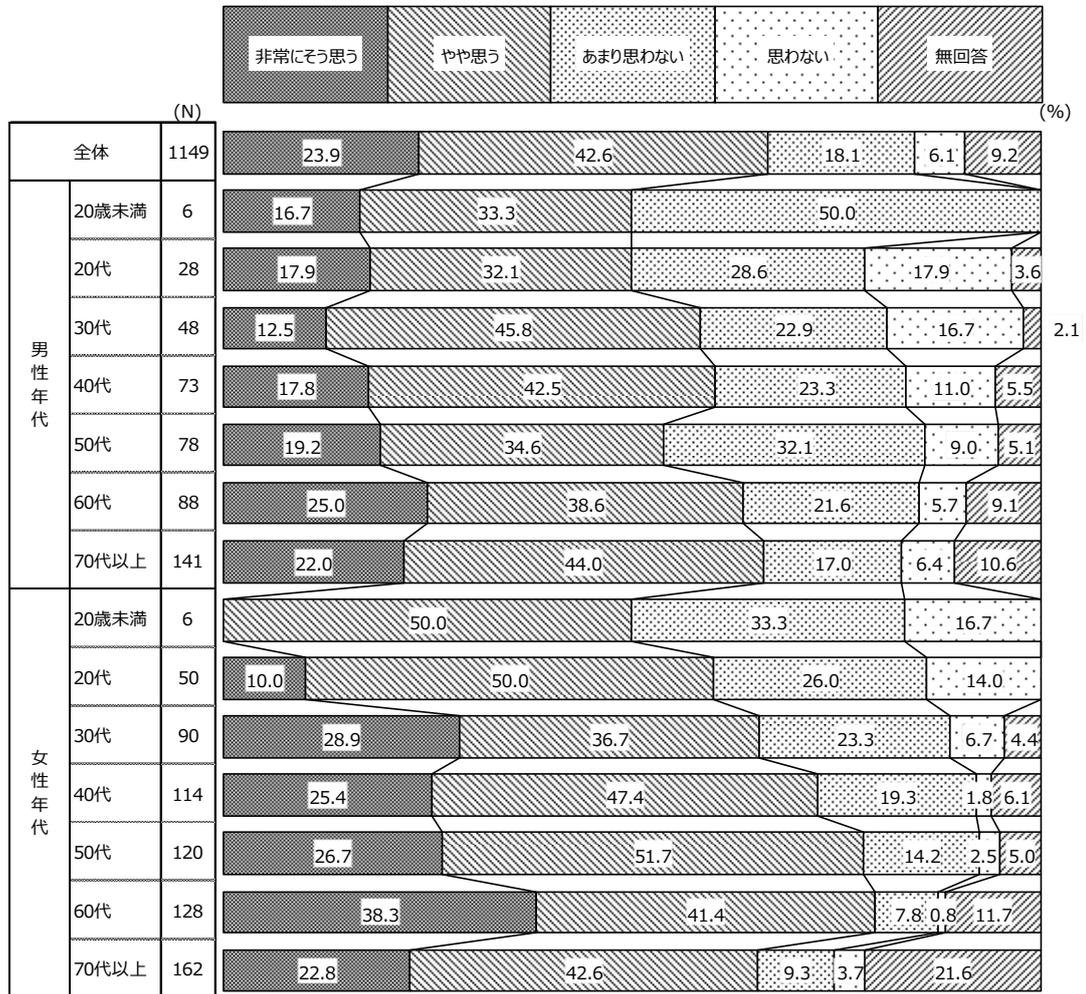
『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』を性別・年代別でみると、男性60代、女性40代～60代で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。一方、「思わない（計）」が男性20代～40代、女性20代で5割と高くなっている。



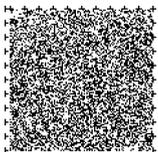
■性別・年代別

G (1)-(4)

そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない

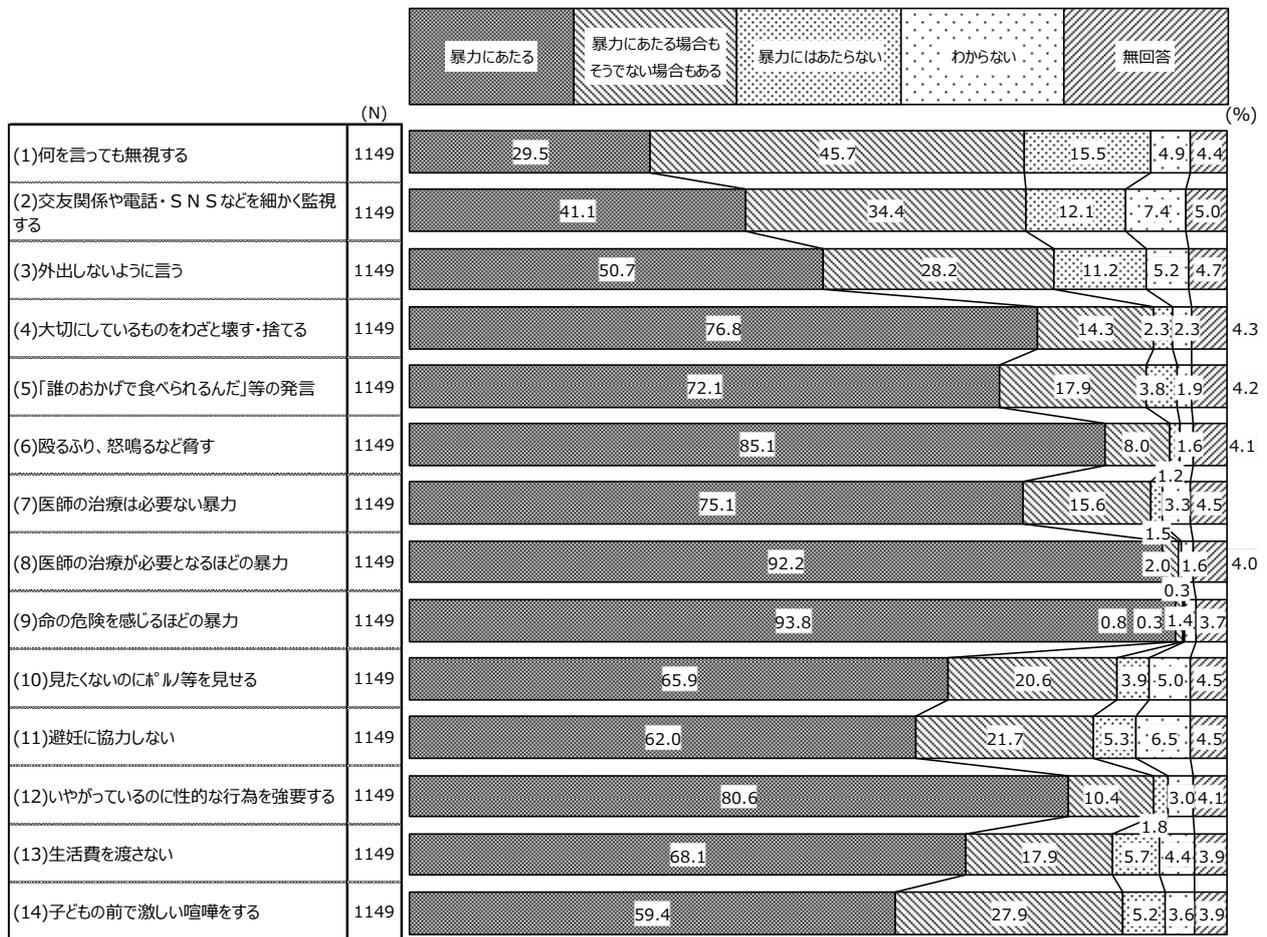


『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』を性別・年代別で見ると、女性40代～60代で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。一方、「思わない（計）」が男性20代・30代・50代、女性20代で4割前後となっている。



(2) 配偶者・パートナー間での暴力について

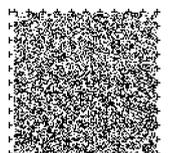
Q23 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(1)～(14)の各項目につき○は1つ)



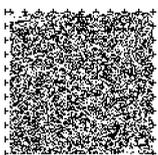
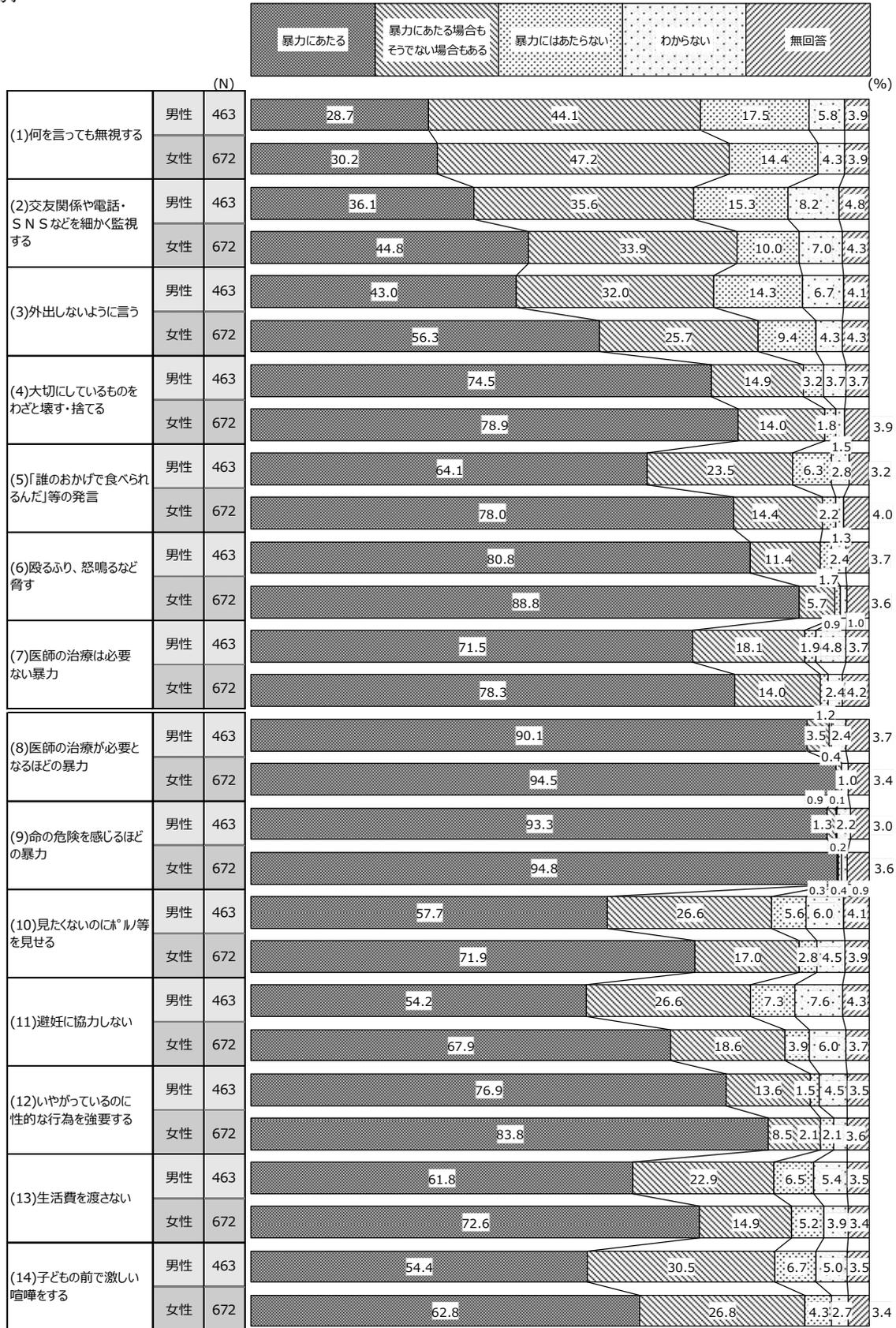
配偶者・パートナー間で暴力だと思われることについては、「暴力にあたる」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」の合計が、すべての項目で7割以上にのぼっている。

「暴力にあたる」は『命の危険を感じるほどの暴力』(93.8%)『医師の治療が必要となるほどの暴力』(92.2%)で9割を超え、以下、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』(85.1%)、『いやがっているのに性的な行為を強要する』(80.6%)、『大切にしているものをわざと壊す・捨てる』(76.8%)、『医師の治療は必要ない暴力』(75.1%)の順となっている。

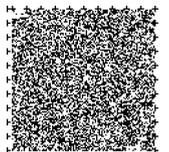
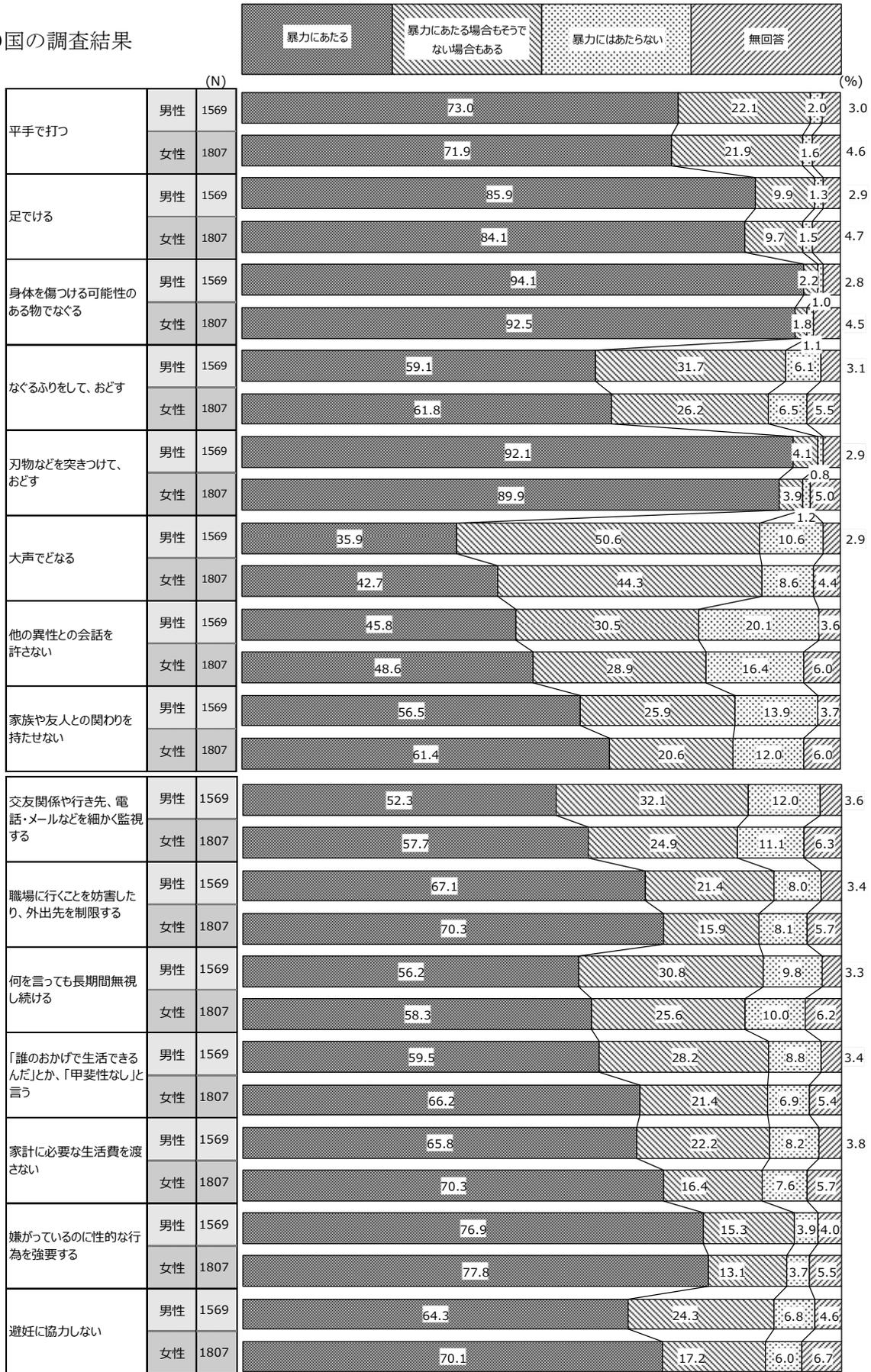
性別でみると、いずれのケース・場面も「暴力にあたる」と考える女性の割合が男性を上回っており、その差は『外出しないように言う』『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言』『見たくないのにポルノ等を見せる』『避妊に協力しない』で13～14ポイントと大きい。



■性別



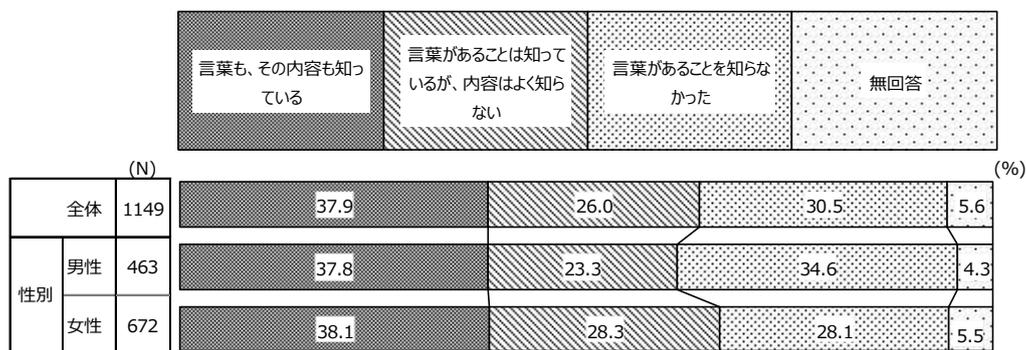
● 国の調査結果



国の調査では、「足でける」「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」などの身体的暴力は男女ともに「暴力にあたる」と考える人が多いが、精神的暴力である「なぐるふりをして、おどす」は男女ともに6割程度、「大声でどなる」は4割前後となっており、藤沢市の「殴るふり、怒鳴るなど脅す」が男女ともに8割であるのと比較すると、藤沢市の方が高くなっている。

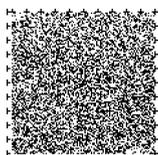
(3)「デートDV」という言葉の認知状況

Q24 あなたは、「デートDV（交際相手からの暴力）」という言葉を知っていますか。（○は1つ）



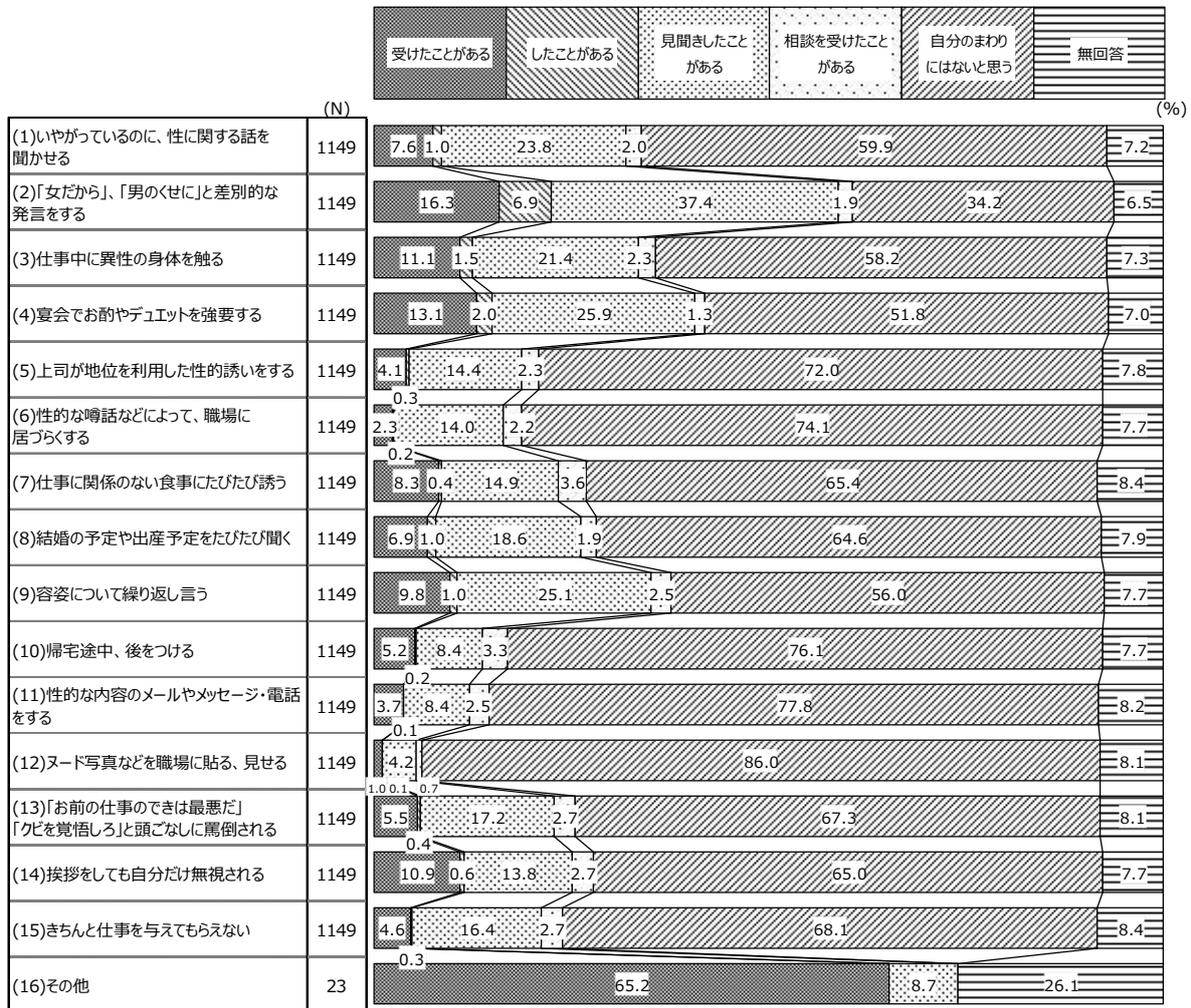
「デートDV（交際相手からの暴力）」という言葉については、「言葉も、その内容も知っている」が37.9%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が26.0%、「言葉があることを知らなかった」が30.5%となっている。

性別でみると、男性は「言葉があることを知らなかった」が34.6%と女性よりやや高くなっている。

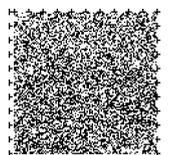


(4) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの経験

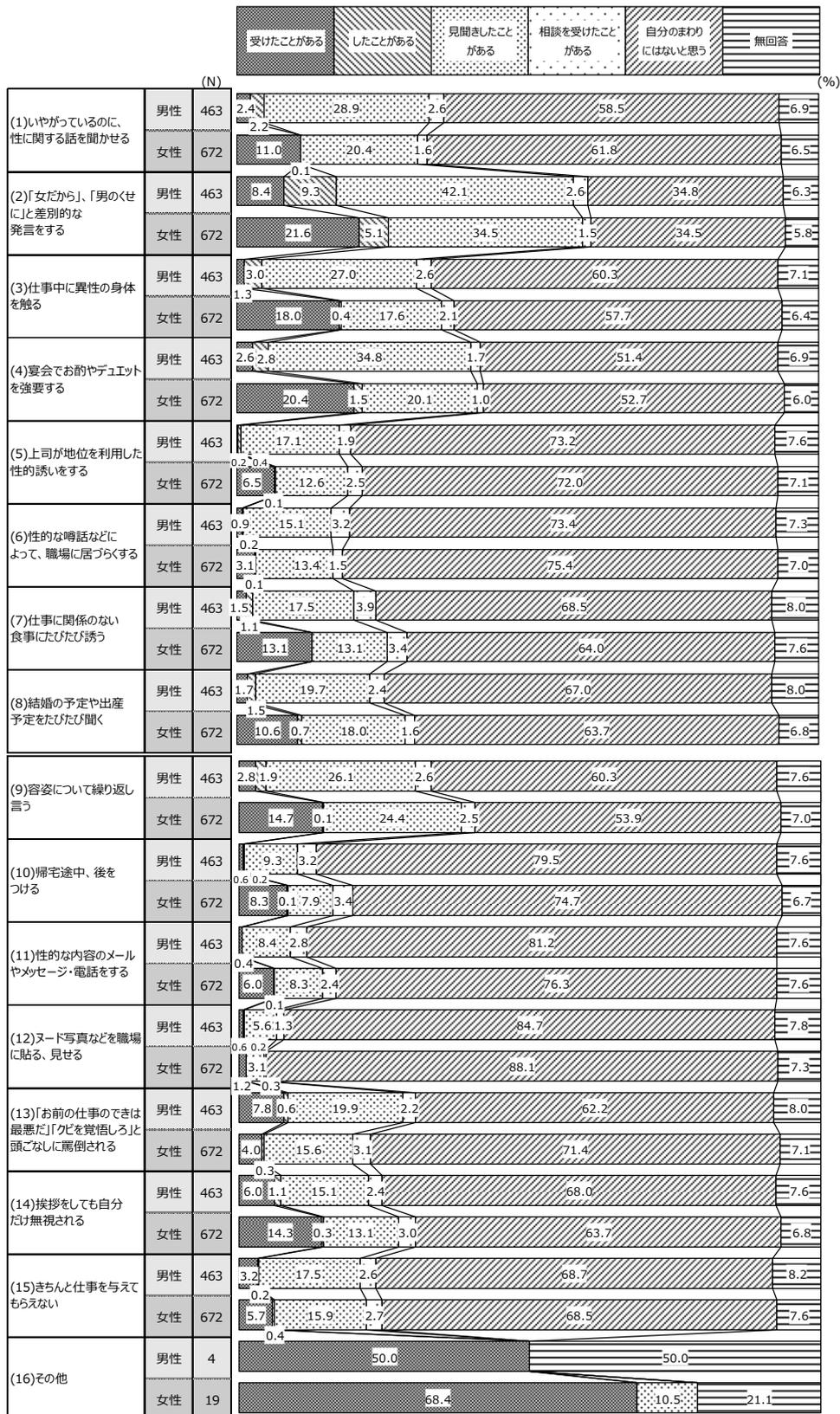
Q25 あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。((1) ~ (16) の各項目につきあてはまるものすべてに○)



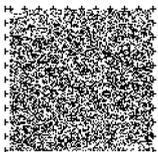
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験について、全体では「自分のまわりにはないと思う」が『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』と『その他』を除いた項目で高くなっている。「受けたことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が16.3%でもっとも高く、以下、『宴会でお酌やデュエットを強要する』(13.1%)、『仕事中に異性の身体を触る』(11.1%)、『挨拶をしても自分だけ無視される』(10.9%)、『容姿について繰り返し言う』(9.8%)の順となっている。「したことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が6.9%でもっとも高い。「見聞きしたことがある」も『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が37.4%でもっとも高く、以下、『宴会でお酌やデュエットを強要する』(25.9%)、『容姿について繰り返し言う』(25.1%)、『いやがっているのに、性に関する話を聞かせる』(23.8%)、『仕事中に異性の身体を触る』(21.4%)が続く。「相談を受けたことがある」は、『仕事に関係のない食事にたびたび誘う』が3.6%でもっとも高くなっている。



■性別

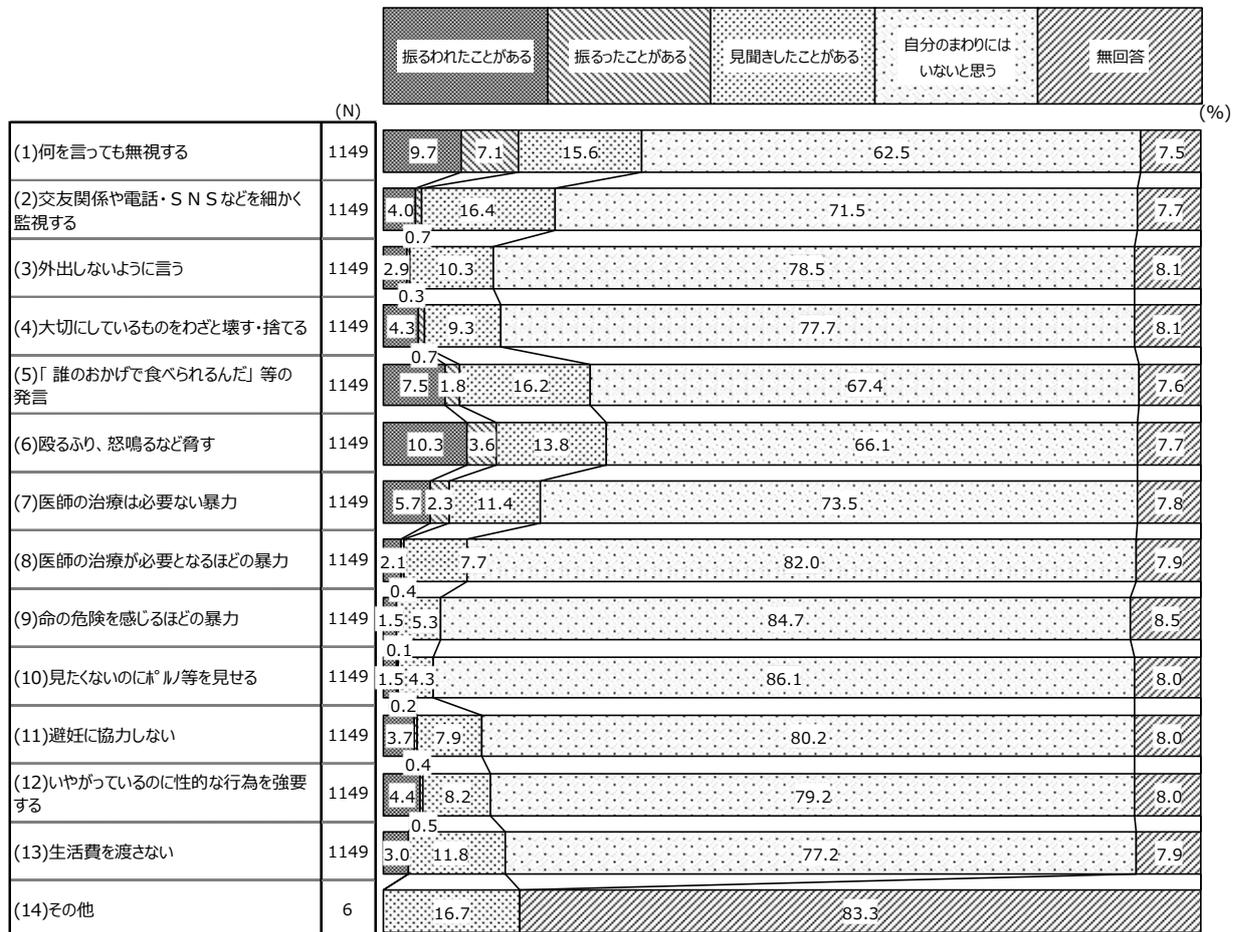


性別でみると、女性では『「女だから」「男のくせに」と差別的な発言をする』『宴会でお酌やデュエットを強要する』を「受けたことがある」が21.6%、20.4%と高い。「見聞きしたことがある」では、『宴会でお酌やデュエットを強要する』が男性34.8%で女性より14.7ポイント高くなっている。



(5) 配偶者・恋人間での暴力に関する経験

Q26 あなたは、配偶者・恋人から、次のような暴力を振るわれたり、あるいは配偶者・恋人に暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはありますか。((1) ~ (14) の各項目につきあてはまるものすべてに○)

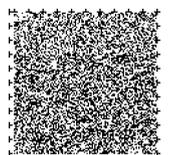


配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験については、全体では「自分のまわりにはいないと思う」が『その他』を除いた項目でもっとも高くなっている。

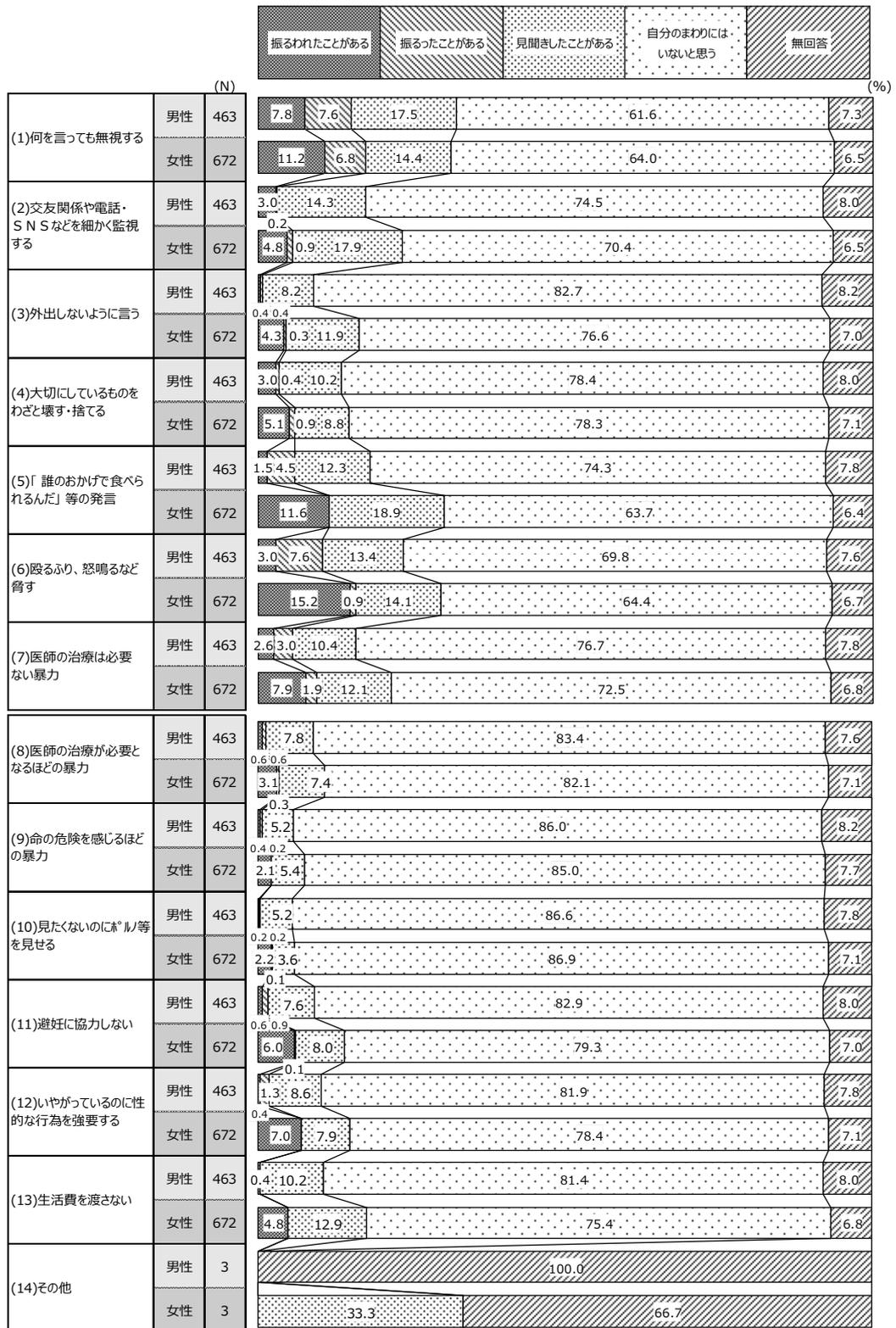
「振るわれたことがある」は、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』が10.3%でもっとも高く、以下、『何を言っても無視する』(9.7%)、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』(7.5%)の順となっている。

「振るったことがある」は、『何を言っても無視する』が7.1%でもっとも高くなっている。

「見聞きしたことがある」は、『交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する』が16.4%でもっとも高く、以下、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』(16.2%)、『何を言っても無視する』(15.6%)、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』(13.8%)の順となっている。

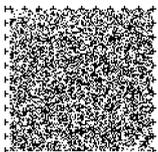


■ 性別



性別でみると、「振るわれたことがある」では女性で『殴るふり、怒鳴るなど脅す』『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言』『何を言っても無視する』が15.2%、11.6%、11.2%と男性より高い。

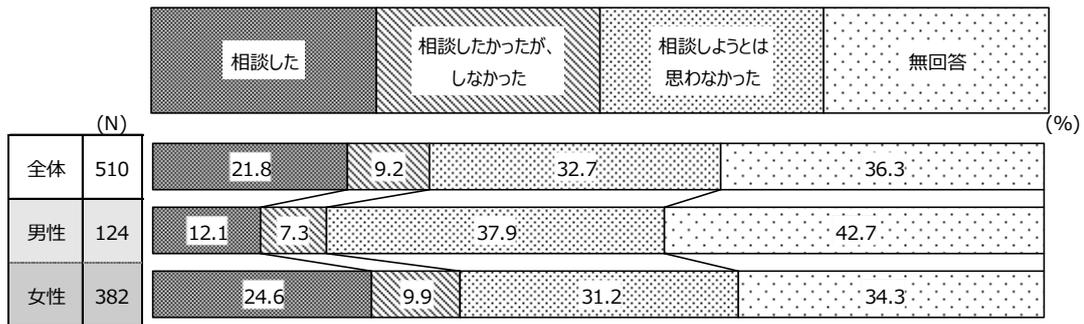
「見聞きしたことがある」では、男性で『何を言っても無視する』が17.5%と高く、女性で『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言』18.9%、『交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する』が17.9%と高くなっている。



(6) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント等の被害を受けた際の相談の有無

①相談の有無

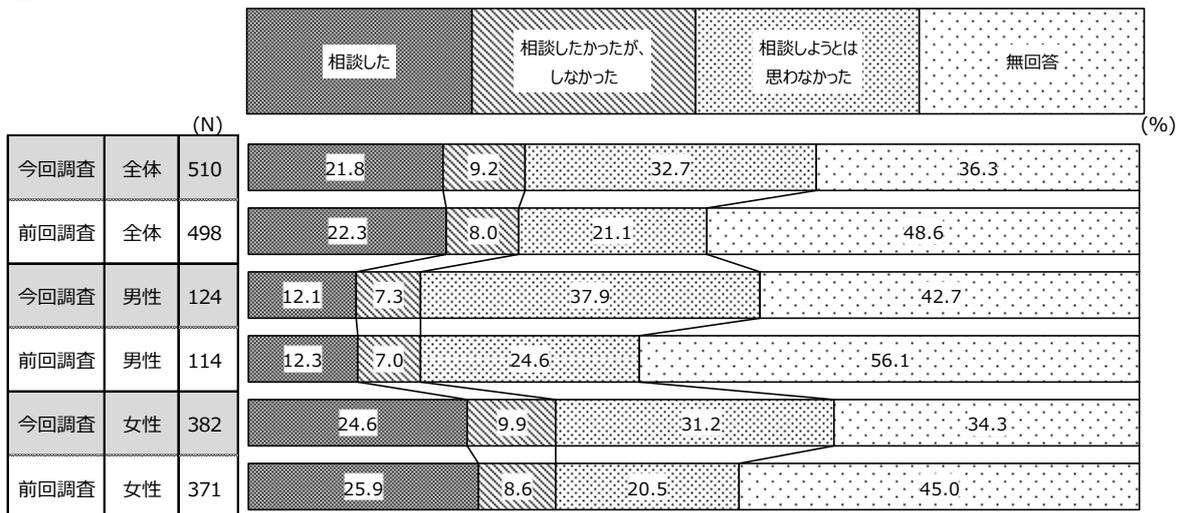
Q27 Q25でセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを「1. 受けたことがある」、ならびにQ26で暴力を「1. 振るわれたことがある」とお答えの方におたずねします。あなたは、このような行為を受けていることについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)



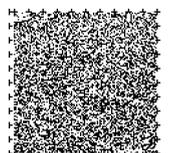
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験がある人のうち、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人は21.8%、「相談したかったが、しなかった」人は9.2%、「相談しようとは思わなかった」人が32.7%となっている。

性別でみると、男性は「相談しようとは思わなかった」が37.9%と女性（31.2%）よりやや高く、女性は「相談した」が24.6%と男性（12.1%）より12.5ポイント高くなっている。

◎経年比較

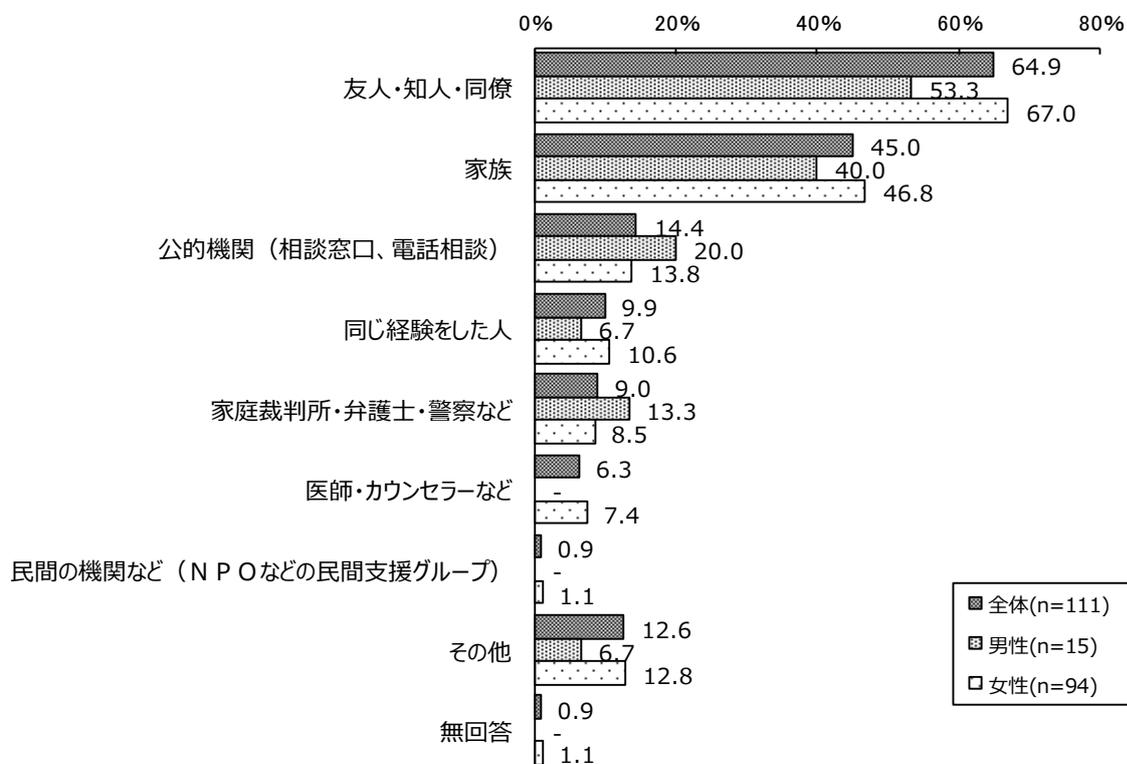


前回調査と比較すると、全体では「相談しようとは思わなかった」は前回調査より11.6ポイント増加しており、男性で13.3ポイント、女性で10.7ポイントの増加となっている。



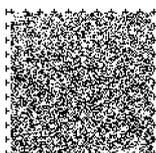
②相談先

Q27-1 Q27で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします。実際に、どこ（だれ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）



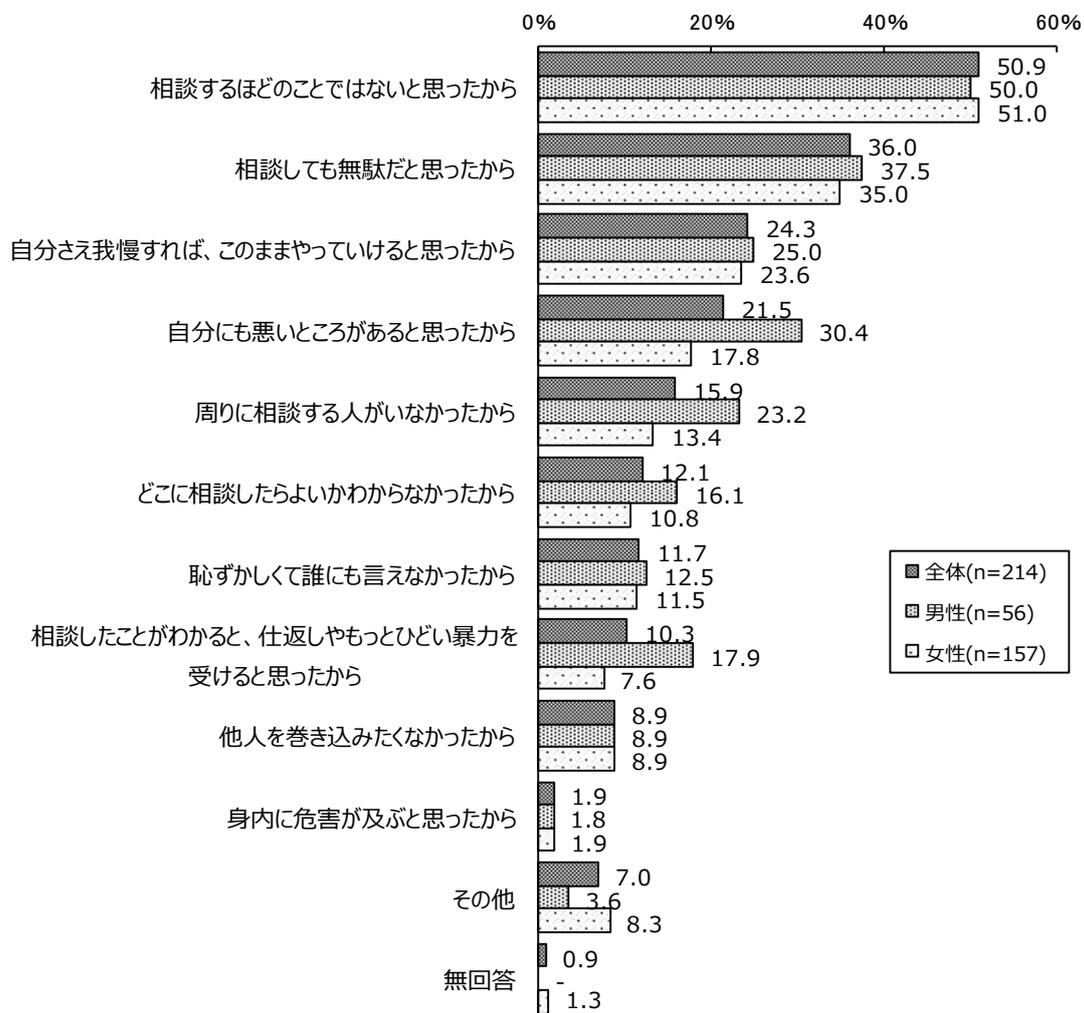
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験があり、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人の相談先は、「友人・知人・同僚」が64.9%でもっとも高く、次いで「家族」が45.0%となっている。

性別で見ると、男性は「公的機関（相談窓口、電話相談）」が20.0%と女性（13.8%）より高く、女性は「友人・知人・同僚」が67.0%で男性（53.3%）より13.7ポイント、「家族」が46.8%で男性（40.0%）より6.8ポイント高くなっている。



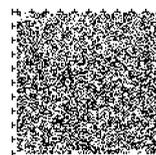
③相談しなかった理由

Q27-2 Q27で「2. 相談したかったがしなかった」、「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)



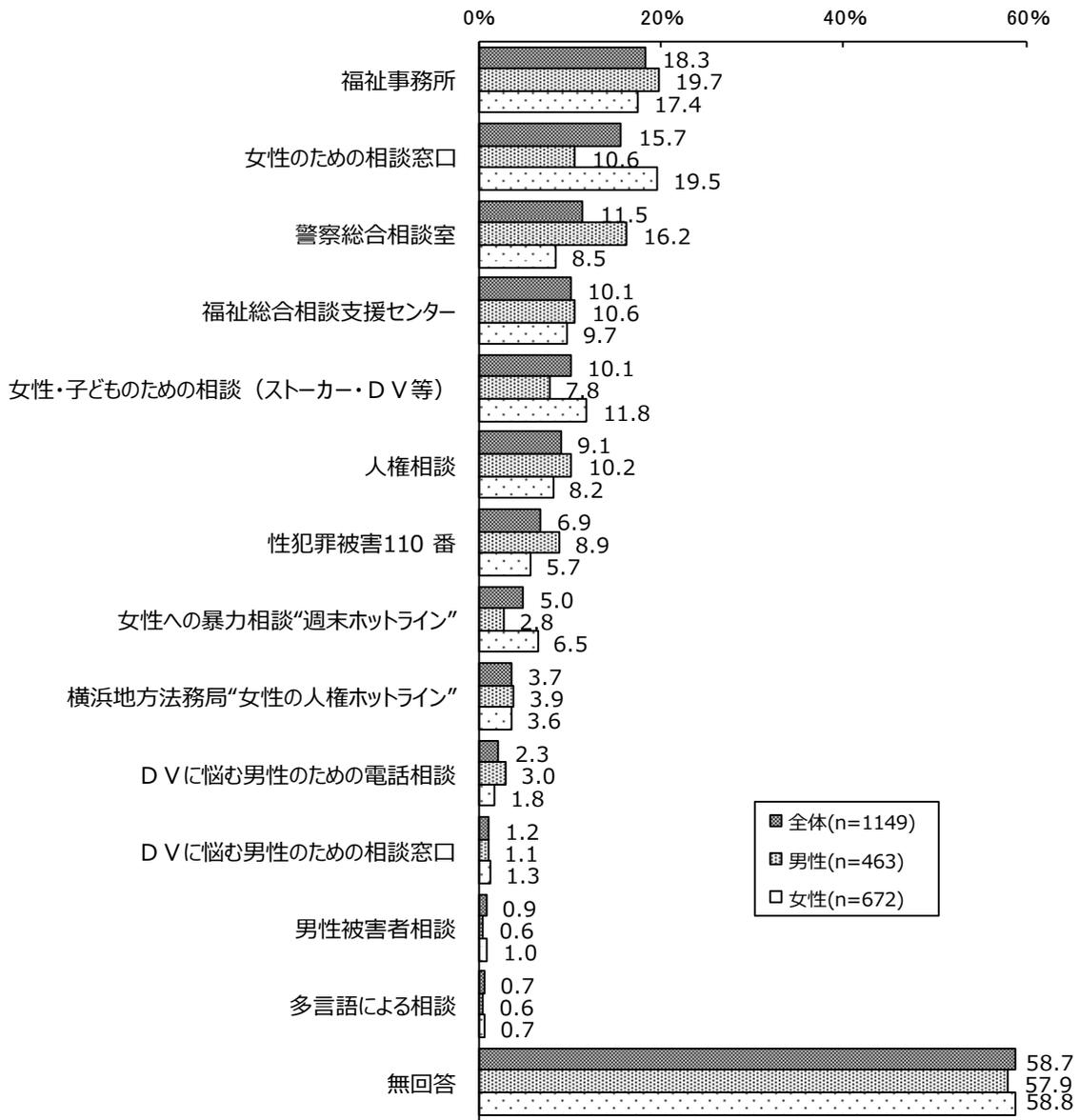
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験があっても、「相談しなかった」人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が全体50.9%、男性50.0%、女性51.0%でもっとも高くなっている。次いで「相談しても無駄だと思ったから」が全体36.0%、男性37.5%、女性35.0%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が全体24.3%、男性25.0%、女性23.6%となっている。

性別でみると、男性は「自分にも悪いところがあった」と30.4%で女性（17.8%）より12.6ポイント、「周りに相談する人がいなかった」が23.2%で女性（13.4%）より9.8ポイント高くなっている。



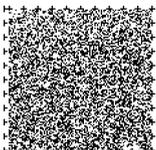
(7) DV等の相談先として知っているもの

Q28 あなたは、DV等の相談先として次のような窓口をご存じですか。(〇はいくつでも)



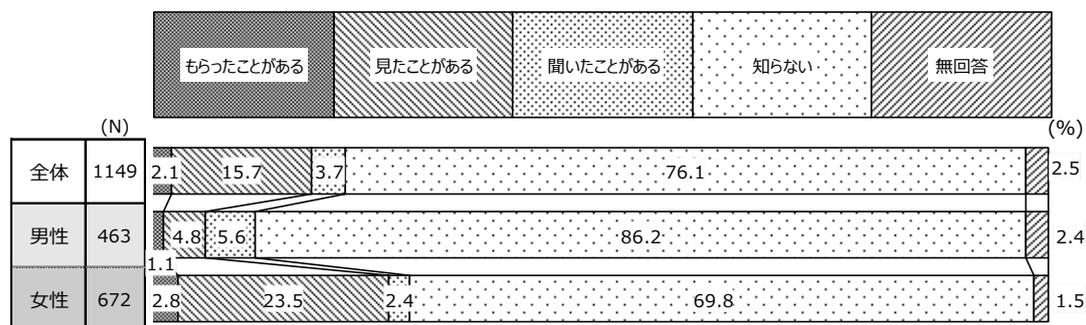
DV等の相談先として知っている窓口については、藤沢市の「福祉事務所」が18.3%でもっとも高く、次いで神奈川県「女性のための相談窓口」(15.7%)、神奈川県警の「警察総合相談室」(11.5%)となっている。

性別でみると、女性は「女性のための相談窓口」が女性19.5%で男性(10.6%)より高くなっている。



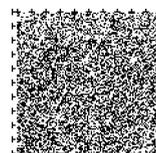
(8)「DV相談窓口案内カード」の認知状況

Q29 あなたは、「DV相談窓口案内カード」をご存じですか。(〇は1つ)

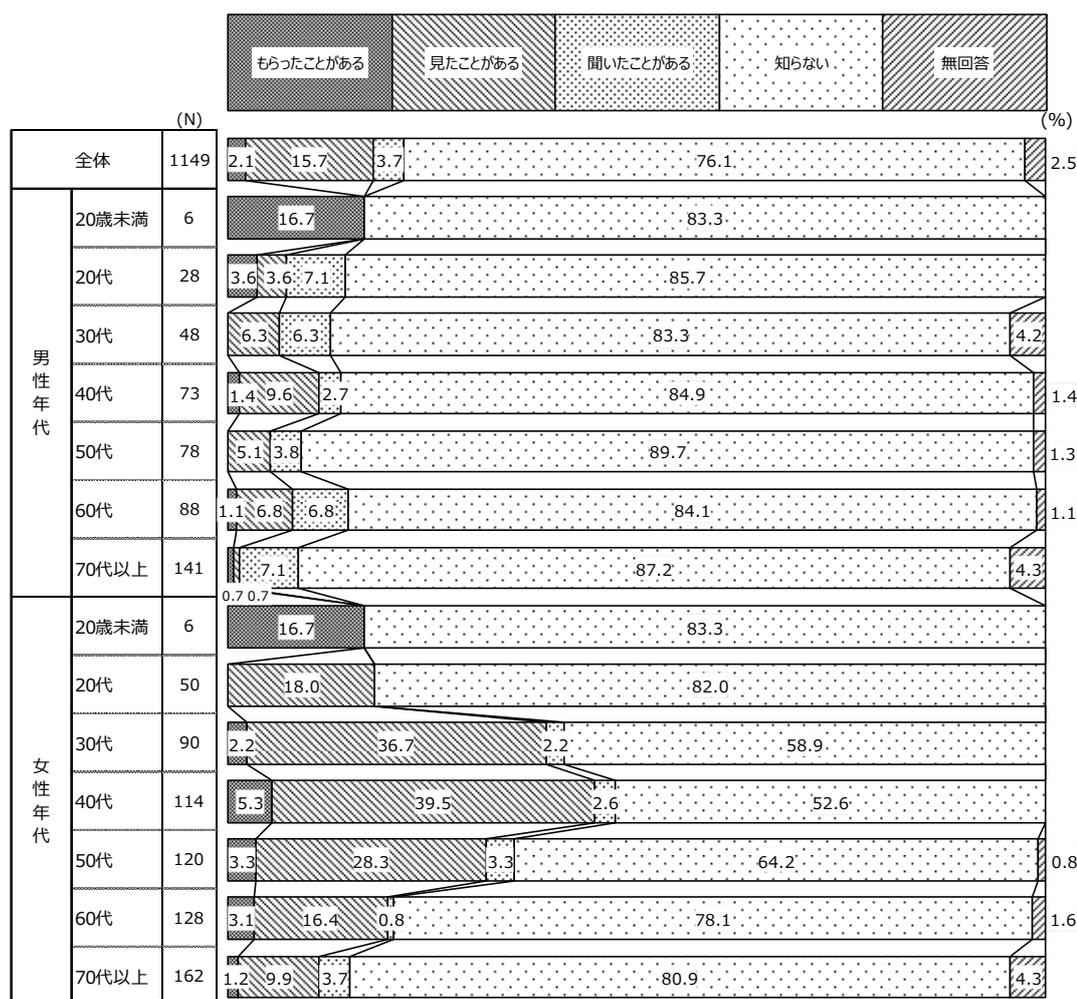


「DV相談窓口案内カード」については、全体では「知らない」が76.1%にのぼり、「もらったことがある」(2.1%)、「見たことがある」(15.7%)、「聞いたことがある」(3.7%)の合計は21.5%と認知度は低い。

性別で見ると、男性は「知らない」が86.2%で女性(69.8%)より16.4ポイント高く、女性は「見たことがある」が23.5%で男性(4.8%)より18.7ポイント高くなっている。

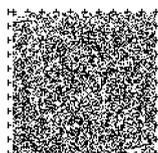


■性別・年代別



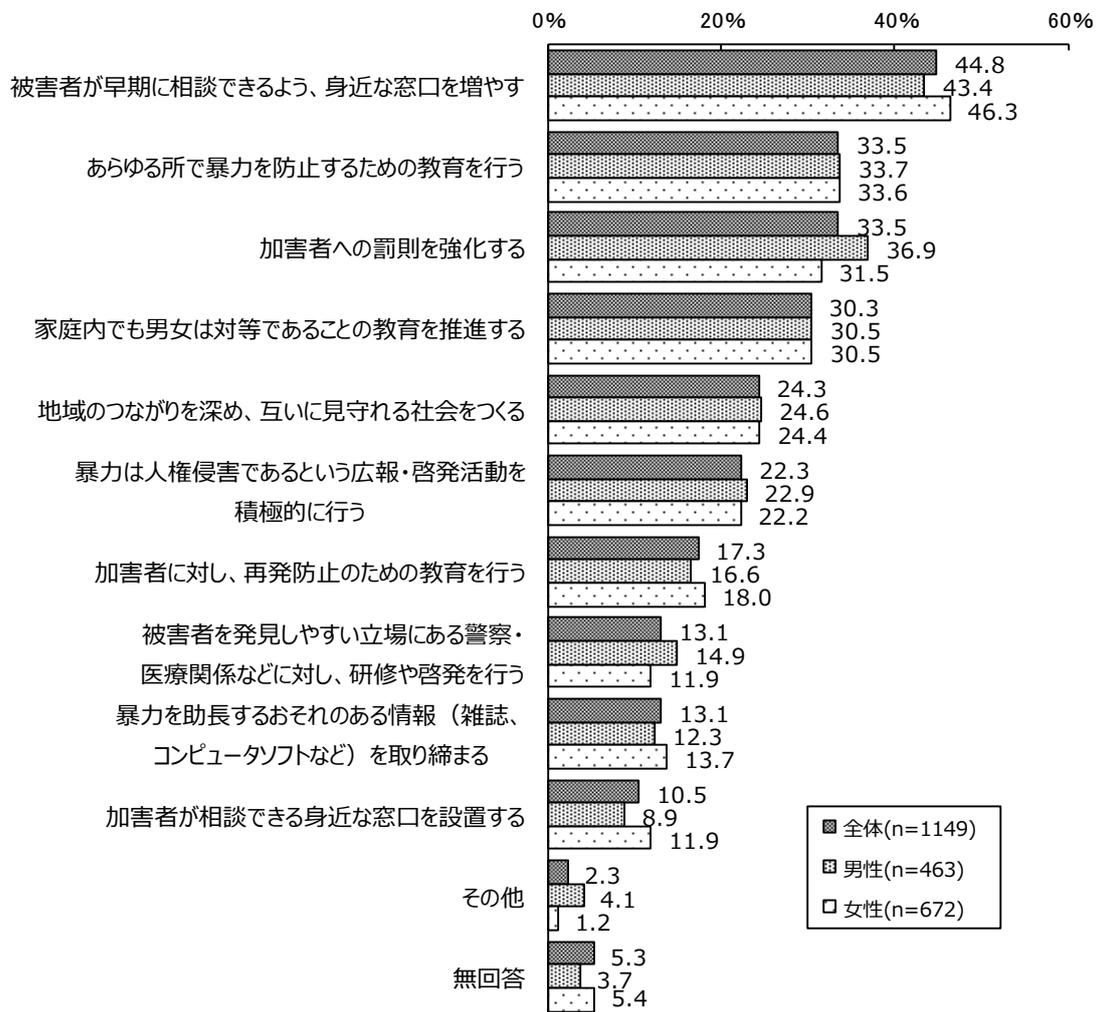
性別・年代別では、「知らない」が男性はすべての年代で8割以上と高く、これに対し、女性では20代、70代以上で8割以上と高くなっている。

「見たことがある」と「聞いたことがある」を合わせると、女性30代～50代で31.6～42.1%と高くなっている。



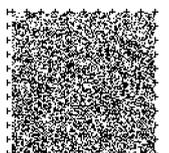
(9) DVを防ぐために重要だと思うこと

Q30 DVを防ぐには、どのようにしたらよいとお考えですか。(〇は3つまで)



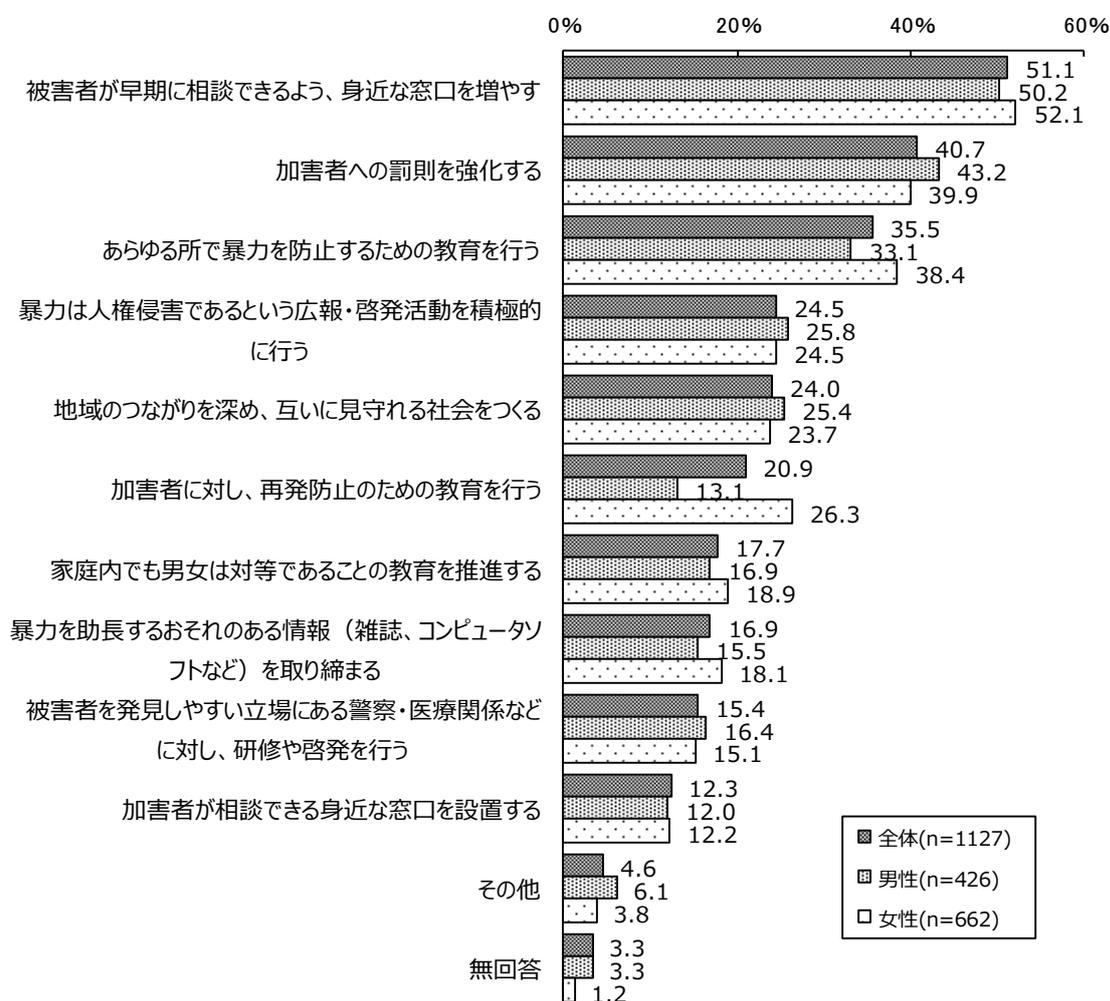
DVを防ぐために重要だと思うことは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が44.8%でもっとも高く、次いで「あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」(各33.5%)、「家庭内でも男女は平等であることを推進する」(30.3%)となっている。

この回答は、性別による差が小さい。



【参考】 前回調査の結果

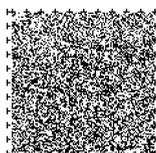
DVを防ぐために重要だと思われること



前回調査では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が全体で51.1%、女性52.1%、男性50.2%ともっとも高くなっている。次いで、「加害者への罰則を強化する」が全体で40.7%、男性43.2%、女性39.9%となっている。

また、「加害者に対し、再発防止のための教育を行う」が女性26.3%で男性（13.1%）より13.2ポイント高くなっている。

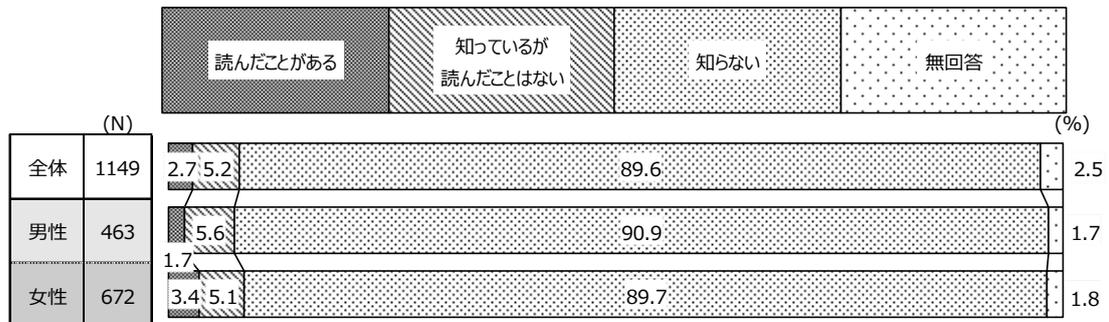
今回調査では、「家庭内でも男女は対等であることの教育を推進する」が前回調査より、全体で12.6ポイント高くなっている。



H 男女共同参画に必要な施策について

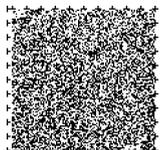
(1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況

Q 3 1 あなたは、「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」をご存じですか。(○は1つ)



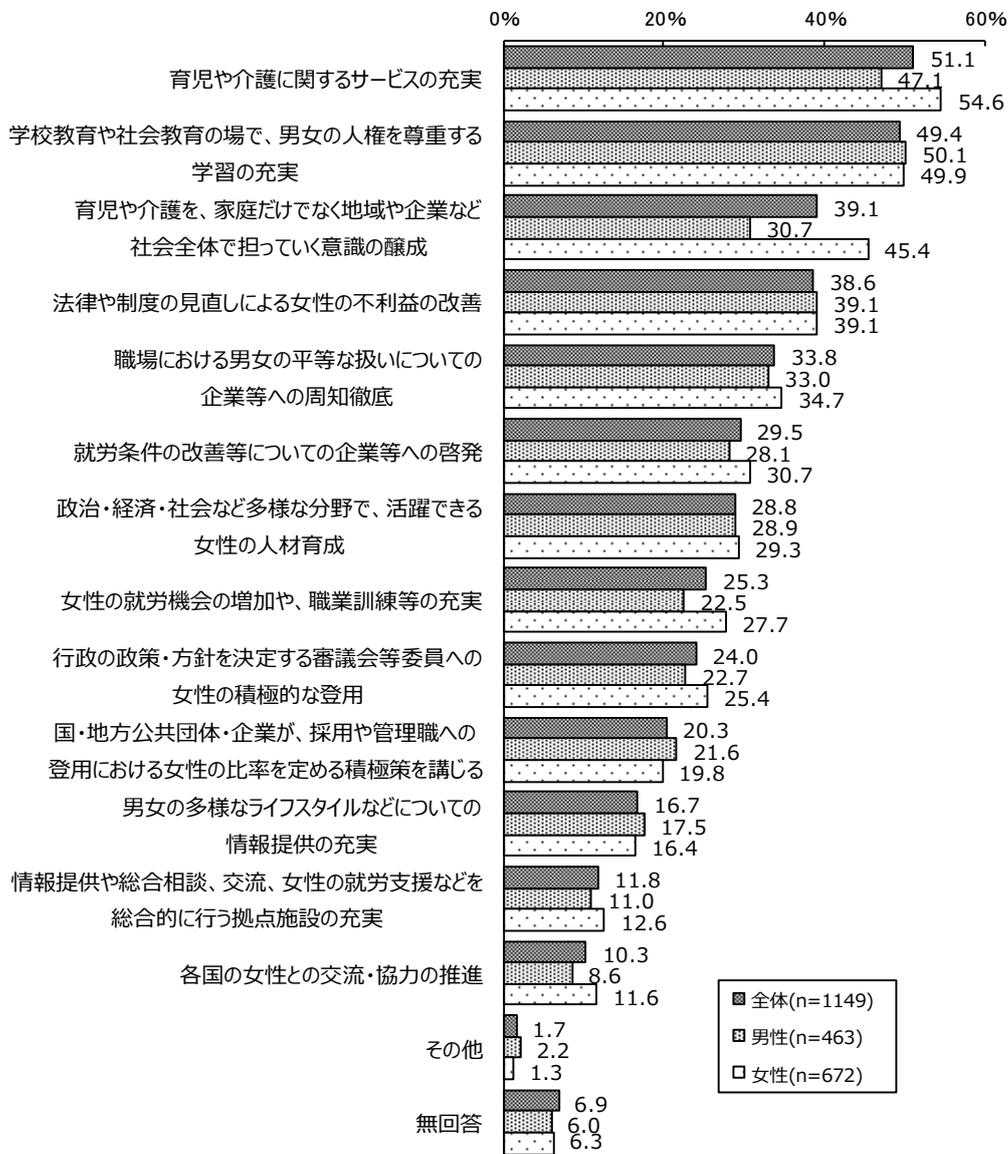
「男女が共に生きる情報紙、かがやけ地球」については、「知らない」が89.6%と多く、「知っているが、読んだことはない」が5.2%、「読んだことがある」が2.7%となっている。

性別でも同様に「知らない」が男女とも約9割を占めている。



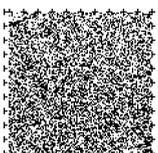
(2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

Q32 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政の施策の中で何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)



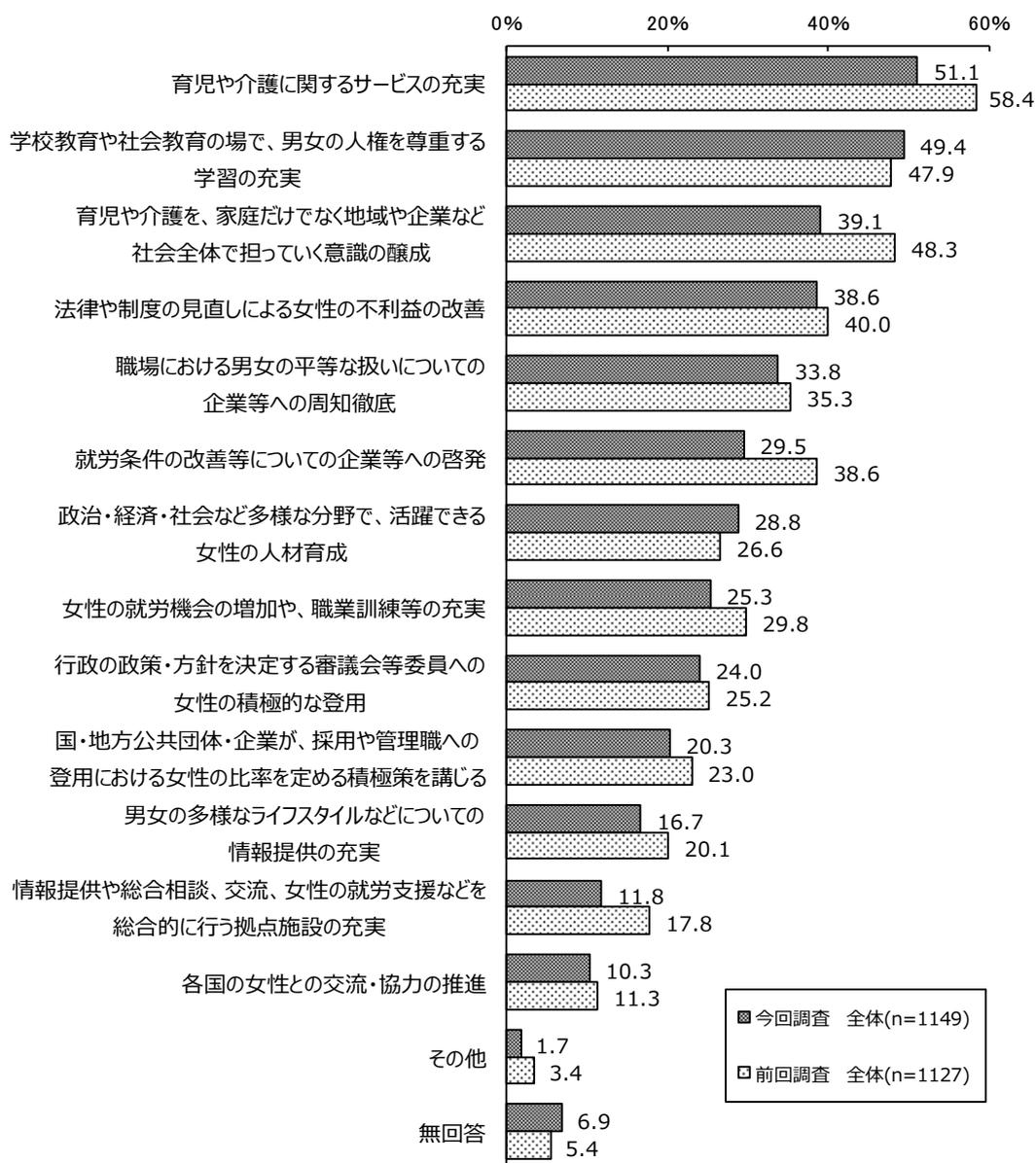
男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.1%)、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(49.4%)が5割前後と高く、続いて「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」(39.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(38.6%)が4割弱となっている。

性別でみると、女性は「育児や介護に関するサービスの充実」が54.6%で男性(47.1%)より7.5ポイント高く、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」が45.4%で男性(30.7%)より14.7ポイント高くなっている。

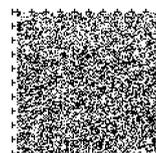


◎経年比較

男女共同参画社会を実現していくために行政に対して望むこと



前回調査と比較すると、今回調査では「育児や介護に関するサービスの充実」が前回から7.3ポイント減少しているが、もっとも高くなっている。また、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」は1.5ポイント増加、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」は9.2ポイント減少、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」は1.4ポイント減少しているが、それぞれ高い割合となっている。

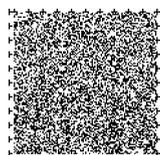


(3) 男女共同参画社会を実現していくためにできること

Q33 男女共同参画社会を実現していくために、あなたはどんなことができると思いますか。

男女共同参画を実現していくためにできることを聞いたところ、281件の意見が寄せられた。1人の回答者が複数の内容を記入している場合もあるため、件数は延べ件数となる。

男女共同参画の意識向上・取組	
男女共同参画意識の向上・理解の醸成	43
多様性を認める・相互理解・協力・協調すること	19
男女共同参画の学習・意識改革	18
意見・意思の表明、受入れ	16
男女共同参画の取組への参加	7
これまでの慣習の排除	4
家庭での取組	
家庭での教育	20
家事・育児・介護の協力・負担軽減	14
ワーク・ライフ・バランスの実践	4
働く場での取組	
仕事を通じた貢献・成果・経済的自立	13
女性や高齢者が働きやすい社会づくり	11
対等な扱い・能力による対等な評価	9
ロールモデルとなる・相談に乗る	5
ワーク・ライフ・バランスの促進	3
就労環境の整備・職場での働きかけ	1
女性の活躍支援	
女性が積極的に活動・活躍する	7
リーダー的存在への女性の登用促進	3
社会・地域での取組	
地域での交流・支援・ボランティア	18
選挙・パブリックコメントへの参加	6
公的な施策の必要性に関する意見	
学校・社会教育の充実が必要	6
法制度の見直しが必要	5
子育て支援・介護支援が必要	2
その他	
できることはない・考えたことがない・わからない	37
経済的・意識上の自立	6
男女の違いを尊重すべき・性別による特性を生かすべき	3
その他	21



■ 具体的意見

記入された主な意見は次のとおりとなっている。なお、紙幅の都合により、一部簡略化しているものもある。

【男女共同参画の意識向上・取組】

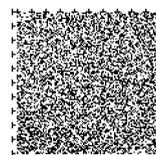
- ・周囲に惑わされず、男女は平等であると考え、暮らしていくこと。
- ・社会の対等な構成員としていくためには、男女ともに意識を変えなければいけないと思う。それぞれの権利ばかりを主張しては何もはじまらない。お互いに尊重しあって歩み寄る姿勢が大切だと思う。
- ・「あの人は男なのに・・・」など他人を見るときに性別から入らないようにする。その相手のパーソナリティと向き合うようにする。
- ・人権の尊重、男女平等、公平の啓もう。
- ・今回の様に考える機会を作る。自らの意思や意見を発信する。
- ・まずは書籍や人権講演会などに参加したりして、自分なりの勉強、意識づけ。それから周り（家庭・友人・職場）への働きかけ。
- ・日本の昔から根付いている、慣習を取り除く必要がある。

【家庭での取組】

- ・家庭内における役割の見直し、固定概念を持たないこと。
- ・家庭内役割の分担と子どもへの教育。
- ・家庭で、男女は平等であることを生活の中で教える。
- ・家事の負担軽減。
- ・家族及び身近な人への協力。
- ・ワーク・ライフ・バランスをもっと実現し、家庭に協力する。

【働く場での取組】

- ・働く楽しさを広める、協力しあう。
- ・女性が安心して働ける環境の実現、保育園や学童を充実させるとともにそこで働く人の待遇を良くすることを伝えていくこと。
- ・女性が働きたいと思う環境作り。
- ・自分が女性だからという理由で働く意欲を失わないようにすること。
- ・子育てに伴う退職など社内で相談を受けた場合は積極的に相談に乗り、又上長などに働きかけをし、相談者が退職せずに済む方法を共に考えていきたい。
- ・働く女性のロールモデルになること。育児、介護が必要な人をサポートする働き方をすること。
- ・後輩の悩みをきく。セクハラやパワハラがあったら相談にのり、しかるべき機関に訴える。
- ・その人の能力、経験、資格（検定等の）をふまえて、年齢、性別で差別をしない企業の姿勢が必要。
- ・男性も子育てに参加しやすい職場環境をつくる。
- ・まずは男性が家庭にいる時間をふやすよう企業が変わらないとこの状態はかわらないと思う。



【女性の活躍支援】

- ・自分自身が積極的に社会で活躍する。
- ・女性も積極的に社会へ貢献していくこと。

【社会・地域での取組】

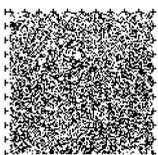
- ・日々の生活の中で地域活動の協力と友人、知人との交流を持ち明るく健康な生活を過ごすことができると思っています。
- ・今後お年寄りや障がいのある人のためのボランティア活動に参加すること。

【公的な施策の必要性に関する意見】

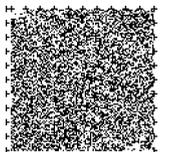
- ・議員選挙等がある場合の積極的な投票。
- ・情報提供や総合相談、交流など女性就労支援を行う拠点施設の充実。
- ・法律や教育など様々な環境整備が必要。
- ・会社に法律で強制的に促していくしかないと思う。

【その他】

- ・1人1人が人をたよって生きるのではなく男性も女性も自立する。
- ・自分自身の経済的自立。



調查票



ともに生きる社会の実現をめざして

～ 男女共同参画に関する市民意識調査～

《 アンケートへのご協力をお願いします 》

市民のみなさまには、日頃から藤沢市政の推進にご協力いただき、誠にありがとうございます。

本市では、あらゆる分野での男女共同参画を進めるため、平成28年3月に「ふじさわ男女共同参画プラン2020」を改定し、男女共同参画社会実現に向けたさまざまな取組を行なっております。

このたびは、次期ふじさわ男女共同参画プランの策定や施策推進の基礎資料とするため、近年課題とされている性の多様性について等の設問を追加した「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することになりました。

対象は、市内に住民登録をされている18歳以上（10月1日現在）の方で、住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。

ご多忙のおり大変恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本調査のご回答は統計的に処理され、個別の回答結果が公表されることはありません。

2018年（平成30年）11月

藤沢市長 鈴木恒夫

《 ご記入にあたって 》

- ◆ 調査の回答時間は、おおよそ20～30分です。
- ◆ この調査票は、あて名の方ご自身の判断でご記入ください。
- ◆ お答えは、あてはまる回答の番号に○をお付けください。「その他」を選ばれた場合は、お手数ですが、（ ）内にその内容を具体的にご記入ください。
- ◆ ご自身に該当しない設問の場合、一般的なこととしてご自身ならどうするかをお答えください。
- ◆ お答えによっては、質問を飛ばしていただく場合があります。その場合は、指示文に従ってお進みください。
- ◆ ご記入いただきました調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手不要）にて、11月30日（金）までにご投函ください。

《 記入上ご不明な点、調査に関するお問い合わせ先 》

藤沢市役所 企画政策部 人権男女共同平和課 男女共同参画担当

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1 Tel 25-1111（内線2131）

（問い合わせは祝日を除く月～金曜日 8：30から17：00まで）

Q7

あなたは、次あげる家庭における役割にどの程度たずさわっていますか。

((1)~(7)の各項目につき○は1つ)

また、「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」と答えた方は、普段1日に何分ぐらいしているかお答えください。日により異なる方は、週全体の平均をお答えください。

	いつも している	ときどき している	少し している	全く していない	1日にして いる 時間(分)
(1) 掃除	1	2	3	4	
(2) 洗濯	1	2	3	4	
(3) 食事の支度	1	2	3	4	
(4) 食事の後片付け	1	2	3	4	
(5) 買物	1	2	3	4	
(6) 子育て (子どもがいる人のみ)	1	2	3	4	
(7) 介護・看護(対象者がいる人のみ)	1	2	3	4	

■C. 仕事と家庭の両立についておたずねします

Q8

あなたは現在職業をもっていますか。(○は1つ)

- 1. 職業をもっている▶ Q8-1 へお進みください
- 2. 以前は職業をもっていたが、現在はもっていない▶ Q9 へお進みください
- 3. いままで職業をもったことがない▶ Q10へお進みください

Q8で「1. 職業をもっている」とお答えの方におたずねします。

Q8-1 あなたの就業形態は、次のどれに該当しますか。(○は1つ)

- 1. 自営・会社経営
- 2. 家族従業員
- 3. 管理職・会社役員
- 4. 正社員・正職員
- 5. パートタイマー
- 6. 契約社員・派遣社員
- 7. 臨時・アルバイト
- 8. 内職
- 9. その他 (具体的に :)

Q8-2 あなたの一日平均の実労働時間はどれくらいですか。(○は1つ)

- 1. 3時間未満
- 2. 3時間以上～5時間未満
- 3. 5時間以上～7時間未満
- 4. 7時間以上～9時間未満
- 5. 9時間以上

Q8-3 あなたの通勤時間はどれくらいですか。()にご記入ください。

通勤時間 (往復) 約 () 分

Q7

あなたは、次にあげる家庭における役割にどの程度たずさわっていますか。

((1)~(7)の各項目につき○は1つ)

また、「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」と答えた方は、普段1日に何分ぐらいしているかお答えください。日により異なる方は、週全体の平均をお答えください。

	いつも している	ときどき している	少し している	全く していない	1日にして いる 時間(分)
(1) 掃除	1	2	3	4	
(2) 洗濯	1	2	3	4	
(3) 食事の支度	1	2	3	4	
(4) 食事の後片付け	1	2	3	4	
(5) 買物	1	2	3	4	
(6) 子育て (子どもがいる人のみ)	1	2	3	4	
(7) 介護・看護 (対象者がいる人のみ)	1	2	3	4	

■ C. 仕事と家庭の両立についておたずねします

Q8

あなたは現在職業をもっていますか。(○は1つ)

- 1. 職業をもっている▶ Q8-1 へお進みください
- 2. 以前は職業をもっていたが、現在はもっていない▶ Q9 へお進みください
- 3. いままで職業をもったことがない▶ Q10へお進みください

Q8で「1. 職業をもっている」とお答えの方におたずねします。

Q8-1 あなたの就業形態は、次のどれに該当しますか。(○は1つ)

- 1. 自営・会社経営
- 2. 家族従業員
- 3. 管理職・会社役員
- 4. 正社員・正職員
- 5. パートタイマー
- 6. 契約社員・派遣社員
- 7. 臨時・アルバイト
- 8. 内職
- 9. その他 (具体的に :)

Q8-2 あなたの一日平均の実労働時間はどれくらいですか。(○は1つ)

- 1. 3時間未満
- 2. 3時間以上～5時間未満
- 3. 5時間以上～7時間未満
- 4. 7時間以上～9時間未満
- 5. 9時間以上

Q8-3 あなたの通勤時間はどれくらいですか。()にご記入ください。

通勤時間 (往復) 約 () 分

Q8-4

妊娠中及び産前産後の休暇、育児休業、病児のための看護休暇、介護休暇・介護休業を取得したことがありますか。または、取得したいと思いますか。((1)～(5)の各項目につき○は1つ)

	取得したことがある	取得したい	取得したいが取得できない	取得するつもりはない	制度がない	わからない
(1) 妊娠中及び産前産後の休暇 (女性のみ)	1	2	3	4	5	6
(2) 配偶者出産休暇 (男性のみ)	1	2	3	4	5	6
(3) 育児休業	1	2	3	4	5	6
(4) 病児のための看護休暇	1	2	3	4	5	6
(5) 介護休暇・介護休業	1	2	3	4	5	6

Q8-4-1

Q8-4 で1つでも「取得したことがある」とお答えの方におたずねします。

取得時の勤務先の対応はどうでしたか。(○は1つ)

また、勤務先の対応や職場の雰囲気などをよろしければ具体的に記入してください。

取得する前

1. 勤務先は休暇・休業取得に協力的だった
 2. 勤務先は休暇・休業取得に協力的ではなかった
- 〔具体的に: 〕

取得中
(休暇・休業中)

1. 勤務先から復職に向けた情報提供や講習等働きかけがあった
 2. 勤務先からの働きかけはなかった
- 〔具体的に: 〕

取得後

1. 復職・復職後の就労に関して問題はなかった
 2. 復職・復職後の就労に関して何らかの不利益を被った
- 〔具体的に: 〕

Q9

Q8で「2. 以前職業をもっていたが、現在はもっていない」とお答えの方におたずねします。

あなたが、以前の職業をやめたのはなぜですか。(○は3つまで)

1. 健康や体力の面で不安があったから
2. 家事・子育て・介護の役目を自分が担わざるを得なかったから
(主な理由→ ①家事、②子育て、③介護)
3. 家事・子育て・介護に専念したかったから
(主な理由→ ①家事、②子育て、③介護)
4. 育児休業(休暇)や介護休業(休暇)などの制度が不十分だったから
5. 家族や周囲が働くことを望まなかったから
6. 仕事が自分の能力や性格に合わなかったから
7. 勤務場所、勤務時間、賃金などの勤務条件が合わなくなったから
8. 会社の倒産やリストラなどで仕事がなくなったから
9. 自分が働かなくても、他の家族の収入で充分だったから
10. 結婚したから
11. 定年退職したから
12. その他 (具体的に:)

Q10

自らの能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)

1. パートでも社員でも同一価値労働は、同一賃金にする
2. 労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活(家庭や地域)の調和がとれるようにする
3. 職場の意思決定の場に女性をもっと参画させる
4. 補助的な仕事を女性だけにさせるような性別での役割分担をなくす
5. 出産、育児、介護に関わる休業・休暇を男女とも取りやすくする
6. 職場でセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント防止の人権教育をしっかりと
7. セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントなどを安心して訴えることのできる相談窓口の充実を図る
8. 昇級・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする
9. 企業などに男女共同参画についての啓発事業を行う



「仕事と介護を両立できる職場環境」の整備促進のためのシンボルマーク トモニン

育児休業・育児休暇と介護休業・介護休暇について

働く人が仕事と子育てや介護を両立できるように、一定期間の休業や休暇を取ることができるように法律*で定められています。

育児休業は、子どもが最長2歳まで父親も母親もとることができる休業制度です。**育児休暇**は、子どもが病気の時に取ることができる看護休暇や配偶者出産休暇など法律で規定されている休業以外の休暇のことを指します。そのほか、労働基準法で定められている**産前産後休業(産休)**があります。

介護休業は、通算して93日に達するまで3回を上限として分割取得可能な休業、**介護休暇**は1年度内に5日間取得可能な休暇です。

*育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法)

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現した社会とは「一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」のことです。

Q11

政府では「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現した社会」について、以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目がおおよそ5年前と比較してどのように変化していると思いますか。((1)~(3)の各項目につき〇は1つ)

	思う 良くなると	良くなると 思いますが どちらかといえば	変わらない と思う	悪くなると 思いますが どちらかといえば	悪くなると 思う	わからない
(1) 就労による経済的自立が可能な社会 経済的自立を必要とする者とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。	1	2	3	4	5	6
(2) 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会 働く人々の健康が保持され、家族・友人などの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などをもてる。	1	2	3	4	5	6
(3) 多様な働き方・生き方が選択できる社会 性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力をもってさまざまな働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。	1	2	3	4	5	6

働く人が仕事と育児や介護を両立できるように支援する「改正育児・介護休業法」では、働く人は、子育て中に原則子どもが1歳になるまで男女ともに「育児休業」を取得することができ（最長で2歳まで延長可能）、介護が必要な人がいる場合には、「介護休暇」及び「介護休業」を取得することができるとしています。

Q12 平成29年の育児・介護休業法改正で、「介護休業」(93日まで)はこれまで1回限りでしたが、3回まで分割取得が可能になり、「介護休暇」(1年度に5日まで)はこれまで1日単位でしたが、半日単位で取得することが可能になりました。これらの制度改正を知っていましたか。(○は1つ)

- 1. 知っていた →制度改正の内容を知った場所や媒体を記入してください。
- 2. 知らなかった { 具体的に: }

Q13 男女ともに育児休業や介護休業の取得が進まないのはなぜだと思いますか。(○は3つまで)

- 1. 制度の趣旨が分かりにくいから
- 2. 手続きの仕方が分かりにくいから
- 3. どこに相談したらよいか分かりにくいから
- 4. 経済的な保障がないから
- 5. 取得日数の制限があり、長期化に対応できないから
- 6. 職場で不利益を受けるから
- 7. 会社の制度が使いにくいから
- 8. 家族(特に女性)が面倒をみるべきだという社会通念があるから
- 9. 男性が休業することに対する近親者やまわりの目があるから
- 10. その他(具体的に: _____)

Q14 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは何ですか。(○は3つまで)

- 1. 家事・育児や介護に関する知識や技術の習得
- 2. 家族間の理解を深める
- 3. 仕事優先の考え方を見直す
- 4. 子どもの頃からの育て方や教育
- 5. 仕事以外の時間を多くもてるようにする
- 6. 育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境
- 7. 男女で異なる賃金体系を是正し、育児・介護休業取得による男女間の経済的影響の差をなくす
- 8. 柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態
- 9. 男性が家事などを行うことについて、社会的評価を高める
- 10. 地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす
- 11. 男女ともに参加できる子育て・介護などの仲間(ネットワーク)づくり
- 12. 家庭と仕事の両立について、男女ともに相談しやすい窓口の設置
- 13. その他(具体的に: _____)

■D. 女性の活躍推進についておたずねします

Q15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 男女問わず意欲のある人材が活躍できるようになる
5. 男女問わず仕事と家庭のバランスのとれた生活ができるようになる
6. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
7. 男性の家事・育児・介護などへの参加が増える
8. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
9. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
10. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する
11. 国際社会から好印象を得ることができる
12. その他（具体的に: _____)
13. 特にない
14. わからない

Q16 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーが増えるために必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

1. 必要な知識や経験などを持つ女性が増えること
2. リーダーになることを希望する女性が増えること
3. ロールモデルとなる女性のリーダーが増えること
4. 職場の上司・同僚・部下や顧客が女性リーダーを必要とすること
5. 長時間労働が改善されること
6. 企業などで、広域異動を伴わない管理職ポストが増えること
7. 夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること
8. 保育・介護など公的サービスが充実すること
9. その他（具体的に: _____)
10. 特にない
11. わからない

■E. 社会参画についておたずねします

Q17 あなたは、この1～2年の間に、以下のような活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

1. 子ども・青少年育成に関する地域での活動
2. PTAなどの活動
3. 育児支援のための活動
4. 町内会や自治会などの活動
5. リサイクル、共同購入などの消費者活動
6. ビーチクリーンや街の緑化・美化活動などの活動
7. お年寄りや障がいのある人のための福祉・ボランティア活動
8. 消防団等の自主防災活動
9. 地域での自主的なグループ・サークル活動
10. 災害ボランティア
11. 民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどでの活動
12. 市の講座や市主催の活動
13. 男女平等・共同参画に関する活動
14. DV(ドメスティック・バイオレンス)防止・被害者支援のための活動
15. その他の活動（具体的に: _____)
16. どれにも参加したことがない

Q17-1

Q17で「16. どれにも参加したことがない」とお答えの方におたずねします。

あなたが活動をしていないおもな理由は、どのようなことでしょうか。(○は3つまで)

1. 仕事をしている
2. 子どもに手がかかる
3. 家族の介護がある
4. どんな活動があるか情報がない
5. 人間関係がわずらわしい
6. 関心がない
7. 身近に活動したい団体がない
8. その他(具体的に:)

Q18

さまざまなボランティア活動や地域活動により多くの市民が参加するには、何が必要だと思いますか。

(○は3つまで)

1. 広報紙などによる活動内容の情報提供
2. 活動を呼びかける啓発
3. 活動につながる学習機会を設ける
4. 労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる
5. 職場や学校でボランティア活動等の大切さを教える
6. 一緒に参加する仲間をつくる
7. ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする
8. 代表や会長職に就く女性を増やす
9. ボランティア休暇等を気軽に取得できるような職場等の環境
10. その他(具体的に:)

■ F. 性の多様性についておたずねします

からだの性と性自認が異なる人、性的指向が同性(あるいは両性)に向いている人などを、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)と呼ぶことがあります。セクシュアル・マイノリティを表す言葉として、LGBT等があります。LGBTは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字を組み合わせた言葉です。その他にも、恋愛感情や性愛の感情を抱かないアセクシュアル、自身の性別や性的指向を分類できないと考えるクエスチョニングや、身体的に男女の区別をつけにくいインターセックス、性自認を男女のいずれかと認識しないXジェンダーなど、多彩なセクシュアリティが存在します。

Q19

あなたはセクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

Q20

あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)に悩んだり、あるいは身近で悩んでいる人がいましたか。(○はいくつでも)

1. 自分が悩んだことがある
2. 知人や家族が悩んでいたことがある
3. 特にない

Q21

現在、セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

1. 思う
2. どちらかといえば思う
3. どちらかといえば思わない
4. 思わない

Q21-1

Q21で「1. 思う」「2. どちらかと言えば思う」とお答えの方におたずねします。セクシュアル・マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思えますか。(○は2つまで)

1. 行政が市民等へ周知啓発を行う
2. 相談窓口等を充実させ、周知する
3. 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
4. 法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する
5. 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
6. 企業などが、働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
7. 学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える
8. わからない
9. その他 (具体的

)

■ G. 男女の人権についておたずねします

Q22 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性表現・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。((1)～(4)の各項目につき○は1つ) また、その他にご意見がありましたら、(5)の欄にご記入ください。

	非常に そう思う	やや 思う	あまり 思わない	思わ ない
(1) 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	1	2	3	4
(2) 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	1	2	3	4
(3) 女性に対する犯罪を助長する恐れがある	1	2	3	4
(4) そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない	1	2	3	4
(5) その他 (具体的に:)			

Q23 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間でおこなわれた場合、それを暴力だと思えますか。((1)～(14)の各項目につき○は1つ)

	暴力に あたる	暴力にあたる場 合もそうでない 場合もある	暴力には あたらない	わからない
(1) 何を言っても無視する	1	2	3	4
(2) 交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する	1	2	3	4
(3) 外出しないように言う	1	2	3	4
(4) 大切にしているものをわざと壊す・捨てる	1	2	3	4
(5) 「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言	1	2	3	4
(6) 殴るふり、怒鳴るなど脅す	1	2	3	4
(7) 医師の治療は必要ない暴力	1	2	3	4
(8) 医師の治療が必要となるほどの暴力	1	2	3	4
(9) 命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4
(10) 見たくないのにポルノ等を見せる	1	2	3	4
(11) 避妊に協力しない	1	2	3	4
(12) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
(13) 生活費を渡さない	1	2	3	4
(14) 子どもの前で激しい喧嘩をする	1	2	3	4

Q24 あなたは、「デートDV(交際相手からの暴力)」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. 言葉も、その内容も知っている
2. 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3. 言葉があることを知らなかった

Q25 あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。((1)～(15)の各項目につきあてはまるものすべてに○) また、項目にない行為については、(16)の欄にご記入ください。

	受けたことがある	したことがある	見聞きしたことがある	相談を受けたことがある	自分のまわりにはないと思う
(1)いやがっているのに、性に関する話を聞かせる	1	2	3	4	5
(2)「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言をする	1	2	3	4	5
(3) 仕事中に異性の身体を触る	1	2	3	4	5
(4) 宴会でお酌やデュエットを強要する	1	2	3	4	5
(5) 上司が地位を利用した性的誘いをする	1	2	3	4	5
(6) 性的な噂話などによって、職場に居づらくする	1	2	3	4	5
(7) 仕事に関係のない食事にたびたび誘う	1	2	3	4	5
(8) 結婚の予定や出産予定をたびたび聞く	1	2	3	4	5
(9) 容姿について繰り返し言う	1	2	3	4	5
(10) 帰宅途中、後をつける	1	2	3	4	5
(11) 性的な内容のメールやメッセージ・電話をする	1	2	3	4	5
(12) ヌード写真などを職場に貼る、見せる	1	2	3	4	5
(13) 「お前の仕事のできは最悪だ」「クビを覚悟しろ」と頭ごなしに罵倒される	1	2	3	4	5
(14) 挨拶をしても自分だけ無視される	1	2	3	4	5
(15) きちんと仕事を与えてもらえない	1	2	3	4	5
(16) その他 ()	1	2	3	4	5

Q26 あなたは、配偶者・恋人から、次のような暴力を振るわれたり、あるいは配偶者・恋人に暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはありますか。((1)～(14)の各項目につきあてはまるものすべてに○)

	振るわれたことがある	振るったことがある	見聞きしたことがある	自分のまわりにはないと思う
(1) 何を言っても無視する	1	2	3	4
(2) 交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する	1	2	3	4
(3) 外出しないように言う	1	2	3	4
(4) 大切にしているものをわざと壊す・捨てる	1	2	3	4
(5) 「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言	1	2	3	4
(6) 殴るふり、怒鳴るなど脅す	1	2	3	4
(7) 医師の治療は必要ない暴力	1	2	3	4
(8) 医師の治療が必要となるほどの暴力	1	2	3	4
(9) 命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4
(10) 見たくないのにポルノ等を見せる	1	2	3	4
(11) 避妊に協力しない	1	2	3	4
(12) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
(13) 生活費を渡さない	1	2	3	4
(14) その他 ()	1	2	3	4

Q27

Q25でセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを「1. 受けたことがある」、ならびにQ26で暴力を「1. 振るわれたことがある」とお答えの方におたずねします。
あなたは、このような行為を受けていることについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○は1つ)

- 1. 相談した▶ Q27-1 へお進みください。
 - 2. 相談しなかったが、しなかった
 - 3. 相談しようとは思わなかった
- } 2、3とお答えの方はQ27-2にお進みください。

Q27-1

Q27で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします。
実際に、どこ(だれ)に相談しましたか。(○はいくつでも)

- 1. 家族
- 2. 友人・知人・同僚
- 3. 同じ経験をした人
- 4. 家庭裁判所・弁護士・警察など
- 5. 公的機関(相談窓口、電話相談)
- 6. 医師・カウンセラーなど
- 7. 民間の機関など(NPOなどの民間支援グループ)
- 8. その他 ()

Q27-2

Q27で「2. 相談しなかったがしなかった」、「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えの方におたずねします。
どこにも相談しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1. どこに相談したらよいかわからなかったから
- 2. 周りに相談する人がいなかったから
- 3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 4. 相談しても無駄だと思ったから
- 5. 相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
- 6. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから
- 7. 他人を巻き込みたくなかったから
- 8. 身内に危害が及ぶと思ったから
- 9. 自分にも悪いところがあると思ったから
- 10. 相談するほどのことではないと思ったから
- 11. その他(具体的に:)

藤沢市では、「ふじさわDV防止・被害者支援計画」を策定し、市民に最も身近な行政機関として、配偶者や恋人・家族等からの暴力(DV)の防止と被害者に対するきめ細かで切れ目のない支援を行っています。

Q28

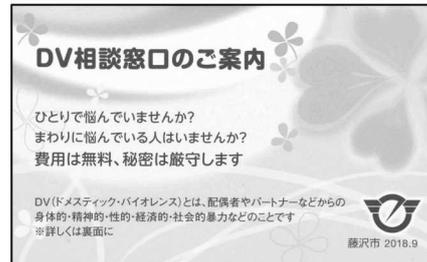
あなたは、DV等の相談先として次のような窓口をご存じですか。(○はいくつでも)

【藤沢市の相談窓口】	1. 福祉事務所 2. 福祉総合相談支援センター 3. 人権相談
【神奈川県相談窓口】 (配偶者暴力相談支援センター)	4. 女性のための相談窓口 5. 女性への暴力相談“週末ホットライン” 6. 多言語による相談 7. 男性被害者相談 8. DVに悩む男性のための相談窓口
【横浜地方法務局の相談窓口】	9. 横浜地方法務局“女性の人権ホットライン”
【神奈川県警察本部】	10. 警察総合相談室 11. 女性・子どものための相談(ストーカー・DV等) 12. 性犯罪被害110番
【神奈川人権センター】	13. DVに悩む男性のための電話相談

藤沢市では、相談先一覧を載せた「DV相談窓口案内カード」を作成し、市内公共施設・百貨店・デパート等のトイレに配架し、また街頭配布もしています。

Q29 あなたは、「DV相談窓口案内カード」をご存じですか。(○は1つ)

1. もらったことがある
2. 見たことがある
3. 聞いたことがある
4. 知らない



Q30 DVを防ぐには、どのようにしたらよいとお考えですか。(○は3つまで)

1. 家庭内でも男女は対等であることの教育を推進する
2. あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う
3. 地域のつながりを深め、互いに見守れる社会をつくる
4. 暴力は人権侵害であるという広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察・医療関係などに対し、研修や啓発を行う
7. 加害者が相談できる身近な窓口を設置する
8. 加害者に対し、再発防止のための教育を行う
9. 加害者への罰則を強化する
10. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
11. その他(具体的に: _____)

■H. 男女共同参画に必要な施策についておたずねします

藤沢市では、「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」を発行し、市内公共施設、郵便局、銀行、農協等に配架しています。

Q31 あなたは、「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」をご存じですか。(○は1つ)

1. 読んだことがある
2. 知っているが読んだことはない
3. 知らない



Q36-1

Q36で「1. している(事実婚を含む)」とお答えの方におたずねします。

あなたの配偶者(パートナー)は、現在働いていますか。

1. 働いている
2. 働いていない

Q36-2

Q36-1で 配偶者(パートナー)が「1. 働いている」とお答えの方におたずねします。

どのような雇用状態ですか。

1. 正規雇用
2. 非正規雇用
3. 自営業

Q37

あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(〇は1つ)

1. 同居している子どもがいる
2. 子どもはいるが同居していない
3. 子どもはいない

Q37-1

Q37で「1. 同居している子どもがいる」とお答えの方におたずねします。

一番下のお子さんの年齢区分をお答えください。(〇は1つ)

1. 就学前
2. 小学生
3. 中学生
4. 中学卒業以上で未成年
5. 成人

Q38

同居のご家族で介護が必要な方はいらっしゃいますか。(〇は1つ)

1. 介護が必要な家族と同居している
2. 介護が必要な家族がいるが同居していない
3. いない

Q39

あなたが現在一緒にお住まいのご家族(パートナー等を含む)の構成は、次の中のどれにあたりますか。

1. ひとり暮らし
2. 配偶者・パートナーのみ(事実婚含む)
3. 親と子ども(核家族世帯)
4. 親と子どもと配偶者・パートナー(二世帯世帯)
5. 親、子ども、配偶者・パートナーと孫(三世帯世帯)
6. その他()

ご協力ありがとうございました。

藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

2019年（平成31年）3月

藤沢市企画政策部人権男女共同平和課

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1

電話 0466-25-1111(代表)

